最も必要なりと云はざるべからず、是に反してジョージ第三世の第八號法律は傭主等の利益の爲に設けられたり、傭主等が其職工の賃金を低減せんと欲する時は、彼等は私かに同盟して、或罰則の下に、何程以上の賃錢を支拂はざるべしとの規約をなすを常とす、然るに若し職工勞働者にして、是と同樣の同盟を作り、規定以下の賃錢にては働かずと團結するものあらば、法律は必ず是に干渉して是を禁ずるなり、是れ不公平の所置なりと云はざるべからず、若し雙方に公平ならんと欲せば、等しく傭主等の同盟をも禁せざるべからざるなり。然るにジョージ第三世の法律は傭主等が團結に依りて其目的を達せんと欲する所のものを政府の法律に依りて規定するなり、其傭主等に取りて便利なるは勿論なれども、勞働者職工等が是に對して、是れ技倆卓絶の職工と普通の職工とを同樣の待遇に置かんとする者にして、不都合不公平の極なりと云ふは、蓋し至當の論なりと云はざるべからず。

又た古代にありては、食料品其他の物品の代價を公定して、商人其他の從業者

の利益を制限せんとせること屢、なりき、余の知る所を以てすれば、此種の法律の今日に現存せるはパンの代價の規則以上に上すべからざること是なり、獨占的組合の存在する限りは、一方に於て日用品の代價を規定せんことは必要のことなるべけれども、斯る組合なき所にては、自然の競爭に一任したらん方、人爲の法律よりも、遙かに有効の結果を齎らすべきなり。……

異種の職業に使用されたる勞力と資本に對する給料及利益の比例は、前に述べし如く、其社會の貧富若くは進歩的なると、退歩的なるとに由りて影響を受くること少し。斯る社會の變動は給料と利益の一般價格に影響を與ふること勿論なりと雖も、遂には凡ての異なる産業間に於て平均せられざるべからず。故に其間の比率に至りては、斯る變動のために影響せらるゝこと少し。少くとも相當時期の間其影響を持續するが如きことなきなり。

第十一章　地代論

土地の使用料なる地代は、借地人が其土地の情況に於て拂ひ能ふ最高の借地料なり。借地の契約を訂結するに當り、地主は其土地の生産物中より、借地人が食料を支辨すべき資本を除去し、其勞働者の給料を支拂ひ、家畜及農業器具を購買し、且つ是を保持するの費用と、其地方に於ける農業の普通利益とを控除したる殘額をば地代として受取らんことを勉むるならん。而して是れ實に借地人が損失することなくして、壞へ能ふ最少額の所得なりとす。土地の生産物中より、借地人のために以上の分け前を引去りたる後に餘剩あらば、其如何なる性質なるかを問はず、地主は是を地代として自ら收得せんことを勉む而して是れ實に借地人が土地の情況に隨ひて地主に拂ひ能ふ最高の代價なりとす。尤も時としては地主の寬大なるがため、時としては智識を缺くがために、是より以下の收得を以て滿足することなきにあらず。是と同樣に時としては借地人の無智識のために、以上の割前以上を拂ふこと、即ち其附近に於ける普通の農業利益以下の收入を以て滿足することなきにあらず。而かも是れ固より稀布のことなりとす。然れども借地人の無智識のために地主に與ふる此部分すらも、自然の地代、即ち是を得んがために最多くの土地の貸與さるゝ地代なりと思惟せらるゝことなきにあらず。

地代とは地主が其土地の改良のために投じたる資本に對する相當の利益に過ぎずと思考するもの屢、是れあり。勿論或場合に於ては、地代の一部分は斯の如き資本の利益に過ぎざることあり、然れども斯の如きは慥かに其一部分に過ぎず。地主は更に人工を加へざる土地に對しても地代を請求するなり。彼の資本の利益と云ふが如きは此元本的地代の附加物に過ぎざるなり。加之、土地の改良は常に必ずしも地主に依りてなされず、時としては借地人に依りて爲さるゝことあり、然れども借地契約を新たにせんとするに當りては、一切の改良の悉く地主に依りて爲されたりとするものゝ如く、地主は是に對する增額を要求するを常とす。

又た地主は時として全く人力の加へ能はざる所に對して地代を要求するこ

とあり。「ケルプ」は海草の一種類にして、是を燒てアルカリ鹽を製し、玻璃、石鹸其他の材料に用ゆべし。英國の諸方に生ずれども、殊に蘇格蘭土に多し。海中にありて、毎日二度宛海水を以て覆はるゝ巖石に生ずるものなれば、人工を以て是を增殖せしむるに由なし。然れども「ケルプ」を生ずる海岸に接する土地の所有者は、恰かも田畑に對すると同樣是が地代を徵收するなり。……

故に土地の使用料と思惟されたる地代は、自然に一の獨占的代價たるを免かれず。されば固より地主が其土地の改良のために投じたる資金に比例せざるは勿論、又た彼れが徵收し得る所に由らず、只だ農夫等が與ふる能ふ所に由りて決するなり。

通常市場に持ち來さるゝ土地の生産物は其の普通の代價により生産物を市場に持ち來るに要する資本を辨償するに足る而已ならず、普通の利益をも收め得るものに限るなり。若し其の普通代價にして、是より以上ならば其の餘剩は自然に地代とならざるべからず。若し其の以下ならば、縱し物品は市場に持ち來さるゝとするも、地主に與ふべき地代はあることなし。而して此の代價が其の以上なると以下なるとは全く需要の如何に依りて決するものなりとす。

土地の生産物の或ものに對する需要は常に其物品を市場に持ち來すに充分なるよりも大なる代價を與ふるなり。而して他のものは斯の如き大なる代價を得ることもあるべく、又た是を得ざることもあるべし。前者は常に地主に向て地代を拂はざるべからず。後者は其事情に隨て或は是を拂ひ得ることあり、或は拂ひ得ざることあり。

故に地代が物品代價の構成分たるは、給料及び利益の場合に於けると趣きを異にするものあり。給料と利益の高低は物價の高低の原因たり、然れども地代の高低は其結果なり。其物價に高低あるは、或物品を市場に持ち來さんがために要する給料と利益の高低に因るなり。然れども地代に高低あり、時としては全く地代なきことあるは、其物價が給料と利益を引去りて後、猶充分の餘剩あ

りや、僅かの餘剩に過ぎざるが、或は全く是れなきかの事情に依りて定まるなり。……

地代の原因なる土地の生産物

人間も他の動物と等しく、其生活の便宜に比例して繁殖するが故に、食物は、多少の別はありと雖も、常に必ず缺くべからざるなり。故に食物を得んがために、或種類の勞働分量を購買するの能力を有すれば、食物を得んがために、或種類の勞働に從事せんことを希望する人間を到る所に發見するを得べし。食物によりて購買し能ふ勞力の分量は、必ずしも其食物によりて維持せられ得る所と同じからず、若し經濟的に處理したらんには、其勞働に必要なる食物の料を拂ひて尙餘裕あることを得べし。兎に角最も確かなる一事は、其地方に於て同種の勞力を支持するに必要なる普通の相場に隨て、食物が支持し能ふ丈けの勞力の分量を購買し得ること是なり。

然れども土地は、何處に於ても、食物を市場に持ち來すに必要なる一切の勞力を支持して尙充分に餘裕ある丈けの生產を有す。而して其餘裕は是に使用したる資本と、相當の利益とを控除して尙餘りあるを常とす。故に常に必ず地主の收入たるべき地代を存するなり。

那威及蘇格蘭の荒地に於て一種の牧草を生ずる所あり、是より生產する牛乳と家畜の繁殖は、是に從事する勞働者の給料を支拂ひ、農夫若くは其牛羊の持主に相當の利益を與へたる上、尙地主に對して多少の地代を拂ふことを得べしと云へり。……

地代は土地の肥瘠に依りて異なるのみならず、其肥瘠の如何に關らず、又た其位置によりて大なる相違あり、都會の附近にある土地は、僻遠の場所にある同樣の土地よりも遙かに大なる地代を生出するなり。是を耕耘するの勞に至りては二者の間に何等の相違なしと雖も、其生產物を市場に持ち來す上に於て大なる相違あり。是がために多くの勞力を要するが故に、農夫の利益と、地主の地代たるべき部分は勢ひ低減せざる能はずされども前に既に論述せるが如

く、利潤の比率は僻遠の地に於ける方、都會附近よりも高きが故に、此低減のために、地主はより多くの影響を受けざるを得ざるなり。

平坦なる道路、運河、航運の便ある河川等は運送費を輕減することに由りて、僻遠の地方と都會附近の地方との相違を少くす。交通の便を開くは此點に於て凡ての改良中の最大なるものなりとす。是によりて都府より最も遠距離にある僻遠の土地も開拓され、其都會附近の地の獨占權を破毀することによりて。都會に向て大なる利益を與ふる而已ならず。都會附近の地方のためにも利益する所少からず。何となれば交通の便は彼等をして舊市場に於て互に競爭者たらしむれども、是と同時に其生產物のために多くの新市場を開くことを得べければなり。加之、獨占は事業整理の大敵なり。事業の整理は各人が自衛のためにする、自由にして一般的なる競爭の結果として來るなり。

中位の田畑は同反別の最上の牧場よりも、人間のために多くの食物を生產す。其耕作のために多くの勞力を要すれども、而かも種子と勞働賃金を引去りたる殘額は亦た隨て大なり。されども若し牛肉一斤はパン一斤よりも多くの價値を有すと想像されざらんか。此大なる餘剩は到る所に於て更に大なる價値を有すべく、而して農夫の利益と地代とを一層多からしむるなり。農業の初步の程度に於ては、是れ一般の社會に行はれたる實際なりき。

然れどもパンの代價と肉の代價との關係は農業發達の時期に隨て大に異なり。其初期に於ては、國中の大部分を占むる荒蕪の地は、凡て家畜の飼養に充てられたるを以て、肉の供給はパンよりも多く、人々パンを得んがために競爭したりしが故に、其代價は頗る高價なりき。……

是に反して國內の土地の大部分の耕作さるゝに迨びては肉よりもパンの供給多く人々の競爭は異なる方向に轉じ、肉の價はパンよりも高直となるなり。耕作の普及により、肉の需要に應せんがために荒蕪の土地の不足を告ぐるに至り、遂に開墾したる土地をも家畜の飼養に供するに至る。故に其代價は其飼養に從事する勞働者の給料を支辨するのみならず。地主に對する地代と、農夫

が其耕作によりて得べき利益を支拂ひ得るものならざるべからず。荒蕪地は開墾せられたる家畜も市場に於ては、其量と質とに隨ひ、開墾したる土地に飼育されたる家畜と同樣の價格にて賣却するを得べし。是に於てか斯る荒蕪地の所有者は其家畜の代價に比例して、其地代を騰貴せしむるなり。……

斯の如く土地の開發進歩するに隨ひ、開發せざる牧場の地代と利益は或程度迄開發せられたる牧場の地代と利益とにより左右され、開發せる牧場の地代と利益とは田畑の地代と利益とによりて支配さるゝなり。穀物は年々是を收穫することを得れども、肉類は是を成長せしむるに四五年の歳月を俟たざるべからず。されば「エーカー」の土地に於て生産さるゝ肉類は同樣の土地に生産する穀物よりも遙かに少量ならざるべからず。而して分量の小額なることは代價の高額なるによりて償はれざるべからず。若し是を償ふて尚餘りあらば、更に多くの田畑は變じて牧場となるべく、若し充分に是を償ふこと能はずば牧場の或者は再び荒の田畑に復歸すべきなり。

然れども牧草の地代と利益と、穀物の夫等との平均を換へて云へば、家畜の食物を生産する土地の地代と利益と、人間の食料を生産する、夫等との平均は、一國の耕地の大部分に於て行はるゝと云ふ而已、或特種の地方に於ては牧草の地代と利益の遙かに穀物の夫等に勝る所なきにあらず。

斯の如く大都會の附近に於ては、牛乳、牛肉、馬糧の高價なるがために、牧草の代價をして、穀物の代價に對する比例以上に高價ならしむることなきにあらず。時としては或特種の事情により、一國全體が恰かも大都會の附近の如く、其國民の需要を充足する丈の牧草と穀物とを生産する能はざることあり。斯る國に於ては、其土地の大部分は容積の大にして外國より輸入するに不便なる牧草の生産に用ゐられ、人間の食物なる穀物は外國の輸入を仰ぐを常とす。和蘭陀は現に斯の如き情態にあり。羅馬の盛代に於ける以太利の大部分も亦た斯の如き事情の下にありき。……

廣濶なる地方に於て主として穀物の耕作さるゝに當りては、一定の區劃を有

する牧場の方却て其附近の田畑よりも多くの地代を生ずることあり。是れ其地方の田畑に於て使用さるゝ家畜を維持するに必要なるがためなりとす。此場合に於ては其高價なる地代は田畑の場合に於けるが如く、爾かく正確に其生産物の價格より支拂はるゝ者にあらず。……

斯の如き地方的事情なき所に於ては、穀物及野菜の地代と利益とが、是等を生産するに適當なる土地に於ける牧場の地代と利益とを規定すること勿論なりとす。

人工によりて栽培せる牧草其他蕪、胡羅匐、玉菜等を家畜の飼養に用ゆる樣になして以來、自然の牧草而已を用ゐし時代に比すれば、同一の土地に於て、より多くの家畜を飼育し得ることゝなり、隨て開墾の行屆ける地方に於ては、肉價の殺價に對して有する優勝の度を多少輕減するの傾向あり。……

凡て大國に於ては開發されたる土地の大部分は、人間と家畜の食物を生産せんがために使用さるゝを常とす。而して是等の地代と利益とは、他の凡ての開墾されたる土地の地代と利益とを規定す。若し他の目的に使用されたる土地にして、穀物或は家畜を生産するよりも、其得る所の地代と利益少なければ、其土地は自然に田畑若くば牧場となるべく。是に反して其得る所の地代と利益田畑若くば牧場よりも多ければ、田畑若くば牧場の或部分は其利益多き生産のために使用さるゝに至らん。

斯る生産物を得んがためには概して、其土地を整理し、若くば改良せんがために、多くの元資を卸ろすを要し、然らざれば耕作のために年々多くの費用を投せざるべからず、故に表面より見れば、多くの地代と利益を得るに似たれども、其實是等の費用に對する相當の利息たるに過ぎざるもの多し。

「ハップス」、菓物、野菜等を栽培する方、地主の地代、農夫の利益共に、穀物及び牧草よりも多しと稱せらるれども、土地をして是等の生産に適せしめんがために、は、多くの費用を投せざるべからず。是れ地主に多くの地代の歸する所以に外ならず。而して是を生産せんがためには一層の手數と熟錬を要せざるべから

す。是れ農夫の利益の一層大なる所以に外ならず。而して「ハップス」及び菓物の收獲は穀物若くば牧草に比して一層不確實なるものあり、故に其代價は啻だ其費用を償ふに足るのみならず、又た一種の保險料を得ざるべからず。是種の栽培者の生活情態を見るに、概して中等以下にして富裕なるものあるを見ず。是れ彼等の熟錬の決して過當に報ゐられざる證據なりとす。是等の業務は頗る快心のものなるを以て、富者の自ら是に當り、其需要を充たすもの少からず、隨て是を職業とするもの、利益を低減せざるを得ざるなり。

地主が是等の土地の改良より得る所の利益は、是に要せる資本を回收するに足るのみにして、夫れ以上に上ること殆んど稀なり。……

尤も時としては或特種の生產物に適する土地に制限ありて、世間の需要に應ずる能はざることあり。此場合に於ては其生產物の全部共、地代、給料並に是を市場に持ち來すに要する相當の利益を支辨するに充分なるより以上の代價を甘んじて支拂ふ需要者によりて引き取らるゝなり、是時に當りては、土地の

改良耕作に要する全費用を控除したる殘額は、穀物及牧草に於ける同樣の殘額と比例せず、遙かに是に超過することあり。然れども斯の如きは只だ此特種の場合に限るなり、而して此剩餘の大部分は地代として地主の懷に入るなり、是を例すれば葡萄酒の釀造より生ずる地代、利益と、穀物、牧草の收獲より生ずる夫等との間の普通比準は、只だ其葡萄園の、砂地でさへあれば、他の如何なる場所にても生產し得べき普通の葡萄を產し、他に勝る何等の特長をも有せざる場合に限ることを記憶せざるべからず。普通の土地の競爭し得べきは只だ是種の葡萄園に限り、何等かの特色を有する葡萄園に至りては、到底普通の土地の競爭し得る所にあらざるなり。

葡萄は他の菓物に比して土地の影響を受くること最も大なり。或土地より生產するものは一種の香味を有し、如何に栽培の法に心を用ゐるも他の土地にては、到底是と同一のものを生產すること能はず。此特種の香味なるものは、實際にせよ、想像的なるにせよ、時としては二三の葡萄園に限らるゝことあり。

時としては一小地方の大部分に及ぶこともあり又た時としては一縣の大部分に及ぶこともあるなり。市場に持ち來されたる斯の如き葡萄酒の全額は實際の需要、即ち普通の葡萄園に於て拂はるゝと同樣の相場に隨ひて、是を市場に持來さんがために要する地代、利益、給料の全部を支拂はんとする需要者の要求を滿足せしむるに足らず。故に此種の葡萄酒の全額は夫れより以上の高價を支拂ふ人々に賣渡され、隨て其代價は普通の葡萄酒よりも遙かに高價とならざるを得ず。而して其高價の度に多少の相違あるは、其葡萄酒の世に愛好せらるゝ程度の如何と、其不足の程度如何とによりて、需要者の熱心の度を異にするに由る。何れにしても、其大部分は地代として地主の收入となるなり。蓋し斯の如き葡萄園は概して他の普通の葡萄園よりも一層綿密に耕作されども、而かも代價の高きは是が結果にあらずして、寧ろ其原因なりと云はざるべからず。斯る高價の生產物に於ては怠慢より生ずる損失は、頗る大なるを以て、何人も非常の注意を拂ふに至るなり。されば此高き代價の一小部分にて其栽

培に要する勞働者の給料と、勞働者をして働かしむるに要する資本の利益を支辨し得て餘りあるなり。……

人類の食物を生產するに使用せらるゝ開墾地の地代が、他開墾地の大部分の地代を左右する次第は斯の如き順序に依るなり。如何なる生產物も以上に述べたる平準以下の地代利益にて永續することあるべからず、何となれば其土地は直ちに他の一層有利なる方面に使用せらるればなり。若し如何なる生產物にても、此平準以上の利益を永く保持することありとせば、夫は特種の生產物に適したる土地に制限ありて、世間の需要に應ずること能はざるに依るなり。

歐洲に於ては土地の主要の產物は直接に人類の食物として供給さるべき穀物なり。故に特種の場合を除き、凡て開墾されたる土地の地代は、穀田の地代に依りて左右さる。されば英國は決して佛蘭西の葡萄園若くば伊太利の橄欖園を羨望するの要なし。特種の場合を除くの外、是等の價格は穀物の價格に由り

て支配され、而して穀物を産する土地の肥沃なるに至りては、英國は決して佛、伊の何れにも多く劣る所あらざるなり。……

製造業の進歩と製造品の實價との關係

製造業に於ける改良進歩の結果として、殆んど一切の製造品の實價は徐々に低落するものとす。機械の改良、技術の上達、一層完全なる分業法の適用等何れも以前よりは少量の勞力を以て、同一の作業を成就せしむ。されば一方に於ては、社會の繁榮に趨くに隨ひ、勞働の實價は漸次騰貴すれども、勞力低減の度は一層是よりも大なるがために製品の實價は益低落の一方に傾くなり。

尤も社會の進歩と共に材料の著しく騰貴すべき少數の製造業に至りては、其製造業の進歩に關らず、尚其製品の騰貴を免かれざるものあり。例へば建築業、建具師の如き土地の開墾さるゝに隨て、材料の代價甚だしく騰貴するが故に、一方に於ける器械の改良、技術の上進、分業法の進歩等によりて得る便利も、以て是を償ふに足らざるなり。……

以上の如き例外を除くの外、材料の騰貴せざる、若くば騰貴するも其度の劇甚ならざる一切の製造業に於ては、製品の代價は必ず低落せざるを得ざるなり。

結　論

今此章を終らんとするに當み、吾人は社會の進歩は直接間接に實際の地代を增加し、隨て地主の實際の富を增加し、彼が勞力に對する購買力、即ち他人の勞働によりて生產せる物品に對する購買力の增加する次第を述べんと欲す。

土地の改良と耕作の進歩とは直接に地代を騰貴せしむるの傾向を有す。生產物に對する地主の分ケ前は、生產物の增加するに隨て增加するなり。

土地より生產する元料品の騰貴は、最初の間は土地の改良と開墾との結果なれども、後には尚ほ多くの土地を開發改良せしむる原因となるなり。例へば家畜の代價の騰貴は直接に地代を騰貴せしむるの原因となるなり。地主の分け前の眞價、即ち彼れが他人の勞力に對する購買力は、生產物の眞價と共に增進するのみならず、彼れの分け前の全生產物に對する比例も亦た夫と共に增加

するなり。其生産物は其實價の騰貴したる後と雖も、是を收獲するに以前より多くの勞力を要するにあらざれば、以前に比すればより少き部分を以て、其勞力を使用するに要せる資本を回收することを得べき筈なり。隨て其大部分は必然の結果として地主の手中に歸せざるべからざるなり。

生産力を增加する凡ての改良進歩は直接に製造品の實價を低落せしむるの傾向を有し、間接には地代の實價を騰貴せしむるの傾向を有す。地主は土地の生産物中自ら消費して餘れる部分をば製造品に代へんと欲す、されば製造品の實價の低落は即ち農産品の騰貴を意味するなり。即ち農産物の同分量は製造品の一層大なる分量と同價格となるなり。斯くて地主は其必要品、裝飾品及び奢侈品の一層大なる分量を購買することを得るなり。

社會の富の度の進むに隨ひ、其中に用ゐらるゝ有益なる勞力の增加するに隨ひて、間接に地代を騰貴せしむるの傾向あり。而して此勞力の或部分は自然に土地のために使用せらるべく、其耕作のために多くの人間と家畜を使用すれば隨て多くの資本を要すべく、資本の增加するに隨て生産の增加を來すべく、生産の增加するに隨ひて地代は騰貴するなり。

是に反して土地の改良耕作を怠慢に附すること、土地の生産物の下落すること、製造工業の衰微のために製品の騰貴すること、社會の富の減退すること等は、凡て地代を下落せしめ、地主の富を減少せしめ、隨て地主の勞力に對する購買力、即ち他人の勞力より生ずる生産物に對する購買力を減少せしむるなり。

毎年一國の土地及び勞力より生ずる全生産額は自然に三箇の異なる部分に分割さるゝことは、前既に是を說けり。—地代勞働賃金及び資本の利益にして、三種の異なる階級の人々の歲入を形成す—三階級とは即ち地代に依りて生活するもの、給料に依りて生活するもの、及び利益に依りて生活するものなり。是れ實に凡ての文明國に於ける本原的收入の三階級にして、其他のあらゆる階級に屬するものゝ收入は畢竟するに以上の三者の收入より派生するに過ぎざるなり。

以上吾人の陳述する所により、三階級中の第一の利害は社會全體の利害と極めて密接に相關係するを知るべし。一方を進むるものは他をも進ましめ、一方を障害するものは即ち他をも障害するなり。公共に於て商業或は警察の規則に就て思議するに當り、彼等自身の特種の利益を增進するの目的を以て、地主等が是を邪徑に導くことあるべきにあらず。少くとも其利害に就て相當の智識を有せんには斯の如きことは爲し得ざる筈なり。然れども實際に於ては彼等は屢、斯の如き智識をさへ缺き居ることなきにあらず。三階級中只だ彼等の收入而已は、勞働者くは思慮に關係なく、彼等の經綸劃策に對して全く獨立して來るなり、斯の如く彼等の地位は無爲にして安全なるがために、當に無智なる而已ならず、全く公共に關する法律規則の結果を了解し、前知するの能力を缺くに至ることあるなり。

第二の階級即ち給料に依りて生活するもの、利害も、亦た第一の夫と同じく、一般社會の利害と痛切の關係を有す。前に云へる如く、勞働賃金の最高に達するは勞力に對する世間の需要斷へず增加する時にあり。是に反して、社會の富の靜止的狀態となるや、勞働賃金は纔かに勞働者をして其家族を支へ、其階級を永續せしむるに足る丈けの額に低減せらるゝなり。若し其社會の退歩の情態を呈するに當りてば、勞働賃金は此必要額すらも維持する能はずして、更に其以下に低落するを禁ずる能はず。社會の繁榮によりて傭主の階級は勞働者の階級よりも一層大なる利益を得べしと雖も、其退歩するに當りて最大の打擊を受くるものは實に勞働者なりとす。夫れ然り、勞働者の利害は斯の如く痛切に一般社會の利害と關係を有するに關らず、彼等は充分に是を理解すること能はざるなり。彼等の境遇は彼等をして此點に關する必要の智識を受くることを能はざらしむ。假令是を受くることを得るも、彼等の敎育は是に對して正當の判斷を下すこと能はざるなり。故に彼等の發言は常に社會に耳を傾けられず、されば彼等の要求が高調せられ、運動の開始となり、而して或特種の事情により、其傭主等の後援を得ると云ふが如

き特別の場合を除く外は、彼等が其目的を達すること稀なり。

第三の階級は即ち勞働者等の傭主にして、利益に依りて生活するものなり。資本は利益を得んがために使用さるゝと同時に、各社會に於ける有益なる勞力の大部分は是によりて活動せしめらるゝなり。勞力の最も重要なる活動は資本家の經營劃策によりて指定左右せらる。而して是等の經綸劃策の目的とする所は利益にあり。然れども利益は地代及び給料の如く、社會の繁榮に隨て增加し、其退歩に依りて低減せざるのみならず、却つて其比率は富國に於て低く、貧國に於て高く、殊に速かに退歩しつゝある國に於て最も高きを常とす。故に此第三階級の利害は他の二階級の如く、一般社會の利害と其歩調を同ふせず。此第三階級の中に就いて、商人と製造家は殊に多くの資本を使用するが故に、社會公衆の注目を惹くこと隨て大なるものあり、又た彼等は其生涯の間常に諸般の企圖と劃策に心を委ぬるが故に、鄉紳士よりも鋭敏なる理解力を有するを常とす。されども彼等の思想は常に社會全體の利害よりも、彼等自身の業務の上にあり。されば彼等が最も公平に思考する時と雖も——彼等の思考する所が常に公平の心に出づとは思惟すべからず——社會の利害よりも彼等自身の業務上の便利を考ふるの傾向あるを免かれず。公共の利害に關する智識に於て、彼等が鄉紳士に優るは、其業務に關する智識に優る程には大ならず。彼等が鄉紳士の寬大なるを利用し、して有せる智識に優る程には大ならず。彼等が鄉紳士の寬大なるを利用し、彼等を說得して商工業者の利益こそ、一般社會の利益と合致するものなりと信せしめ、彼等自身の利益と一般社會の利益を犧牲に供せしむることあるは、全く自己の利害に關して商工業者が有する優越なる智識に由るものなりとす。然れども如何なる商工業にても、彼等の利害は常に社會一般の利害と或點に於て背馳するを免かれず。例へば商工業者に取りては、其市場をば擴大し、競爭の範圍をば縮小するを以て利益とす。市場を擴大することは一般の社會に取りても利益なること屢、あれども、其競爭の範圍を縮少せんことは、到底一般社會の利益と兩立せず。只だ商工業者をして自然の成行以上に其利益を高め

しめ、彼等の私利のために他の市民に不當の課稅をなすに終る而已なり。されば商工業に關する新法律にして、是等の階級より提出されたるものは、極めて嚴格なる審査討議を經たる後にあらざれば、決して輕々しく是を採用すべきにあらず。何となれば其法案は一種の階級に屬する人物、即ち其利害は公共の利害と歩調を同ふせず、反て公共を欺瞞し、時としては是を壓制することによりて自己を富ますを得、而して屢、是を實際にしたることある階級の手により提出せらるゝものなるが故なり。

第二編

自然、貯蓄、及び資本の使用

序論

社會の極めて幼稚なるに當りては、分業の法未だ行はれず、隨て交換貿易の業亦た未だ起らず。各人自ら其必要品を製造若くは獲得するを要す。斯の如き時代に於ては、社會に産業を計營せんがために、豫め資本を蓄積するの必要あることなし。人各自家の努力によりて、其需要を滿足す。餓へたる時は森に行きて獵し、衣服の破れたる時は其殺したる獸類の皮を剥ぎて是を裁縫し、家屋の敗頽したる時は其附近にある樹木と泥土とを以て是を修覆するなり。

然れども一度び社會に分業の法起るや、各箇人の生産する所は其時々の需要

の一小部分を充たすに過ぎず。其大部分は彼れ自身の作りたる生産物若くば是を賣りて得たる代價を以て、他人の勞働に由りて得たる物品を購買せざるべからず。然れども他人の物品を購買せんことは、彼自身の生産物の完成したる上、是を賣却したる後にあらざれば爲し能はず。故に彼は自らの生活を支持し、其業務に要する材料と器具とを供給せんがために、必要の時期迄種々の異なる物品を貯藏せざるべからず。茲に一の織夫ありとせんに、彼は豫め何れかに、自己の所有にせよ、或は他人の所有にせよ、彼れが其織物を完成し、是を賣却する迄の間、彼れの生活を支持し、其材料と器具とを供給せんがために必要なる資本を有するにあらざれば、彼は決して其業務に從事することを能はざるなり。此資本の蓄積は、云ふ迄もなく、彼れが其特種の業務に身を委ぬる以前になされざるべからざるなり。

自然の順序として、資本の貯蓄は勞働の分業に先立たざるべからざるが故に、豫め蓄積さるゝ資本の增加するに隨ひ、勞力は愈益小分され得べし。勞力の小分さるゝに隨て同人數によりて働き能ふ材料の額は增加すべし。而して各勞働者の作業は愈單純となるが故に、其業務を一層單簡便利ならしむべき新機械の發明を誘起するなり。故に分業の愈進歩するに隨ひ、同類の勞働者に斷へず職業を與へんがために、同量の食料と、社會の幼穉なりし時に必要なりしよりも、遙かに多額の材料と器具とを豫め貯蓄せざるべからず。何の產業に關らず、其分業の進歩するに隨て、其勞働者の數を增加するを常とす。或は寧ろ勞働者の數の增加するが故に、彼等をして自然に斯の如く幾多の小區分に別たれしむるを得と云ふべけん。

斯の如く勞働の生產力を發達せしめんがためには、豫め資本を貯蓄することを必要なり。資本の貯蓄さるゝに隨て生產の發達進歩を見るなり。勞力を支持せんがために其資本を使用するものは、出來得る限り、多くの生產を得る樣に是を使用せんことを希望するや必せり。故に彼は其勞働者の間に最も適當なる分業を實行し、又た彼が發明し、若くば購買し能ふ最良の器械を提供せんこと

を勉むるや必せり。此二點に於て彼れが有する實力は概して其資本の額と、彼れが使用し能ふ勞働者の數に比例するものとす。故に何れの國に於ても資本の增加に隨ひて產業の量を增加するのみならず、其增加の結果として、同量の產業の生產する所亦た以前に比して遙かに大なるものあり。

是れ資本の增加の產業と其生產力の上に及ぼす所の影響なりとす。

此卷に於て余は資本（キヤピタル）の性質を論じ、其貯蓄の諸種の資本（キヤピタル）の上に及ぼす影響と、是等の資本の異なる使用より起る結果に就て說明する所あらんと欲す。

第一章　財本（キヤピタル）の分割

人の所有する所の財本（キヤピタル）が僅かに數日若くば數週間を支ふるに足る而已ならば、何人も是に依りて收入を得んと欲することなかるべし。彼は出來得る限り節儉して是を費消し、其皆無とならざる中に、他に生活の費用を得んがために勞働に從事するならん。是場合に於て彼れの收入は勞働而已に由りて得らる。

是れ凡ての國に於ける勞働貧民大多數の情態なりとす。

然れども彼若し數月乃至數年を支ふるに充分なる財本を有するに於ては、彼は其大部分をば收入を得んがために使用し、只だ其一小部分丈けを、其收入の手中に歸する迄、彼れの生活を支持せんがために是を保存すべし。故に彼れの全貯蓄は此場合に於て二箇の部分に分割されざるべからず。彼れが是に依りて其收入を得んと欲する部分を稱して資本（キヤピタル）と云ふ。他は即ち彼れが直接の消費に供する部分にして、第一、始より此目的のために保存されたる彼れが財本の部分、第二、其如何なる原因に由るを問はず、徐々に彼れの手中に入り來る收入、第三は以上の二者に依りて前年に購買したる衣類家具等の未だ消費し終らざるもの等是なり。人が普通其直接の消費のために保存する財本なるものは、以上の中の一、二若くば全體より成立するなり。

資本の所有主に所得、即ち利益を得せしむる樣に、是を使用するの途二種あり。第一、資本は物品を栽培し、製造し、或は是を購買し、多少の利益を得て再び是

を賣却することに使用し得べし。斯の如くに使用されたる資本は、彼の手中にありて、同形體にて存在する間は、何等の收入或は利益を、持ち來すことなし。商人の手中にある物品は賣却さるゝ迄は、彼に何等の收入をも利益をも與ふることなく、其金錢も復び物品に代へらるゝ迄は彼に多くの利益を得せしむることなし。彼の資本は斷へず、彼の手中より出で、形體を變じて復歸するなり。斯の如く不斷の循環變化によりて彼は始めて利益を得るなり。故に斯の如き資本を流通資本と稱するなり。

第二、資本は土地の改良、器械器具の購入、其他持主を代へ、諸方に轉々する等のことなくして利益を生ずる事業に使用することを得べし。斯の如き資本を固定資本と云ふなり。

其業務の異なるに隨ひて、是に用ゐらるゝ固定資本と流通資本との割合に相違あり。例へば商人の資本は全部流通資本より成立す。彼は其店舖倉庫等を除くの外器械を要することなし。

獨立して手工業を營むもの及び製造家にありては、其資本の幾部は職業用の器具のために固定せざるべからず。然れども或職業に於ては其比例少く、或職業に於ては比較的に多く、固より同日の論にあらず。裁縫師の如きは縫針の外に器具を要せず。靴師に至ては裁縫師に比すれば幾分か多くの器具を要すると雖も、固より云ふに足らず。織物業に至ては是等に比して頗る多くの固定資本を要するものあり。何れにしても以上の職業に於ては其資本の大部分は備人の給料若くば其材料の代價として流通しつゝあり、而して其製品の代價として多少の利益を以て回收せらるべきものとす。

他の工業に至ては頗る大なる固定資本を要す。例へば大製鐵所に於ては、溶爐、輔其他種々の大器械なくしては、其業務に從事することを得ず。其費用は固より莫大なるものあり。炭礦及び鑛山に於ては排水其他の目的のために大器械を要すること更に是よりも甚しきものあり。

農夫が土地の改良のために投ずる資金は固定資本にして、勞働者に支拂ふ給

料は流動資本なり。一は自ら是を所有しつゝ利益を擧げ、他は是を手放すことによりて利益を得るなり。耕作に使用する家畜の代價は農業器具と同じく固定資本にして、其飼養料は勞働者の生活費と同じく流動資本なりとす。農夫は其家畜を所有し、其飼養料を支辨するに依りて利益を收むるなり。然れども若し農夫にして其家畜を賣却して利益を得んと欲せば、其場合に於ては其買入代も飼養料も共に流通資本なりと云はざるべからず。耕作のためにもあらず、又た賣買のためにもあらず、羊毛を剪り、牛乳を搾り、若くば是を繁殖せしめんことを目的とする牛羊の群は、固定資本なり。何となれば持主は是を所有するに依りて利益を得るものなればなり。されども其飼養料は固より一箇の流通資本なりと云はざるべからず。何となれば農夫は是を手放すことによりて利益を得ればなり。而して飼養料に對する利益も、家畜の代價に對する利益も、共に羊毛、牛乳、並に其增殖の代價によりて回收せらるゝものとす。農夫が其田畑に播種する種子の代價は一箇の固定資本なり。穀物は土地より倉庫に移されど

も其所有主を變更せず、且つ農夫は種子を增殖せしめて利益を得べく、是を賣却して利益を得るにあらざればなり。

一國或は一社會の財本も各箇人の夫れと異なることなし。故に同じく三箇の異なる部分に分たれ、夫れ〳〵異なる職分を有するなり。

第一は直接消費のために保存さるゝ部分にして、其特質は何等の利益收入を生せざるにありて、食物、衣服、家財等の其消費者によりて購買され、未だ全く消費され終らざるものなり。一國の或時代に存在する住家と其一切の附屬物も亦た此第一部類に屬す。茲に一の資本家あり、家屋のために多少の資本を投じたりとするも、彼若し是に住居せば此時より資本たるの性質は失せ、何等の收入をも生せざるに至るなり。斯の如き住家は云ふ迄もなく、其持主のために、其衣服家財と等しく最も必要のものなれども、彼れの出費の一部分にして、其收入の部分にあらざるなり。若し是を他人に貸與したる場合に於ては、其家屋よりは何等の生產を得ざるに關らず、借家人は其勞働、資本、若くば土地より生ず

る收入の中より借賃を拂はざるべからず。故に其持主には多少の收益となり、是に依りて資本の働きをなすと雖も、社會に對しては何等の收益をも生せず、社會全體の收入は是がために一錢も增加するとなきなり。是と同樣に衣服家財等も時としては、收益を生じ、或特種の人々のために、資本の作用を爲すことあり。假裝會の流行する國々に於ては、衣服を一夜貸しする商人あり。月極め若くば年極めによりて家財を貸貸するは珍らしからざることなり。葬具商は一日若くば一週間の約束にて其葬具を貸貸するなり。多くの人々は造作家財附の家屋を貸貸し、曾に其家屋のみならず、家財の貸料をも徵收することあり。然れども斯の如くにして其貸主の手に歸する收入なるものは、畢竟するに或他の收入より出で來らざるべからず。固人に於ても、社會に於ても直接消費のために保存せる財本中に於て、其家屋のために投せるものを以て最も永續的なりとなす。衣服は以て數年の命脈を保つべく、家財は以て數十年或は時として一世紀に涉ることあらん。然れども堅牢なる家屋にして、其保存に適當なる

注意を拂ひたらんには、優に數百年の間命數を保つことを得ん。夫れ然り、其消費の年限に至りては、斯の如き悠久の歲月に涉ることありと雖も、要するに衣服、家財と共に直接の消費を目的とするに外ならざるなり。

三區分中の第二は卽ち固定資本なり。其特質は流通することなく、卽ち其持主を變ふることなくして收益を生ずることにして、左の四種類より成立す。

第一、產業上に必要なる器械器具にして、勞働を便利にし、且つ是を省略するに足るものなり。

第二、收益を得んことを目的とする建築物にして、店舖、倉庫、工場、飼養場等の如き、其持主而已ならず、其使用者にも相當の收益を得せしむるもの是なり。是等は住家と大に其性質を異にし、產業上に必要なる器具器械と同樣の待遇を受くべきものなりとす。

第三、土地の改良、卽ち開拓、排水、結棚、施肥等凡て耕作栽培の便を增せることは是なり。改良せられたる土地は正當に勞力を省略する諸般の器械と同樣に見

做すことを得べし。是に依りて同一額の流動資本を以てして、一層大なる收獲を得るなり。改良せられたる土地は、其便利に於ては他の器械と同じく、其永續的なることは遙かに是に勝れり。而して是れが耕作に農夫の資本を投ずるの外、他に何等の修覆をも要せざる場合多し。耕作のために其資本を投ずるは農夫に取りて最も有利なる資本の適用法なること云ふ迄もなし。

第四、一社會に生存する人間の習得したる有益なる技能是なり。教育、修練、見習に依て斯の如き技能を習得せんには相當の費用を要す。而して其費用は彼れの一身に於て固定資本となり、又た彼れに由りて實現せられつゝありと云ふことを得べし。斯る技能は彼自身に取りて一種の財產なるが如く、亦た彼れが屬する社會の財產なり。職工の有する熟練と技能とは、勞力を省略すべき器械器具と同樣に見做すを得べし。是を得んがために相當の費用を要すれども、後に利益を以て是を回收することを得るなり。

社會の總財本の區分さるべき三種類中の第三は即ち流動資本なり。其特質は流動することにより、即ち其持主を變更するによりて利益を生ずるなり。亦た左の四種類より成立す。

第一、貨幣なり。是に由りて他の三者は其正當の消費者に流通され、分配さるゝなり。

第二、飼畜者、屠殺者、農夫、穀商、釀造家等の手中にある食料品にして、是を賣却して利を得んとするものなり。

第三、衣服、家財、建築等の材料にして、全くの原料あり、或は半製品あり、何れも尙ほ製造家、呉服商、材木商、大工、工匠、練瓦職人等の手中にありて、未だ完全に成形を爲さゞるもの是なり。

第四、完成したれども尙ほ商人製造家の手中にありて、未だ其消費者の手に渡らざる物品是なり。例へば吾人が常に建具師、鍛工、金銀工、寶石商、陶器商等の店頭に於て見る出來合品の如き是なり。斯く流動資本は食料原料、各種製造家、商人の手中にある既成品及び最後に是を消費する者に以上の物品を分配す

るに必要なる金錢との四者より成立す。

以上の四種中の三種即ち食料、材料及び既成品の三者は年々或は早晩必ず其中より引き出され、固定資本或は直接消費の目的物に變更するものとす。凡て固定資本は流動資本より出で、又た斷へず、是に由て支持されざるべからず、産業上に要する凡ての器械器具は流動資本によりて其材料を供給され、又た是を製造するに要する勞働者は流動資本に由りて支持されざるべからず、又た是を修繕せんがために斷へず流動資本を要するなり。

又た固定資本は流動資本の力を藉るにあらざれば、何等の收益をも擧ぐる能はず。如何に便利有用なる器械と雖も、流動資本によりて、材料と勞働者とを供給さるゝにあらざれば決して何をも製造すること能はず。土地の情態は如何に改良さるゝとも、是を耕作し、其生産物を收獲するがために必要なる勞働者を支持するにあらざれば何等の收入をも得る能はざるなり。

固定流通兩資本の唯一の目的は、直接消費のために保存さるべき財本を維持

し、是を增加するにあり。此財本こそ吾人に衣食住の必要品を供給するなれ。吾人の貧富と云ふは要するに流通固定の兩資本が直接消費の財本に寄與する供給多少を云ふに外ならず。

流通資本の大部分は斷へず他の二大財本を充實せんがために、引去らるゝが故に、他より是を補充するものなくんば其財源は忽ち涸渇すべき筈なり。而して其補充は主として農業、鑛山及び漁業によりて得らるゝなり。是に由りて食料及び材料は斷へず供給さるゝことを得。而して其材料の幾部分は驟がて製品となり、製品は再び食料及び材料に取り代へられ。斯くて斷へず流通資本より引去らるゝなり。又た鑛山より生産する所のものは流通資本の金錢より、成立する部分を補充す。固より普通の產業に於ては、金錢は他の二大財本を充足せんがために、他の三者の如く必然的に流動資本より引去らるゝことなしと雖も、金錢も他の物品と同じく、失はれ、遂には磨滅し、或は外國に輸送さるゝことあり。故に他の三者に比すれば少量にて足るべしと雖も、斷へず補充せらる

ゝの必要あるなり。

土地、鑛山及漁業は何れも是を開發せんがために、固定資本と流通資本を要す。而して此三者より出づる生產物は只だ是等の資本を補充する而已ならず、社會にある一切の資本をも利益を以て補充するなり。斯くて農夫は年々製造家が消費せる食料及び製造用に供せる材料を補給し、製造家等は其製品を以て農夫が費消したる所を補足するなり。是れ年々是等の二箇の階級間に起る所の交易なりとす。固より農產物と製造品とを直接に交換するが如きことは、極めて稀なり。何となれば農夫が衣服、家財及び農業器具を買はんとする人々の、恰かも農夫より穀物、羊毛、麻、家畜を買はんと欲するが如き機會に出會ふこと多からざればなり。故に農夫は其生產物を賣りて金錢に代へ、是を以て其欲する所のものを購買するなり。土地の生產は時としては、鑛業及漁業に要したる資本をすら補足することあり。水中より魚族を引上ぐるものは土地の生產にして、地中より鑛物を採收するものは土地の生產なり。

土地、鑛業及び漁業に於て其天然の豐饒の度の同一なる時は、其生產物は其廣狹と、是に使用されたる資本の適用如何に比例す。若し其資本額同じく、其適用法も同一なりとせば、其天然の豐饒の度に比例するなり。

凡て生命財產の安全なる國に於ては、普通の理性を有するものならんには、其有する財本をば必ず現在の快樂のために是を使用せば、是れ直接消費を目的とする財本たるべく、若し將來の利益のために是を使用すとせば、是を得るの方法は、自ら是を所有するとの二方法あり。一の場合に於ては固定資本となり、他の場合に於ては乃ち流通資本となるなり。生命財產の安全の保證せらるゝに關らず、自己の所有にせよ、人より借りたるにせよ、其有する財本の凡てを以上三者の何れかに使用せざるものあらば是れ全く狂人と云はざるべからず。……

第三章　資本の蓄積——生産的勞働と不生産的勞働

勞働に二種あり、二は其結果として他の事物の價値を增加するものにして、他は即ち斯の如き結果を殘さゞるものなり。前者は是を生產的勞働と云ひ、後者は不生產的勞働と云ふ。製造家の勞働は其材料に自己の生活費と傭主の利益丈けの價値を添加するを常とすれども、是に反して婢僕の勞働は何等の價値をも增加することなし。製造業者等は其給料を傭主により豫め支拂はるれども、傭主に對して更に負擔せしむる所なし。其給料は後に製作品の增加したる代價により、利益を以て彼の手中に回收せらるればなり。然れども婢僕に要する費用は回收せらるゝことなし。人は多くの職工を傭使することに依りて其富を增せども、多くの婢僕を蓄ふれば、貧を加ふる而已なり。固より婢僕の勞働は無益にあらず、當然價値を有するものにして、前者と等しく其報酬を受くるに價するものなり。然れども製造業者等の勞働は、其勞働の過ぎ去りたる後に存在する物體即ち商品に於て實現するなり。捨かも他日必要の場合に使用せんがために、勞力の或分量を貯蓄したらんが如し。其物品或は其物品の代價は他日必要に際せば、是が製作に要したると同量の勞力をして、或事に働かしむるを得るなり。是に反して婢僕の勞働は物品の上に實現することなく、概して其勞働の爲されたる瞬間に消失し、後日是と同量の勞力を使用し得べき、何等の痕跡をも價値をも殘すことなし。

世間に最も尊敬に價すべき階級に屬する者の勞働にして、婢僕の夫と同じく、不生產的にして、永續的の物體に其價値を添加實現せず。勞働の過ぎ去りたる後の、將來に至り同量の勞力を働かすに足るべき何物をも遺留せざるもの多し。例へば帝王の如き、其文武の百官と共に、一種の不生產的勞働者なりと云はざるべからず。彼等は公僕なり、他の人民の勤勞より生ずる生產物の一部分によりて扶養せらるゝなり。彼等の職分は如何に名譽あり、如何に有益に、如何に

必要なりとするも、後來同量の勞力を使役し得るが如き何物をも生産せざるなり。今年彼等の勞働に依りて得たる國家の安寧、秩序、防禦等を購買すること能はざるなり。詭辯者、法律家、醫師、文學者等の重大なる業務も、或は又た俳優、音樂者、幇間、歌妓、舞踏者等の末技の徒も亦た同じく此階級に屬するなり。以上の中の最も賤しき勞働と雖も、凡ての他の勞働を支配すると同一の原則に由りて支配され、慥かに其價値を有すると同時に、其最も重大なるものも、後日同量の勞力を購買し得るが如き何物をも遺さざるなり。俳優の所作も、雄辯家の演説も、音樂家の彈奏も皆な其場に消失して、後に何等の痕跡をも留めざるなり。

生産的勞働者も、或は又た全く勞働に從事せざるものも皆な年々其國の土地と勞働より生ずる生産によりて扶養せらるゝなり。此生産なるものは如何に莫大なりとするも、無限にあらず、必ず限度あり。故に其年に於て不生産的階級のために費消されたる額の多寡に隨ひ、生産的階級のために殘さるゝ額に多少の相違あり。隨て翌年の生産額に大なる影響を及ぼすことゝなるなり。土地より生ずる自然の産物を除くの外、凡ての生産物は生産的勞働者の手によりて産出さるゝ一切のものは、遂には其國民の消費に供せられ、又た其收入たるべきこと疑を容れずと雖も、其始めて土地及び勞働者の手より出で來るや、自から二箇の部分に區別さるゝなり。其一にして、殊に大なる部分は、第一に資本を補充すること、即ち資本より引出されたる食料、材料、及製品を補足するの運命を有し、他の部分は此資本家の利益となり、又た其地主の地代となるの運命を有す。斯く土地の産物は、一部分農夫の資本を補充し、一部分は彼れの利益及び地主の地代となるなり。是と同じく大製造家の製作品の一部(常に其大部分たり)は其投資者の資本を回收し、一部は其利益となり、以て投資者の收入を組成するなり。

一國の土地と勞働とより年々生産し、而して資本に補充する所の部分は、生産

的勞働者を支持するの外、決して直接に他の目的に使用さるゝことなし。利益若くは地代として收入を組成する部分は、生産的勞働者を支持するは勿論、不生産的の目的のためにも使用さるゝなり。

何人も其財本を資本として使用する時は、利益を得て是を回收せんことを希望す。故に只だ生産的勞働者を支持せんがためのみに是を使用す。而して其一度び資本たるの職分を盡したる後は彼等に對する收入を組成す。彼若し是を不生産物の目的のために使用せば其瞬間より最早資本たるの性質は失はれて、直接消費のために供せられたる財本となるなり。

不生産的勞働者及び全く勞働せざる階級に屬するものは、凡て左の二種の收入によりて支持さる。第一は地代若くは利益として或人々の收入を組成すべく始より定まれる年々の生産なり。第二は元來資本を回收し、生産的勞働者を支持することのみに使用さるべき部分なれども、其生活の必要を支辨したる剩餘を以て、生産的或は不生産的の兩樣の目的に使用さるゝなり。斯くて當に

大地主又は富商而已ならず、職工の輩と雖も、相當の給料を得るものは、一人の婢僕を備ふを得べく、或は劇場寄席に行くことを得べく、以て不生産的勞働者を支持せんがために其收入の一部分を分つことを得るなり。或は彼若し租稅を拂ふとせんか、更に名譽あり、且つ有益なる不生産的勞働者を支持することを得るなり。されども始より資本を回收すべき筈の生産の部分は、生産的勞働を完成せしめたる後にあらざれば、不生産的勞働者の維持に向けらるゝこと無し。職工等は斯の如き方途に是を使用し能ふ前に、須らく其完成したる業務によりて其給料を得ざるべからず。固より斯の如き部分は少量ならざるべからず。何となれば是れ彼等の有する剩餘なるべく、而して生産的勞働者が多額の剩餘を有することはあるべからざることなればなり。されども彼等は多數なるが故に、其一箇人の割前は少額なれども、租稅支拂の場合の如き頗る大なる額に達するなり。故に不生産的勞働者の生活の資源は主として地代及び利益より來るを常とす。地代と利益是實に各人が節約し能ふ二箇の收入なりと

す。而して彼等は是によりて生産的或は不生産的勞働者の何れをも自由に支持することを得べしと雖も、概して不生産的の方面に向ふを常とす。貴族等は常に生産的の人間よりも、遊惰の人間を扶養するを好み、富商すらも、其資本を以て生産的勞働者を傭使すると同時に、其收入によりて、貴族等の爲すが如く多くの不生産的人物を扶養するなり。

故に生産的勞働者と不生産的勞働者との比例は、何れの國に於ても、年々の生産中、土地若くは生産的勞働者の手中より出で來るや否や、直ちに資本の補充に向けらるべき部分と、地代或は利益として收入を組成すべき部分との比例に依りて決するなり。而して此二者の比例は國の貧富に隨て大なる徑庭あり

とす。

斯くて現今、歐洲の富强國にありては、土地の生産の大部分は富豪にして、獨立せる農夫の資本を回收するの運命を有し、他の部分は其利益と、地主の地代とを支拂ふことになり居れり。然れども封建時代に於ては、耕作に使用されたる

資本を回收せんには、其生産の一小部分にて充分なりき……

現今歐洲の富强國に於ては、莫大なる資本の商工業のために使用さるゝありと雖も、古代に於ては商業は振はず、僅かに粗笨なる工業の存在せし而已なるを以て、資本を要すること甚だ少かりき。而して其得る所の利益は頗る大なりき。何處に於ても古代の利息は一割以下に降ることなかりしを以て、其利益は是を支拂ひて餘裕あるものならざるべからざりしなり。今日歐洲の進歩したる部分に於ては六分以上に昇ることなく、最も進歩したる部分に於ては四分乃至二分に降ることあり。利益より生ずる國民の收入の部分は貧國より三分も富國に於て一層大なること勿論なりと雖も、是れ其財本の大なるがために して、財本の額に比例すれば利益は一般に輕小たるを免かれざるなり。

故に年々の生産中土地若くは生産的勞働者の手より出て來るや否や直ちに資本を補充すべく定まれる部分は、貧國よりも富國に於て一層大なる而已ならず、又た地代或は利益として直接に收入を組成すべく定まれる部分に比し

て遙かに大なる分け前を有するなり。生産的勞働を維持すべく定まれる資金は貧國よりも富國に於て大なる而已ならず。又た生産的にも不生産的にも使用さるれども、概して不生産的に用ゐらるゝの傾向ある部分に比して、遙かに大なる割前を有す。

以上二種の資金の比例に隨て、一國民が勤勉なるか、遊惰なるかは決定せらる。吾人今日の國民は吾が祖先等に比すれば遙かに勤勉なりと云はざるべからず。何となれば現今に於ては、遊惰のために使用さるゝ資金に比し、產業維持のために使用さるゝ資金、二三世紀以前よりも遙かに大なればなり。吾人の祖先が吾人現代の國民に比して勤勉ならざりしは、產業に對する充分の刺撃奬勵を缺きたりしが故なり。……

故に何れの國に於ても、其國民の勤惰の度は、資本と收入との比例に由りて決せらるゝと云ふことを得べし。資本多ければ產業興隆し、收入多ければ奢侈の風生ず。されば資本の增減に由りて、自然に產業と勞働者の增減を來し、隨て年々其國の土地と勞働より生ずる生產物の交換價格を增減せしめ、其國民の實際の富と收入の上に增減を來すなり。

資本は勤儉に由りて增加し、浪費と過失とに由りて減損せらるゝを常とす。

人は其收入より節約し得たる所を其資本に加へ、自ら生產的目的のために是を使用するか、然らざれば他人をして是を使用せしめ、己れは利息即ち生產の割前を得んことを勉むべきなり。一箇人の資本が只だ其年々の收入即ち利益より節約し得たるものに由りて而已增加するが如く、個人に由りて組織せらるる社會の資本も亦た同一の次第に由りて而已增加するものとす。

資本增加の直接原因は節約にありて、勤勉にあらず。勿論節約によりて貯蓄せらるゝ所のものは、勤勉に由りて生產さるゝものなれども、是を節約し、貯蓄するにあらざれば資本は決して增加することなきなり。

節約は生產的勞働者の數を增加するの傾向を有す。隨て年々其國の土地と勞働より生產的勞働者を支持すべき部分の額を增加することにより、自然に生

する生産物の交換價格を增加するの傾向を有し、又た産業の量を增加することにより、年々の生産物に一層の價格を附與するものとす。

人が其節約によりて年々除す所のものも、其實彼が其費用に充つる所のものと等しく年々規則正しく消費せらるゝなり。然れども是を消費する人の種類は大に相異なれり。富者が始より其費用に充つる部分は主として來客を招待し、婢僕を傭使する等のことに消費され、消費の後に何をも遺すことなきなり。彼が年々節約貯蓄する所の部分は資本として使用され、同じく消費さるゝに相違なけれども、是を消費するものは、勞働者、職工、製造家等にして、其消費する所は他日利益を添へて回收さるゝなり。彼の收入は悉く現金を以て彼れに支拂はるゝものと假定し、彼れ若し其全額を其衣食住の費用に投ずるとせば、皆な前者の階級間に分配されざるを得ず。是に反して彼若し其收入の一部分を節約するとせば、夫は必ず彼自身若くは他人に由りて資本として使用さるべく、是に由りて衣食住を支辨するとするも、夫は生産的勞働者を維持するの費用となるなり。斯の如く消費は一なれども消費者は異なれり。

年々其收入の幾分を貯蓄する節儉の人は、曾に其年又は翌年に於て、生産的勞働者を支持するのみならず、恰かも授產場の設立者の如く、永久に涉りて同數の勞働者を支持すべき基本金を寄與するものと云ふことを得べし。勿論此基本金は法律又は契約の文面に由りて其使用法を規定さるゝにあらずと雖も、其分け前に關與することあるべき個人の明白なる利害に由りて保護さるゝなり。若し是を生産的の目的以外の事に使用せんとするものあらば、彼は是がために大なる損失を蒙むらざるを得ざるなり

浪費者の社會に與ふる影響は全く是に反す。彼は其費用を其收入の範圍內に止むること能はずして、其資本を喰ひ込むなり。彼は世俗の目的のために神聖の目的を有する資金を費消するものゝ如く、其祖先等が節約によりて、產業維持のために奉獻したる資金をば遊惰の給料に支拂ふなり。斯くて生產的勞働に使用すべき資金を減少することにより、必然の結果として、生產的勞力の量

を減少せしめ、隨て年々其國の土地及勞働より生ずる生產の價格と、其國民の實際の富と收入とを減少するなり。若し或人々の浪費が他の節儉によりて償還せられずば、浪費者の行爲は勤勉家のパンを以て遊惰の徒を養ふことにより、彼れ自らを乞食たらしむる而已ならず、大に其國家を貧困ならしむるの結果を與ふるなり。……

過失の結果亦浪費と相同じきものあり。農業、鑛業、漁業、貿易、製造業等に於ける未熟の計畫より生ずる失敗のために、生產的勞働維持に必要なる資原を減少することは、浪費の場合と異なることなし。斯の如き計畫に於ては、縱し其資本は生產的階級に由りて消費さるゝと雖も、其計畫の當を得ざるがために、其消費に對する相當の價格を生產すること能はず、斯くて社會の生產資本を減耗するの結果を生ぜざるを得ざるなり。

然れども大國民間に於ては個人の浪費若くは失敗のために、其國勢に影響を蒙むるが如きことは極めて稀なり。一方に於ける浪費と過誤とは、他方に於ける節約と思慮ある行爲によりて辨償せられて餘りあるなり。……

個人の節約と思慮ある行爲とは、最も多くの場合に於て、啻に一個人の浪費と過誤と而已ならず、又た一國政府の失等をも代償することを得るなり。各人が自ら其地位境遇を上進せんとする不斷の努力により、一個人の境遇も、國家社會の情態も改善せらるゝなり。又た其政府の浪費失政に關らず、國勢を進步發達せしむる程に有力なるものあり。恰かも生命の秘義の如く、啻に病氣に罹れる而已ならず、庸醫の誤診にも關らず、自然に其健康と氣力を回復することあるなり。……

政府の浪費のために經濟上に於ける英國の進步を阻害したることは疑を容るべきにあらずと雖も、而かも自然の進步を中止せしむること能はざりき。現今に於ける土地及勞働の年々の生產額は王政回復の當時若くは革命時代に比すれば遙かに大なること固より言を俟たず。故に年々此土地を耕作し、其勞働者を維持するに要する資本の額の大なること亦た疑を容るべからず。

政府が常に誅求を逞ふするに關らず、資本は陰微の間に徐々として、各自の境遇を改善せんとする動機に由り、個人の節約と思慮ある行爲に由りて斯くは蓄積せられしなり。過去に於て經濟上に於ける英國の進歩發達を促進したるものは實に此個人の努力の法律に由りて保護せられ、自由に其能力を發揮したるの結果なり、將來も亦た將さに斯の如くなるべきを信せんと欲す。然れども代々の英國政府は未だ曾て節儉の美德を以て國民を率ひたるものにあらず。されば帝王宰相等が奢侈を禁ずるの法律を作り、若くは奢侈品の輸入を禁遏して以て私人の經濟を指導せんと試むるが如きは寧ろ僭越の沙汰なりと云はざるべからず。社會に於ける最も大なる浪費者は帝王宰相の輩に外ならず。彼等をして彼等自身の費用に注意せしめよ、一個人に放任して可なり。若し爲政者等の浪費にして國家を殆ふすることなくんば、國民の浪費は敢て意とするに足らざるなり。……

第四章　利息と其財本

利息を得んがために貸出されたる財本は常に其債主に由りて一の資本と見做さる。彼は一定の時期に至らば、其使用料を添へて元金の返還されんことを期待す。負債者は是を資本として使用するも、或は又た直接消費の用に供するも固より彼の自由なり。彼若し是を資本として使用せば、彼は生產的勞働者を支持せんがために是を使用するなり。此場合に於ては、彼は其收入の部分に喰ひ込むことなくして、其資本を回復し、又た利息を拂ふことを得るなり。是に反して彼若し直接消費のために是を使用せば、彼は一個の浪費者となるにて、生產的勞働者を維持すべき箸の資金を遊惰のために徒消するなり。此場合に於ては彼は其財產或は地代の如き他の收入を喰ひ込むことなしには、其元利を支拂ふに由なきなり。

利息を得んがために貸出されたる財本は勿論以上二種の何れにも使用さる

べしと雖も、生産的に使用さるゝ場合最も多し。直接消費のために負債するものは贏がて倒産すべく、貸主は其思慮の足らざりしを悔恨するの時あらんとす。故に斯の如き目的のために貸借するは、何れの場合に於ても、—非常の高利の場合は論外なり—雙方に取りて不利益なりとす。而して斯の如き貸借の屢世に行はるゝことは論なしと雖も、而かも各人皆な自己の利害を考察するが故に、世人の想像するが如く爾かく頻繁に行はるゝものにあらず。試に普通の思慮ある富者に向て其資金の大部分を、生産者と遊食者の何れに貸與したるかと問ふものあらば、彼は其間の愚なるを嗤はん。故に縱令、世界に於て儉約を以て名ある國民ならずとも、又た其負債者の中に於てすらも、勤儉の人の數は遊食消費の徒よりも遙かに多きを知るべきなり。

生産に由りて利益を得るの目的なくして、多く金を借る階級は、抵當を提供する鄉紳士の輩なり、而かも彼等と雖も單に費消せんがために負債するものは少からん。彼等が借る所は既に其以前に費消され居るを常とす。彼等が日常消費する所の物品は小商人小製造家等より貸附さるゝ者なるが故に、彼等は是が支拂を了せんがために利子を拂ふて他より負債するの必要あるなり。斯くて借り受けられたる資本は小商人小製造家等の資本を回復するなり。是れ鄉紳士等が其地代より支拂ひ能はざりしがためなり。故に適當に云へば、彼等は單に費消せんがために借金するものと云ふことを得ず。彼等は前に費消されたる資本を回復するの目的を以て借金するものなりと云ふべし。

利息を得んがための貸金の殆んど凡ては、紙幣若くは金銀貨等の通貨を以てせらるゝ。然れども借り手が實際要求する所、貸し手が實際供給する所のものは金錢にあらずして、金錢の價値即ち金錢にて購買し能ふ物品なりと云はざるべからず。……

故に一國に於て利息のために貸出され能ふ金錢の分量は、其機關として用ゐらるゝ紙幣貨幣等の金錢の價格に由りて支配されずして、年々の生産中土地及び生産者の手中より出で來るや否や、直ちに資本たるべき運命を有し、而か

も其所有者が自ら使用することを望まざる資本たるべき部分の價格に由りて支配さるゝなり。斯種の資本は常に金錢にて貸し出され、金錢にて回收せらるゝが故に、是に由て生ずる利益は金利と稱せらる。土地の收入と異なるは云ふ迄もなく、商業若くは製造業の利益とも異なれり。何となれば商業若くは製造業に於ては所有者自ら其資本を使用すればなり。然れども此金利の場合に於てすらも、金錢は只だ其所有者の自ら使用せざる資本を他人の手に轉移する一箇の記號に過ぎず、金錢は只だ資本を運轉する一箇の器具に外ならずして、同一の金錢の貸出し若くは購買のために、幾度も繰り返して使用さるゝが故に、資本の額は金錢の額に比して遙かに大なるものなりとす。……

利息のために貸出されたる資本は年々の生産の或部分をば貸手より借り手に依托したるものと思考することを得べし。其條件は即ち其貸金の繼續する間、毎年借受人より貸附人に向て利息と稱する小額の金錢を交附し、其期末に至りて其元金を返還すること是なり。紙幣にせよ、貨幣にせよ、金錢は常に其元

利を交附するの證據として使用されれども、其金錢に由りて代表せらるゝ物件とは全く別物なりとす。

何れの國に於ても、年々の生産中土地及び生産者の手中より出で來るや否や直ちに資本を補充するの役目を有する部分の增加するに隨ひ、利息を得んがために貸出さるべき資本の額も自然に增加するものとす。所有者が自ら是を使用するの勞を取らずして、收入を得んと欲するが如き特種の資金の增加は、固より一般資金の增加に伴はざるべからず。更に言を換へて云へば、財本の增加するに隨ひて、利子のために貸出さるべき部分の分量も徐々に增大するものなりとす。

利息のために貸出さるべき財本の量の增加するに隨ひ、利子即ち其使用料は減少するものとす。其原因は曾に物品の增加するに隨ひて市價の低落を來すと云ふ一般元則に由る而已ならず、金利の場合に限る一種特種の原因あり。資本の增加するに隨て、是が使用より生ずる利益は必ず減少せざるを得ず。新た

に增加せる資本を有利に使用するの方法漸く困難となるに伴れて、資本主間に競爭を生じ、既に他人の占有せる業務に向て侵入せざるを得ざるに至る。然れども既に他人の占領せる區域に侵入して、地歩を占めんと欲せば、他人より も一層有利なる條件を提供するの外あらず。彼は其物品を他よりも幾分か廉價に賣却せざるを得ざる而已ならず、時としては其原料のために他よりも一層高價を拂はざるべからざることあり。又た勞働者の支持に供せらるべき基本の增加するに隨て生產的勞働者の需要は日を追ふて增加すべく、隨て勞働者が其働口を見出すことは容易なれども、資本家が勞働者を得んことは困難となるべく、是に於てか勞働賃金は騰貴し、利益は減少せざるを得ず。斯の如く資本の使用により生ずる利益の減少するに當りては、其使用料即ち利子の低落するは固より當然なりと云はざるべからず。

ロッシ、ロー、モンテスキユーの諸氏を始め多くの著述家等は歐洲の大部分に於ける金利低落の原因を以て、西班牙領西印度諸島發見の結果として、金銀の量を增加したるがためなりとなすものに似たり。其言ふ所に據れば、金銀の價格の低落したるがために、其一部分の使用に於ても價値を減せざるを得ず、隨て其使用料として拂はるべき代價も低減せざるを得ずと。斯の如き議論は一見頗る道理に合ふが如く見ゆれども、其實一箇の謬見に過ぎざることはヒユーム氏の既に充分に論破せし所にして、再び茲に是を繰返へすの要なきに似たり。只だ一層明瞭に其議論の誤謬を明かにせんため、左に簡單なる說明を試みんと欲す。

西領西印度諸島發見以前に於ては、歐洲の大部分を通じて、一割を以て普通の利子としたりしが、其以後漸次低落して、其國の異なるに隨ひ、最高六分より最低三分の間を往來するに至れり。試に各國に於て、銀の價格が利息の相場と同一の比例に於て下落したりと假定せよ。此場合利子の相場が一割より五分に低落したる國々に於ては、以前と同量の銀を以て、以前の半額の物品より買ひ得ずと云ふの事實あるか、否是れ決して實際の事實にあらざるのみならず、銀

價の下落が利息を低落せしむる些の傾向だも發見すること能はざるなり。然れども資本の價格の下落したる場合には當りては其原因の如何に關らず必ず同一の割合に於て利子の相場を下落せしめざるべからず。資本の價格と利子の夫とは常に同一の比率を保たざるべからざるなり。……

銀の量の增加するに關らず是に由りて流通せしめらるゝ物品の量の增加せざる場合に於ては其結果は只だ銀の價格の低落を來す而已其他に何の影響をも生ずることなし。凡ての物品の名義上の價格は騰貴すべけれども其實價は以前と更に異なることなし。同一分量の物品を以て以前よりも多くの銀貨に交換することを得べしと雖も是に由りて使用し得る所の勞力の分量も是に由りて維持し得る人間の數も以前に比して更に異なる所あることなし。資本の同樣の部分を一方より他に流通するがために以前よりも多くの銀貨の數を要すとも一國の資本は更に增減することなし。引渡の證據が恰かも多辯なる辯護士の辯論の如く繁雜になりたる而已にて引渡さるゝ物件には何等の

變動なく以前と同樣の結果を生ずる而已。生產的勞働者を維持せんがための財本は以前と同額なれば是に對する需要も亦た同一なるべきなり。故に金錢に表示されたる所謂名義上の物價若くは給料は以前より大なれども而かも實際に於ては以前と更に異なることなし。彼等は以前よりも多くの銀貨を得るならん而かも其購買する所の物品の量は以前と相同じ。而して其利益に至ては名義上に於ても更に實際に於ても更に相異なることなきなり。……

是に反して金錢の額の增減せざるに關らず年々一國內に流通する物品の量の增加することありとせば金錢の價格を騰貴せしむる而已ならず其他に種種重大なる影響を惹き起すなり。其國の資本は名稱の上に於ては同一なれども實際に於ては增加したるにて同額の金錢にて言ひ表はさるれども以前よりも多くの勞力を使用することを得るなり。又た生產的勞働者を維持する生產の部分增加するが故に自然に勞働の需要を增加するなり。其給料も勿論需要と共に增加すれども外見に於ては減少せるが如く見ゆることもあらん。彼

等が受領する金錢の額に至ては或は以前より少きことあるべきも、而かも是に由りて以前よりも多くの物品を購買することを得るなり。財本に對する利益に至ては實際に於ても、外見に於ても共に減少するを免かれず。資本の增加に由り、諸種の資本間に競爭を生ずるは固より自然の成行なりとす。

土地の通常代價は何處に於ても、金利の市價によりて左右さる。資本を有しつゝ、自ら是を使用するの勞を取らずして、收入を得んことを希望するものは、必ず先づ土地を買ふべきか、貸出して利息を得べきかを考慮す。而して土地の安全にして、種々の便益あるがために、概して金利よりも少き收入を以て滿足するを常とす。土地に隨伴する諸種の便益は人をして或程度迄其收入の少きに堪へしむると雖も、畢竟するに是れ程度問題なり。若し土地の收入にして、利息よりも遙かに低下なるに至らば、何人も土地を買ふものなきに至らん。斯くて土地の代價は自然に低落せざるを得ざるなり。是に反して、若し其便益にして、收入の少きを償ふて尙餘りあるに至らば、何人も競ふて土地を購入すべく、斯くて其代價は自然に騰貴せざるを得ざるなり。金利は佛蘭西の方英國より高く、土地の普通代價は英國よりも低廉なりとす。

第五章　資本の用途

資本は凡て生產的勞力を維持するため而已に用ゐらるべきものなれども、同一の資本に由りて動かさるゝ勞力の分量に至ては、其產業の種類の異なるに隨て大なる相違あり。恰かも其使用に由りて國內の土地と勞働より生ずる年々の生產物に附與する價格の異なるが如し。

資本の使用さるゝ方面は是を左の四種に分類することを得べし。第一、每年其社會の使用消費に供せらるべき天產物の獲得。第二、直接に使用消費し得らるる樣天產物に加工製作を施すこと。第三、以上の天產物と加工品とを其潤澤の場所より缺乏せる地方に運送すること。第四、其需要者の使用に便せんがために、是を適當の量に小分することなり。土地の改良耕作、鑛山の開掘、及び漁業

等に使用せらるゝ資本は第一部類に屬し、製造業は第二類、卸賣商は第三類、小賣商は即ち第四類に屬するなり。以上に列擧せる四種類の外に、資本の使用せらるべき方途ありと云ふことは想像する能はざるなり。

以上四種類の業務の何れも皆な他三者の存在發展に必要缺くべからざるのみならず、一般社會の便益上一日も無かるべからざるものなりとす。

先づ或程度迄天産物の供給を潤澤ならしめんがために、資本の使用せらるゝにあらざれば、製造業も商業も存在すること能はず。

使用に供する前に加工することを要する天産物の製作に資本の使用さるゝにあらざれば、天産物も生産すべからず。何となれば何人も是を需要するものなければなり。縦し自然に生産するも何等の交換價格を有することなく、社會の富に對して何をも寄與することなきなり。

過剰の地方より缺乏の地方に天産物及び製造品を運送せんがために、資本の使用さるゝにあらざれば、只だ其附近の需要に應ずるに足る丈けより生産せられず、商人の資金によりて有無相通ずるが故に、茲に始めて産業の隆盛を來すなり。

天産物若くは製造品を其需要者の使用に適する樣、相當の部分に分割するために、資本の使用さるゝにあらざれば、需要者は其當座必要の額よりも遙かに大なる分量を購買せざるべからず。例へば肉類の小賣商なき場合には各人皆な牛或は羊を一頭宛購求せざるべからず。是れ勿論富者に取りても不便のことなるが、貧者に取りては爲し得べからざることに屬す。若し貧困なる職工が一時に數ケ月分の食料を購買せざるべからずとせば、勢ひ彼は資本として使用すべきものを、其直接の消費に向けざるべからずして、遂に收入を得るの途なきに至らん。……

政治に關する著者中往々にして小商人の增加を喜ばざるものあれども、是れ全く理由なきの甚しきものなり。其必要のあらん限りは、假令是に課稅し、其數を制限せんとするも無効なるべく、若し其必要なからんか、其增加によりて彼

等互に損失を招くことあるべしとするも、是れがために社會の公益を害するが一如きことあるべからず。例へば一の都會に於て賣り能ふ八百屋物の分量は其都會及び附近の需要に由りて制限さるゝなり。故に八百屋業のために使用され能ふ資本の額は、其必要の分量を購買するより以上に昇ることなし。而して若し此資本が二軒の異なる八百屋に分割さるゝとせば、其競爭によりて、一軒にて獨占したる時よりも低廉に賣却せざるべからず。若し二十軒に分割さるゝとせんか、其競爭は愈〻劇しくして、其代價を騰貴せしめんがために團結するの機會は益〻少かるべきなり。此競爭のため彼等の中或は倒產するものあらん、然れども是に對して適當の注意をなすは彼等自身の本分にして、他より干涉すべきの限りにあらず。是がために消費者も生產者も更に何等の損害を受くることなく、是に反して彼等は獨占時代若くは競爭者の少數なりし時代よりも高く買ひて安く賣るの必要に迫らるゝなり。……

以上の四種の方法に其資本を使用するものは即ち生產的勞働者なり。彼等の勞力は其物品の上に質現し、少くとも彼等自身の維持生活に要したる價格を其物品の代價に附加するなり。農夫、製造家、卸賣商、小賣人の利益は凡て前二者が生產し、後の二者が賣買する所の物品の代價より來る。されども假令同額の資本を以上四種の方法に應用するも、是によりて生ずる生產的勞力の分量に至ては非常の相違あり、又た年々其土地と勞力より生ずる生產物に附加する價格に至ても非常の懸隔ありとす。

小賣人の資本は其利益と共に、彼が其物品を購入したる卸賣商の資本を還濟し、以て彼等をして其營業を繼續することを得しむ。生產的勞働者中直接に資本に由りて役使せらるゝものは小賣商人而已なり。されば彼れの利益中には其勞役に由りて土地と勞働より生ずる年々の生產物に附加せらるべき全價格を含有するなり。

卸賣商の資本は其利益と共に、彼等が物品を購買する農夫及製造家の資本を還濟し、以て彼等をして其業務を繼續することを得しむ。彼等が間接に生產的

勞働者を支持し、其年々の生産物の價格を增すは主として此方法に由るなり。又た彼等の資本は物品を甲處より乙處に運搬する水夫及他の運送者を役使し、曾に彼自身の利益のみならず、是等の勞働者の給料丈けの價格を其物品に附加するなり。是實に彼等の資本が直接に役使する一切の生產的勞働にして、又其直接に年々の生產に加ふる所の凡ての價格なりとす。而して是を小賣商人の資本の運用に比すれば其得る所遙かに勝れりと云はざるべからず。製造場主の資本の一部は其器械に於て、固定資本として使用され、其利益と共に、是を購求せる他の工藝家の資本を還濟す。其流通資本たる部分は材料の購求に使用され、其利益と共に、彼が是を購求せる農夫及鑛業家の資本を還濟す。然れども其大部分は年々或は夫より遙かに短かき時期に於て、彼が雇傭する勞働者の間に分配さる。而して其給料と傭主の利益丈け其材料の價値を增加するなり。故に卸賣商の資本に比すれば遙かに多くの生產的勞力を役使し、又た土地と勞働より生ずる年々の生產に對して遙かに多くの價格を附加する

なり。

同額の資本にて、農夫の夫れに勝りて、多くの生產的勞力を運用せしむるものなし。彼に取りては曾に其婢僕而已ならず、其家畜も亦た生產的勞働者たり。是に加ふるに農業に於ては自然も亦た人と共に働くなり。其勞力に對して、一錢の報酬をも拂ふを要せずと雖も、其生產物の價格を加ふること最も高價なる勞働者の勞働にも勝れり。農業に於て最も重要のことは、自然の地味をして一層豐穰ならしむるよりも——勿論彼等は是を勉むれども——自然の豐穰をして最も人間に有用なる物品を生產せしむる樣に指導するにあり。是迄荊莿と雜草とにて覆はれたる土地の、最も能く耕耘されたる穀田若くは葡萄園の如く、多くの野菜を生產することあり。又た栽培耕作等の業は地味を豐穰ならしむるよりは、只だ是を整理するに過ぎざること多し。而して或程度迄勞力を加へたる上は、全く自然の手に放任するの外なし。故に農業に使用されたる勞働者と家畜とは、製造業に於ける勞働者の如く、彼等自身の生活費に等しき價格を

其生產物に附加するに止まらず、是よりも遙かに大なる價値を附加するなり。農夫の資本と利益との外に、其地代をも還濟するなり。蓋し此地代なるものは天然力に由りて生產せるものにして、其天然力は地主が農夫に貸與せしものと思考することを得るなり。地代は想像上に於ける是等の力の大小、換言すれば想像上に於ける、自然及び人爲に由れる土地の肥瘠の度に隨て高下するなり。人力に由れりと考へ能ふ一切を引き去つて後に殘れるものは即ち自然の力に由るなり。而して是れ實に全生產物の四分の一より少きことなく、時としては三分の一以上に達することあるなり。製造業に使用されたる同量の勞力は到底斯る大なる生產を得る能はざるなり。彼等に於ては天然の力の關與することなく、全く人力に由らざるべからず。而して其生產の額は全く是に與へられたる人力の多少に比例せざるべからず。故に農業に使用されたる資本は、製造業に使用されたる同額の資本に比して、一層多くの生產的勞力に活働を與ふるのみならず、又た其生產的勞力の量に比して一層多くの價値を、

年々土地と勞力より生ずる其國の生產に與へ、隨て最も多く其國民の實際の富と收入とを增加するなり。故に農業に使用されたる資本は凡ての資本中最も多く其國家社會の福利を增進するものなりとす。……

斯くて其國の資本の農業、製造業、卸賣業等に使用さるゝ額の比例に隨ひ、其資本により活働せしめらるゝ生產的勞力の量に多少あり。又た其土地勞力より生ずる生產物に附與する價値に大小の相違を生ずるなり。

又た卸賣商業に種々の區別あり、其何れの部分に最も多く何れの部分に最も少く用ゐらるゝか、其資本の用ゐらるゝ比例に隨ひて同樣の相違あり。卸賣商業即ち賣らんがために買ふ所の商業を左の三階級に類別することを得べし。

內國商業、外國貿易、及び運輸業是なり。……

同國內の一方に於て買ひ是を他方に賣却せんがために使用せらるゝ資本は、農業及製造業に使用せられたる二種の異なる資本を還濟し、是に由りて彼等をして其業務を維持することを得しむ。……

國內の消費のために外品を購入することに使用されたる資本は、其購買の內國產の物品を以て爲されたる場合には、同じく二箇の異なる資本を還濟す。然れども其內國產業を維持せんがために使用さるゝは其一半而已。……故に假令外國貿易に使用されたる資金の回收內國商業に於けると同一の速力を以てさるゝ場合に於ても、其國內の產業に對し只だ一半の奬勵を與ふるに而已。然れども實際に於ては外國貿易の資金は內國商業の如く速かに回收せらるゝことなし。……外國貿易に使用せられたる資金が一度回收せらるゝ間に、內國貿易の資金は時としては拾貳回も運轉することを得るなり。故に其使用さるゝ資本を同額なりとせば、內國商業は外國貿易に比して、二十四倍多く其國の產業を維持し、是を鼓舞するに與つて力あるべき道理なりとす。

國內に消費さるべき外國品は時としては、內國產の物品を以てせずして、他の外國品を以て購買さるゝことあり。然れども此外國品は直接に內國產の物品を以て購買されたるか、然らざれば內國品を以て購買されたる他の物品を以て購買されたるものならざるべからず。……故に斯の如き間接外國貿易に於て使用されたる資本の結果は、直接の場合と毫も異なることなし。但し此場合に於ては他に二三の外國貿易よりの回收を俟たざるべからざるが故に、最後の回收は益々多くの時日を經過せざるを得ざるなり。

運輸業に投ぜられたる資本に至りては、內國の生產的勞力を維持せんがための、資金を取り去りて、外國のために使用するの結果となるなり。其終了の度毎に農業、製造の資本を還濟するに相違なしと雖も、自國に屬するものにあらず。……其正確に自國に入り來るものは利益而已なり。……而して是れ實に運輸業が其國年々の土地及勞力の生產に附與し能ふ全額なりとす。尤も運輸業が其國の船舶と水夫とに由りて行はるゝ場合に於ては、其運賃の支拂に要する資本の部分に限り、其國の生產勞働者の或部分に分配され、彼等の活働を維持するものとす。

第三編

經濟上に於ける各國民進歩の遲速

第一章　富の自然の進歩

文明の社會に於ける大なる商業は凡て都市と田舍との間に行はるゝものにて、農產物と製造品とを交易するにあり。其方法は固より直接に物品を交換することあり、或は貨幣の媒介に由ることあり、或は貨幣を代表する或種の紙片を用ふることあり。田舍は都會に供するに生活の必要品と製造の原料とを以てし、都會は是に對して其製造品の一部を送り、以て是が支拂に充つるなり。都會の地に於ては何等の物質をも生產せざるが故に、都會は其富と生活の必要とを悉く田舍に負ふと云ふことを得べく、然れども是がために都會而已利益を受け、田舍は損失するものと想像すべからず。田舍も都會も雙方共に利益を受くるにて、是場合に於ても他の場合と同じく、分業法により種々の異なる業務に從事するもの何れも相互に利益する所あるなり。田舍の住民が自ら製造に從事する場合には、頗る多くの入費を要するに關らず、是を都會の製造者より購買すれば、遙かに少額の入費にて事足るなり。又た都會は田舍の過剩生產物のために市場を供す。田舍の住人は此處に來りて、其己れに餘れる所を以て、其必要を感ずる物品と交換することを得るなり。而して其都會の住人の愈〻多く、其富の愈〻大なるに隨ひて、其田舍人に供する市場は濶大せらるべく、其市場の大なれば大なる程利便最も多し。都會を距る一哩の地にて收獲せる穀物も、廿哩の距離ある土地の穀物と同一の價格にて賣却さるべし。然れども後者の代價も亦た是を耕作して、市場に持來すの費用を支辨せざるを得ざる而已ならず、農夫に對する普通の利益を生せざるべからず。是故に都會附近に住する地主及耕作者は、其穀物の賣價に於て、農業の普通利益の外に、遠距離より是を

運送する費用の全額を利し。又た一方に於ては其購買せる物品の代價に於て、是を運送する費用を利することゝなるなり。試に都會附近の耕作地と、僻遠の地方にあるものとを比較せよ。田舍が都會の商業によりて得る所の如何に多きかを發見するに於て蓋し餘師あらん。……

生活の必要品は便利品若くは奢侈品よりも急を要するが故に、是が生產に從事する產業は他の產業に先だつて存在せざるべからず。故に食料を供給する田舍の耕作と改良とは必然的に便利品と奢侈品を供給する都會の發達に先立たざるべからず。都會の地に生活の必要品を送るは、耕作者自身の生活に餘裕を生じたる後ならざるべからざるが故に、都會は田舍の生產の餘裕と共に發達するの外に途なし。尤も都會は常に必ずしも其必要品を附近の村落而已に關ぐものにあらず、否な夫よりも一層廣き地方にすらも限らるゝことなく、極めて遠隔の地方若くは外國より是を輸入することあり。是がために——縱令一般規則の除外例たらざるにもせよ——異なる時代及び國民間に於て富の進

歩の上に著るしき變態を來せることあり。

右に述ぶる所の自然の順序なるものは、何れの國に於ても、人間の自然の傾向に由りて更に促進せらるゝなり。若し人爲の習慣規則の此自然の傾向を阻止することなくんば、都會は其屬する地方の耕作改良に由りて是を支給し能ふ程度以上に發達すること能はざるべし。少くとも其全地方の充分に耕作され改良さるゝ迄は然りとす。若し同一或は同一に近き利益を得べくんば、何人も商業若しくは製造業に投資せんよりは、土地の改良耕作に費さんことを欲するならん。土地に投資する場合に於ては、一層直接に自ら是を監視するの便あるのみならず、商業、製造業の如く、種々の出來事に由りて、損失を蒙むるの慮れ少し。例へば商業、製造業等に於ては、天災地變の影響のみならず、遠隔の地にある未見の人に信用を置かざるべからざるが如きこと屢、ありて、頗る不安固なれども、是に反して地主の資本は土地の改良の上に固定せらるゝが故に頗る安全なりと云はざるべからず。……

尤も土地の耕作には諸種の手工業者の助力を籍るの必要あり。是れ無しには非常に不便なるのみならず、屢、其業を中止するの止むを得ざることあるべし。鍛冶、大工、車匠、農具師、左官、煉瓦積、柔革者、靴師、裁縫家等是れ皆な農夫が其力を籍らざるべからざる所のものなり。而して是等の手工業者も亦く孤立することと能はず、相互に助力するの必要あり。而して彼等の住居は農夫の如く必ずしも多くの地積を有せざるが故に、彼等は自然に群居するに至り、茲に一の小都會若くは村落を形成することゝなるなり。是に肉舗、酒店、パン燒を始め其他の手工家、小賣商人等の附隨するに至り、漸次膨脹發展するなり。都會の住民と田舍の住民とは相互に其婢僕となりて事ふるなり。都會は不斷の市場にして、田舍の人々は此處に其農產品を持ち來りて製造品と交換するなり。都會の人々は是によりて其食料と製造の原料を得るなり。彼等が購買する所の原料と食料との量は必然的に彼等が田舍人に賣却する所の製造品の分量に依りて左右さる。故に彼等の職業も其生活も、製造品に對する田舍の需要の增加に隨て

增加するの外はあらず、而して此需要の增加は土地の改良耕作の進歩に比例するの外あらず。故に若し人爲の制度の自然の成行を阻止することなくば、都會の進步發展は何れの國家に於ても、其地方若くは國土の改良耕作の度に正確に比例すべき筈なりとす。

吾北亞米利加の植民地に於ては、今日尙未開の土地を得ること甚だ容易なるが故に、未だ何れの都市に於ても、遠隔の土地を顧客とする製造業なるもの起らず。若し手工業者等にして、附近の地の需要に應ずるに必要なるより以上の貨物を有するに於ては、彼等は是を以て進で遠隔の地の需要に應せんことを勉めず、直ちに土地を買ひて耕作に從事し、斯くて手工者は變じて一の農夫となるなり。而して如何に高給を拂ふも容易に彼等をして他人のために働かしむること能はざるなり。彼等は思へらく、手工者は顧客に由りて、生活の方便を得るものなれば、彼等の奴僕に異ならず。農夫に至ては自ら其土地を耕作して生活の必要品を得るものなれば、自ら一箇の主人にして、獨立獨行、更に他人に

依賴するを要せずと。

是に反して未開の土地なく、或は容易に是を得る能はざる國に於ては、附近の需要に應ずるより以上の貨財を有する手工者等は進んで遠隔の地の需要に應ぜんことを勉むるなり。斯くて鍛冶屋は漸次一箇の製鐵場主となり、織夫は麻若くは毛織の製造家となるなり。而して是等諸種の製造家は、漸次時日の經過するに隨ひ、一厨完全なる分業を生じ、以て諸種の方面に於て進歩改良を遂ぐるに至るなり。……

製造業と外國貿易との何れに其資本を使用すべきかを思考するに際り、若し其利益にして同樣若くは同樣に近きものならんには、何人も製造業を擇ぶや必せり。地主及農夫の資本が製造家の資本よりも安全なるが如く、製造家の資本は外國貿易の資本に比すれば、近く其監視の下にあるが故に頗る安全なりとす。何れの國に於ても、何れの時代に於ても、其農産物と製造品に過剩ある場合には、國内に於て需要せらるゝ或物品と交換せんがために、海外に輸出されざるべからず。而して是に使用せらるゝ資本の内國に屬するか、將た外國のものなるかは何れにしても敢て重要の問題にあらず。若し其社會に其土地を開墾し、其原料を製作せんがために充分なる資本を缺くとせんか。斯る場合には其國内の凡ての貨物を最も有益に使用せんがために、外國の資本に由りて、其農産物を輸出するは最も有益のことなりとす。……北亞米利加及西印度の植民地に於て、其過剩の生産物を輸出せんがために外國の資本を使用せざりしならんには、其進歩は彼の如く顯著ならざりしならむ。……

是故に自然の法則に隨へば、何れの社會に於ても、其資本の大部分は先づ第一に農業に向けられ、次に製造業、及外國貿易に使用せらるゝなり。此順序たるや極めて自然にして、苟も土地を有する社會ならんには、何れに到るも必ず目撃せらるべき現象なりとす。都會の建設さるゝ前に須らく土地の耕作なかるべからず。外國貿易の開始せらるゝものなかるべからず。

夫然り、是れ實に自然の順序にして、何れの社會に於ても、或程度迄其實現を見るべき筈なれども、近世の歐洲諸國に於ては、多くの點に於て、全く反對の結果を表はしつゝあり。其或都會に於ては外國貿易のために精巧なる製造業及遠隔の地に送るに堪ゆべき物品の製造業の物興するあり、又た製造業と外國貿易とのために其農業上に著るしき進歩發達を促したることあり、是れ皆な彼等の最初の政體より生せる習慣風俗の、其政體の全く一變せる今日迄も存在して斯の如き不自然逆行的の現象を現出せるなり。

第四編

經濟學の組織

序論

經濟學は政治家、立法者等に必要なる一種の科學と見做され、二箇の異なる目的を有す。第一は人民に豐富なる收入と生活とを供せんとするにあり。一層適當に云へば、彼等をして自ら斯の如き收入と生活とを取得することを得しめんとするにあり。第二は國家をして公共の事業を執行するに必要なる充分の歳入を得しめんとするにあり。即ち經濟學の目的は人民と主權者をして富ましむるにあり。

各國民各時代に於て經濟上に爲されたる進歩の異同により、其國民を富まし

むる方法に關して、二種の異なる組織を生せり。一は商業組織と稱することを得べく、他は即ち是を農業組織と稱すべきなり。……

第一章　重商主義を論ず

富は貨幣即ち金銀に由りて成立すとは、一般世俗の見解なるが、是れ商業の機關及び價格の尺度として貨幣の有する二箇の職分より來る自然の結果なりとす。商業の機關なるが故に、吾人は貨幣を有する時に、他の物品を有する時よりも容易に、吾人の慾求する物品を得るの便あり。故に吾人の常に勉むる所は貨幣を得るにあり。一度び貨幣を手に入るれば、是に由りて他の物品を購買することは頗る容易なり。又た價格の尺度なるが故に、他の物品を評價するに當り、是と交換し能ふ貨幣の量によりて是を決するなり。吾人が富者と云ふは多くの貨幣を有する人にして、貧者は即ち少許の貨幣を有するものを云ふなり。……富を增すと云ふは即ち多くの貨幣を得るとなり。換言すれば世俗に於ては富と貨幣とは全く同意義に解せられつゝあるなり。

箇人の場合に於けると同じく、富國とは多くの貨幣を有する國家にして、金銀を蓄積するは即ち是に達するの途なりと解せらる。亞米利加の發見後當分の間、西班牙人が他の未見の土地に到達するや否や、直ちに穿鑿を始めたるは其附近に金銀鑛ありや否やと云ふことなりき。而して其結果に由りて彼等は其土地の植民するの價値ありや否やを、征服するの價値ありや否やを判定したりき。佛蘭西より彼の有名なる成吉汗の子息等の一人に大使として派遣された る僧侶プラノ、カーピノは、彼れが屬、韃靼人より佛蘭西に多くの牛羊ありや否やを質問されたる由を語れり。彼等が牛羊の有無を問へるは、西班牙人が金銀の有無を問へると其意義全く相同じ。彼等は其國の征服するに價する程富めりや否やを問へるなり。他の牧畜人種の間に於けると同じく——彼等は概して金錢の使用を知らず——韃靼人の間に於ては家畜が商業の機關又た價値の尺度として用ゐられしなり。故に西班牙人が富は金銀より成立すと思へる如く、

彼等に隨へば富は即ち家畜に由りて成立するなり。而して此二者中樞紐人の見解こそ寧ろ眞理に近しと云はざるべからず。

ロック氏は貨幣と他の動產との區別を論じて云へり。曰く他の動產は凡て消滅し易き性質を有し、是に由て成立せる富は今年充分に潤澤なるも、浪費の結果として、何れにも輸出せざるも明年は大なる缺乏を感ずると云ふが如く甚だ信賴すべからざるものあり。之に反して貨幣は甲より乙、乙より丙に轉輾すれども、其國內に留保せらるゝ間は容易に消燼すべからざる堅實の伴侶なりとす。と。故に彼れの意見に隨へば、金銀は一國民の動產中最も堅固確實なるものなるが故に、是を增殖するは經濟學の最大目的なりと云はざるべからず。

或者は若し何れの國民にても他の世界より全く隔絕して存在することを得べしとせば、其國內に流通する金錢の多少は其國の貧富に何の關係もなしと云ふとを承認す。又た彼等は一國內に於ける金錢の多少は、只だ是に由て流通する消費品の多くの貨幣と交換さるゝか、少額の貨幣と交換さるゝかの相違ある而已。一國の實際の貧富は全く是等の消費品の多寡に由て決定せらるゝことを許容す。然れども彼等思へらく外國との關係交涉を有し、時としては外國と戰端を開くことあり、遠隔の地方に艦隊と陸軍とを支持するの必要ある諸國に於ては全く其事情を異にす、と。所謂へらく、是れ海外に多くの硬貨を支拂ふにあらざれば爲し能はざる事にして、海外に硬貨を支拂はんと欲せば國內に多く是を所有するの必要あり。故に斯の如き事情の下にある國民は平和無事の日に於て、須らく多くの金銀を貯蓄し、以て一朝有事の日に備へざるべからず、と。

斯の如き世俗の見解に隨て、歐洲の各國民は何れも其國內に多くの金銀を貯蓄するの方法を研究せり。主なる金銀鑛の持主にして、歐洲諸國へ金銀を供給したる西班牙、葡萄牙の兩國は嘗則を設けて其輸出を禁じ、或は重き輸出稅を課せり。斯の如き政策は古代歐洲の凡ての部分に於て實行せられたりと思はる。蘇格蘭の如き斯の如き法律のあるべく期待されざる國に於てすら、吾人は

嚴罰の下に金銀を國外に持出すを禁ずる法律の存在せしことを發見するなり。同一政策の佛蘭西及び英國に行はれたることあるは云ふ迄もなきことなりとす。

然れども是等の諸國の漸く商業的となるや、商人等は此禁止令の多くの場合に於て非常に不便なるを感せざるを得ず。彼等は自國に輸入し、若くは他の國に轉賣せんとする外國品を購入するに當り、金錢を以てすれば、物品を以てするに比して大に廉なる場合屢、是れあり。故に彼等は此禁令を以て商業の發達を妨害するものとして抗議するに至れるなり。

彼等は第一に外國品を購求せんがために金銀を輸出することは、必ずしも常に其國内の金銀を減少するものにあらざる而已ならず、却て是を增加する所以なるを主張す。何となれば若し是に由りて國内に於ける外品の消費を增加するにあらざるよりは、再び外國に輸出せられて、多くの利益を得、以前に拂ひ出したるより多くの金銀を持還へるべければなり。マン氏は外國貿易の此作用を農業上の播種と收穫とに比して曰く、「吾人若し農夫が地中に穀物を委棄する所業而已を見れば狂愚の沙汰なりと思はん。然れども時到りて穫々として穀物の收穫さるゝを見る時は、其播種の効の偉なるに一驚を喫せざるを得ざらんと。」

彼等は第二の理由として、金銀は其容量の小なるがために密輸出をなすこと極めて容易なるを以て、禁令は全く空文に屬するを以てす。若し充分に其目的を達せんと欲せば、只だ商業上の均衡に依賴するの外なし。即ち一國の輸出額其輸入額に超過せば、其超過の額丈けは外國より貨幣を以て支拂はるべく、斯くて其國の金銀は增加するなり。是に反して輸入の輸出に超過する場合には、其超過額は反對に外國に貨幣を以て支拂はざるべからずして、其丈け其國の金銀を減少せしむることゝなるなり。……

是等の議論の一部分は詭辯的なり。商業上に於て金銀を輸出するは却て其國の利益たることありと云ふは眞理なり。又た金銀を輸

出するによりて利益を得る場合には、縱令禁令を設くるも是を防止する能はずと云ふも眞理なり。然れども彼等が金銀を國內に留保し、是を增加せしむるために他の有用なる物品の量を增加せしむるに勝りて、政府たるものが注意を拂はざるべからざるが如く論ずるは誤れり。斯の如きことは敢て政府の注意を要する迄もなく、自由に放任せば自然に適當の分量を供給せらるべきものなりとす。……

然れども斯の如き議論も當時の人を動かすの力ありたり。當時の商業家等は是を以て議員、皇族、貴族、乃至田舍紳士を說けり。其の他能く商業の事情を解すると自信するものは何れも、是を知らずと自聲する者を說得せんことを勉めたり。外國貿易に由りて國家の富を增したることは貴族も田舍紳士も經驗に由りて、商人と等しく是を知りたれども、如何にして是を增したるかは何人も是を知らず。商人に取りては是れ自家の業務に關することなるが故に如何にして彼等自身を富ましめたるかは充分に知悉すれども、國家に關することは自

から別問題なれば其如何にして國家を富ますに至りしかは彼等と雖も固より是を知らず。外國貿易に關する法律の變更を要求するに至りし時迄、彼等は此問題を思考することすらなかりき。是時に至りて彼等は始めて外國貿易の其國家に及ぼせし好影響と、當時存在せし法律のために如何に妨害を蒙むりたるかを語るの必要に際會しぬ。而して事件を裁決すべき地位にありし判官たる人々に取りて、外國貿易に由りて國家が如何に多くの富を得しかも當時の法律に由りて妨害せらるゝことなくんば更に多くを得たりしならんとの陳述は最も有力なる辯論なりき。されば聽がて好結果を得て英佛二國に於ては金銀輸出の禁を解きて、只だ其國の貨幣而已輸出を禁ずることゝなしたり。和蘭及び其他二三の國に於ては其國の貨幣すらも輸出するの自由を與ふるに至れり。而して政府の努力は金銀輸出の禁令より轉じて、種貨を增加する唯一の方法として、貿易均衡の、一點に而已集中することゝなれり。是れ實に一の無益なる政策より、一層複雜繁縟にして、而かも等しく無効なる他の政策

に轉じたるものに過ぎず。マンが其著書の表題とせる「外國貿易に於ける英國の富」なる語は、啻に英國而已ならず、當時の凡ての商業國に於ける經濟學上の根本的金言となれり。而して凡ての商業中の最も重要なる內國商業、即ち同一の資本を以て一層多くの收入を得、國內の人民に多くの職業を與ふる內國商業は外國貿易の附屬物と見做されたり。內國商業は國內の金銀を外國に持ち行かざる代りに、外國より是を國內に持ち來ることもなし。故に其振不振は間接に外國貿易の上に影響を及ぼせども、直接に國家の貧富の上に何等の影響をも與へざるものなりと思はれたり。

其領地內に金銀鑛を有せざる國家に於ては、云ふ迄もなく外國より金銀を輸入せざるべからざること、恰かも國內に葡萄園を有せざる國に於て、葡萄酒を外國より輸入すると異なることなし。然れども一國の政府が葡萄酒の輸入に於けるよりも、金銀の輸入に對して多くの注意を拂はざるべからざるの道理毫末も存することなし。葡萄酒を要する國に於ては、常に是を購買することを得べく、金銀を要する國に於ても必要に應じて是を購買することを得べく、決して其缺乏に苦むことなかるべし。是等の物品は凡て他の物品と同じく相當の代價を以て是を購買することを得べし。是等の物品が他の物品の代價たること、が如く、他の物品も亦た是等の物品の代價たることを得るなり。故に政府の干涉なくとも、商業上の自由に由りて常に吾人に必要なる葡萄酒が吾人に供給せらるゝと同じく、吾人が金銀の必要を感ずる場合には、是が相當の對價を拂へば、何時までも是を得るに困難を感ずることなかるべきなり。

人間が購買し、若くは生產し能ふ所の凡ての物品の分量は、自然に實際の需要、即ち其物品を生產して、是を市場に持來さんがために拂はるべき地代、勞銀及利益の金額を支拂はんとする需要者の如何に由て左右されざるべからず。然れども金銀の如く爾かく容易に且つ正確に是等の需要に左右さるゝものはあらず。蓋し金銀は容積小にして莫大の價格を有するが故に、甲所より乙所に運送するの便最も多く、隨て一方には過剩ありて、一方には缺乏を成じ、一方に

於ては廉に、他方に於ては高價なりと云ふ場合に直ちに有無相通ずるの作用を逞ふするに由るなり。……

若し一國に輸入さるゝ金銀の分量其需要に超過するに至らば、如何に政府に於て其監視を嚴にするとも到底其輸出を防止すること能はず。西班牙、葡萄牙に於て、是に關して存在せしあらゆる嚴重なる法律も是を防止するの効なかりきペルー及びブラジルより斷へず金銀の輸入ありしため、是等の國々に於ては漸く其需要に超過するに至り、其近隣の諸國に比し、金銀の相場は大に下落せり。若し是に反して一國に於ける金銀の分量其需要に應ずる能はず、隨て其代價近隣の諸國に比して騰貴せば政府の干渉を俟たずして自然に輸入せらるべきなり。否な假令政府に於て其輸入を禁止することありとするも決して效能あるべからず。……關稅に關する種々の煩苛なる規則あるに係らず、和蘭及ゴッテンペルグ東印度會社の茶が英國東印度會社の夫れに比して、幾分か低廉なるがために、是れが輸入を防止すること能はず。然れども一ポンド

の茶は其最高の價格なる十八志の銀に比して約百倍の容積あり、若し是と同價の金に比すれば二千倍の大さなり。乃ち知る茶を密輸入するの困難は銀に比すれば百倍、金に比すれば二千倍大なることを。

金銀の價格の他の多くの物品の如く常に變動せざる所以の一は、慥かに其容量の小なるがため、過剩の部分より缺乏の場所に運送すること甚だ容易なるが故なりとす。他の多くの物品にありては其容積の大なるがために爾かく自由に甲所より乙所に運搬すること能はざるなり。勿論銀と雖も全く高低の變なきにあらずと雖も、其變動たるや概して秩序的、一般的にして、而かも徐々として來るなり。例へば歐洲に於ては前世紀より今世紀に懸けて、西領西印度より斷へず、輸入あるがため、金銀の價値は間斷なく徐々として下落しつゝありと想像せられたり。然れども若し其價格にして一朝落るしき變動を來すが如きことあらんか、他の一般物品の金錢に對する代價に非常の激變を來し、米國發見の當時に起りたるが如き商業界の革命を惹起せずんば止まざるなり。

自然の作用斯の如きものありと雖も、假りに一歩を譲りて、金銀を他國より購入せざるべからざる或國に於て金銀の不足を感ずることありとするも、他の物品の缺乏を感ずるよりは、其困難比較的に輕易なり。若し製造の原料を缺かんか、産業を中止せざるべからず。若し食料の缺乏を來さんか、人は餓死せざるべからず。然れども金錢の缺乏を感ずる場合に於ては、假令不便なりとは云へ、實物交換に由りて其不足を補ふを得べく、又た其賣買を貸借し、毎月若くは毎年一度宛幾多の取引者間に相互に清算するの方法を取ることを得べし。又た充分に整理されたる紙幣の制度に於ては、何等の不便なき而已ならず、却て幾多の便益を感することあり。由之觀是何れの點より考ふるも政府が其國内に金銀を留保せんがために、干渉を試むるが如きは最の極なり。本はざるべからざるなり。

然れども到る所として金銀の缺乏を訴ふる聲を聞かざるはなし。金錢も葡萄酒に於けると等しく、是を購買する代價を有せざるか、或は是を借り受くるの信用を有せざる人々に於ては缺乏を感ずること固より當然なり。是を購買する代價を有するか、否らざれば是を借り受くるに足る信用を有せんには決して其不足に困むことなき筈なり。而して金錢の不足を感ずるは必ずしも浪費遊惰の人々に限らず。時としては一箇の商業都市全體及び其附近の地方一體を通じて金錢の不足を感ずることあり。其最普通の原因は即ち過度の商業取引にあり。最も眞面目なる人々も、其商業上の計畫の其資本に比例せざるに於ては、其消費の收入に比例せずして、物品を購買する代價を有せず、又た是を借り受くる信用をも有せざる浪費者と同樣の境遇にありと云はざるべからず。其計畫の未だ結果を持ち來さざるに當りて、早く既に資本は盡き、隨て其人の信用も去らざるべからず。是に於てか彼等は諸方を馳せ廻りて、金錢を借らんことを勉むれども、何れも皆な他に貸與するの餘裕なしとて是を拒否するなり。斯の如く一般に金錢の缺乏を感ずる時と雖も、是れ必ずしも其國に流通する金銀の額の平常より稀少になれるを證するものにあらず。只だ多くの人々

は是れが代價として與ふべきものを有せずして、金銀を得んとするなり。商業上の利益の通常より大なるに當りて、大小の商賈の最も陷あり易き過失は其商取引の過度に流るゝことなり。彼等は必ずしも平常より多額の金錢を外國に送り出すにあらず。只だ非常に多額の物品を內外より信用を以て購買し、是を遠隔の市場に送りて、貸主より支拂要求の來る前に、其代價の回收せんことを期待しつゝあるなり。而かも世事悉く意の如くならず、賣りたる物品の代價の回收し得ざるに早くも、一方より代價の請求は來るなり。是に於てか、彼等は手中に金錢に換へ得べき何物をも有せず、又た其借金の抵當に供すべき物をも有せず、遂に進退維谷まるに至るものとす。……

富は貨幣即ち金銀に由りて成立せず、金錢に由りて成立す。而して金銀は只だ他の物品を購買するに於て而已價値あり。斯の如きことを眞面目に論證せんとするは、事餘りに明白にして、寧ろ滑稽の沙汰なり。貨幣は固より資本の一部分を形成す。而かも其一小部分にして、且つ最も利益少き部分なることは前既に是を論證せり。

金錢を以て物品を購買するは、物品を以て金錢を購買するよりも概して容易なり。然れども是れ必ずしも金錢が他の物品に比して、更に重要なる富の部分なるが故にあらず。只だ貨幣は最も能く人に知られたる商業の機關にして、容易に他の物品と交換することを得るが故なりとす。勿論如何なる物品に對しても常に同一樣に容易に交換され得るにはあらず。加之多くの物品は貨幣に比すれば、速かに滅盡するが故に、是れを保存するの便少し。又彼れが其貨幣を庫中に藏する時よりも、他の物品として其の手中にあるに當りて金錢の需要に際會し支拂に困難する場合多し。又た彼れは物品を購買する時よりも、是を賣却することに於て直接に其の利益を得るなり。凡て是等の事情相綜合して何人も其の有する金錢を物品に換ふるよりも、其の物品を金錢に代ふることに熱中するに至りしなり。夫れ然り、一箇の商人は其の庫中に多くの物品を藏しつゝ、適當の時機に是を賣却し得ざりしがために、破產に陷ゐることなしと

云ふべからず。然れども一國家に於ては斯の如きことは到底あり得べきにあらず。時としては一商人の資本の全部金錢に交換するの目的を有せる消費品より成立せることなきにあらず。然れども一國家に於ては、海外より金銀を購買するの目的を有する物品は、其土地と勞力より年々生ずる生産物中の一小部分に過ぎず。故に金銀を購買することを目的とする物品が金銀に交換し得られずとも、國家は決して倒産することなきなり。勿論國家は是れがために多少の不便損失を蒙むることあるべし。而して或は貨幣の不足を補ふに足るべき何等かの方法に依頼するの必要に迫らるゝこともあらん。然れども其土地と勞力との年々の生産は相同じく、或は相同じきに近し。何となれば是を維持せんがために使用せらるゝ消費資本は年々相同じく、或は殆んど相同じければなり。而して物品が金錢を引附くることは金錢が物品を引附くるが如く爾かく容易にあらずと雖も、而かも長年月の間には、物品の金錢を引附くることは一層正確に行はるべきなり。物品は金錢を購買する事の外多くの用途に供せらるれども、金錢は物品を購買する事の外、何事をも爲す能はず。故に金錢は必ず物品に附隨すれども、物品は常に必ずしも金錢に附隨するものにあらず。物品を購買する所のものは必ずしも再び是を賣却するに限らず、自ら是を費消することあるべし。然れども是を賣るものは必ず後に何物かを買はんことを意味するなり。買ふものは賣、其金證を爲すことあり、然れども賣るものは只だ其用務の一半を爲し了りたるに過ぎず。換言すれば人の金錢を慾望するは、金錢を最後の目的とするにあらず、是を以て他物を購買せんとを希望するなり。

或は曰く消耗品は凡て速かに消失すれども、金銀は比較的永久に存續すべし。若し斷へず、外國に輸出さるゝことなくんば、數代の間には遂に積りて驚くべき國富を形成するに至らん。故に此永存的の性質を有する金銀を以て、忽ちに消費さるべき物品と交換するは國家に取りて非常の損失なりと云はざるべからず。然れども英國の金物と佛蘭西の葡萄酒とを交換するを以て英

國の損失なりと思考するものは恐らく是なからん。而して論者の言に隨へば、金物は葡萄酒に比すれば永續的なるが故に、若し是を輸出することなくんば、數世紀の後には、英國は鍋釜を以て滿たさるゝに至るべき筈なり。而かも全く此事なきは、是等の器具の數は其國内に於ける必要の度に隨て制限さるゝが故なり。其食物を焚燒するの必要以上に鍋釜を所有するは愚是より甚だしきはなし。食物の量の增加するに隨て、鍋釜の數も自から增加するに至らん。而して增加したる食物の一部分は是を購買せんがため、若くば是が製造に從事する職工を支持せんがために消費さるべきなり。金銀の場合に於けるも亦全く是と異なることなし。一國に於ける金銀の額は其國に於ける必要の程度に由りて制限さるべきなり。即ち其大部分は通貨として使用され、一部分は金銀器として家庭に保存さるべし。而して一國に於ける通貨の額は、是に由りて流通せしめらるゝ物品の價値に由りて左右さるべく、物品の價値を增加すれば、直ちに其一部分は海外に送り出されて、必要なる貨幣を購買するに用ゐらるべし。又た金銀器の數は、斯の如き貴澤を爲し得る家庭の數と、其富の程度に由りて制限さるべく、斯の如き家庭の數と富の程度を加ふるに隨て、其增加したる富の一部分は、何れかに於て、斯の如き物品を購買するに使用せらるべきなり。一國に必要の程度を超へて、金銀を輸入し、又は是を保留して以て其富を增さんと企つるは、一家に必要以上の鍋釜を貯へて以て其家庭の幸福を增さんと試むると一般、笑ふべきの至りなりとす。曾に其富を增さゞるのみならず、不必要なる金銀を購買するがために、國民に必要なる衣食住の資を減ずるの結果となるなり。金銀は通貨の形に於て存するにせよ、或は地金として存するにせよ、畢竟するに一の器具に過ぎざること、鍋釜の一の器具に過ぎざると更に異なることなきなり。金銀の用途を增加せよ、金銀に由りて準備せられ、流通せしめらるゝ消費品を增加せよ、金銀は期せずして增加すべし。若し然らずして不自然の方法を以て是を增加せんとせば、却て其用途を減じ、隨て其額をすら減ずるに至るべし。何となれば其使用に於て必要とせらるゝ以上に增加する能

はざるは當然のことなればなり。若し其必要以上に金銀の額を增加せんか。其運轉は頗る容易のことなり、且つ是を死藏するの損失太だ大なるを以て、如何に嚴重なる法律を設くるも其海外に流出するを禁ずること能はざるなり。

外國と戰爭に從事し、遠隔の地に艦隊と陸軍を維持せんがためにも必ずしも金銀を蓄積するを要せず。艦隊と陸軍の維持さるゝは金銀に由らずして、消費すべき物品に由るなり。若し國民にして、其年々の產業と、土地及勞力より生ずる收入とを以て、是等の消費すべき物品を購買することを得ば、以て海外との戰爭に從事することを得るなり。

國民が其遠隔の國にある自國の軍隊の費用を支拂ひ、其兵糧を給するの途三種あり。第一は外國に其蓄積したる金銀を發送するなり。第二は其製造品の一部分を送るなり。第三は即ち其農產物の一部分を送ること是也。

各國民の貯蓄せる金銀の種類を三箇に類別することを得べし。第一は流通貨幣なり。第二は私人の家にある地金銀なり。第三は多年の節儉によりて蓄積され、國庫に藏められたる貨幣なりとす。

一國の流通貨幣には殆んど過剩なきが故に、其中より多くの貯蓄をなさんことは殆んど望み得べからず。國內に於て年々賣買せらるゝ物品の價格は其消費者に是を流通分配せんがために多少の金錢を要す。而して其他に餘す所とてはあることなし。流通の溝渠は正さに是を滿たすに充分なる量を有するが故に、實に其以上を容るゝの餘地なきなり。然れども外國と干戈を交ふるに當りては、此溝渠より何程が引出さるゝを以て常とす。國外に於て維持さるゝ人々の多くなるに隨て、夫丈け國內に於て維持さるゝものゝ數を減ずる道理なり。隨て流通する物品の量も少く、小額の貨幣にて事足る次第なり。而して戰時に際しては、大藏證券、海軍證券、銀行紙幣等種々なる紙幣の發行さるゝありて、金銀貨の代理をなし、以て多くの硬貨を國外に輸送することを得しむ。然れども是等の手段は長期に涉りて、巨額の軍費を要する對外戰爭を維持せんには甚だ賴むべからざる方法なりとす。

戰時に際りて私人の有する地金銀を溶解することは一層數ふるに足らぬ事なり。此前の戰爭の始めに當り、佛蘭西に於て、是を試みしかども、見るに足る程の結果を奏せずして止みぬ。

古へに於ては、帝王の庫中に貯藏されたる金銀は、此目的に對て頗る大なる財源たりしかども、今日に於ては、普魯西亞王を除くの外、歐洲に於て斯の如き政策を採用するものあるを聞かざるなり。

現世紀の戰爭は是を其以前に比すれば、最も巨額の費用を要すれども、是を支給せんがために、一國の通貨、地金銀若くば帝王の貯蓄等に依頼すること最も少し。此前の英佛戰爭に於て英國の費やす所、七億五千萬圓の新公債、地租一ポンド」に就き二志宛の附加稅、及び年々減債資金より借入れし額を併せて總計九億圓に昇れり。而して是費用の三分の二は獨逸、葡萄牙、亞米利加、地中海諸港、東西印度等に於て費やされたり。然れども英國の王は貯蓄金を有せず。吾人は是がために地金銀の溶解されたることを聞かず。而して當時國内に流通せる

金銀貨の額は一億八千萬圓以上に昇るべしとは想像されず。されども金貨の改鑄に由りて大に低價にせられたりと信せらるゝが故に、吾人の見聞せる中の最も巨額に見積れる者の意見に隨ひ、假りに是を三億圓と想像すべし。若し吾人の有する貨幣に由りて戰爭を維持し得たりとせば、尚其全額を支出したる上、六七年間に少くとも二回、回收せらるべからず。而して斯の如きことのあり得べしとは到底想像の及ぶ所にあらず。政府が貨幣を保留せんことを勉むるの如何に不必要なるかは是に由ても明かに認むることを得べきなり。

貨幣の流通は此時期の間通常よりも空虛なりしとは見えず。勿論金錢の缺乏を感せしものありしなるべきも、彼等は是に代ふべき物品をも所有せざるものなり。尤も戰時殊に其終期に當みては、外國貿易の利益非常に大なりしが故に、斯る場合の常例として、英國全體を通じて、過度の商取引を來し、其結果として到る所に通貨の不足を訴ふる聲を聞けり。金錢に代ふべき物品をも、又た他より借り受くるの信用をも有せざる多くの人々は金錢の缺乏に困めり。而し

戰時に際りて私人の有する地金銀を溶解することは一層數ふるに足らぬ事なり。此前の戰爭の始めに當り、佛蘭西に於て、是を試みしかども、見るに足る程の結果を奏せずして止みぬ。

古へに於ては、帝王の庫中に貯藏されたる金銀は、此目的に對て頗る大なる財源たりしかども、今日に於ては、普魯西亞王を除くの外、歐洲に於て斯の如き政策を採用するものあるを聞かざるなり。

現世紀の戰爭は是を其以前に比すれば、最も巨額の費用を要すれども、是を支給せんがために、一國の通貨、地金銀若くば帝王の貯蓄等に依頼すること最も少し。此前の英佛戰爭に於て英國の費やす所、七億五千萬圓の新公債、地租一「ポンド」に就き二志宛の附加稅、及び年々減債資金より借入れし額を併せて總計九億圓に昇れり。而して是費用の三分の二は獨逸、葡萄牙、亞米利加、地中海諸港、東西印度等に於て費やされたりと雖も英國の王は貯蓄金を有せず。吾人は是がために地金銀の溶解されたることを聞かず。而して當時國內に流通せる

金銀貨の額は一億八千萬圓以上に昇るべしとは想像されず。されども金貨の改鑄に由りて大に低價にせられたりと信せらるゝが故に、吾人の見聞せる中の最も巨額に見積れる者の意見に隨ひ、假りに是を三億圓と想像すべし。若し吾人の有する貨幣に由りて戰爭を維持し得たりとせば、尙其全額を支出したる上、六七年間に少くとも二回、回收せられざるべからず。而して斯の如きことのあり得べしとは到底想像の及ぶ所にあらず。政府が貨幣を保留せんことを勉むるの如何に不必要なるかは是に由ても明かに認むることを得べきなり。貨幣の流通は此時期の間通常よりも空虛なりしとは見えず。勿論金錢の缺乏を感せしものありしなるべきも、彼等は是に代ふべき物品をも所有せざるものなり。尤も戰時殊に其終期に於ては、外國貿易の利益非常に大なりしが故に、斯る場合の常例として、英國全體を通じて、過度の商取引を來し、其結果として到る所に通貨の不足を訴ふる聲を聞けり。金錢に代ふべき物品をも、又た他より借り受くるの信用をも有せざる多くの人々は金錢の缺乏に困めり。而し

て彼等が借り受くることを得ざりしが爲に、償主は其支拂を得る能はざりしなり。然れども金銀は是と交換すべき價格を有する人々に取りては是を得んこと決して困難にあらざるなり。

故に最近戰爭に要せし非常の費額は金銀の輸出に由らず、主として種々なる物品に由りて支拂はれたるものなることを知るべし。若し政府或は其命令の下に働く者が、一の商人と外國に爲替を取組むべく契約したりとせよ。彼は必ず金銀よりは他の物品を送りて是を決濟するならん。若し其國に於て英國の物品を需要せずとならば、彼は是を需要する國に送りて、爲替券を購求すべし。物品の輸送が能く其市場の情況に適せば、常に相當の利益を持ち來すべしと雖も、金銀を輸出する場合には何等の利益をも生ずることなきなり。商人が外品を購入せんがために金銀を輸送するも是がために直接に利益を生ぜず、其是を生ずるは其物品を賣却する時にありとす。然れども彼等が負債を償却せんがために金銀を輸送するに當りては、是が對價を得ることなきが故に、隨て利益を見ることなきなり。故に彼等は金銀よりも物品に由りて外債を償却するの方法を見出さんことを常に勉めつゝあるなり。「吾國民の現狀」の著者は戰爭當時巨額の英國品が海外に輸送せられて、而かも是が代價を持ち來すことなかりし情態に就て論評を下せり。

前記の三種類の外、凡ての商業國間に貿易の目的のため互に輸出し、或は輸入さるゝ多くの地金銀あり。而して恰かも一國民間に貨幣の流通するが如く、國際間に流通するが故に、是を一の大商業共和國に於ける貨幣と稱するを得べし。一國の貨幣が其中に流通する物品によりて支配さるゝ如く、國際的の貨幣は國際間に流通する物品に由りて左右さるゝなり。共に其職分とする所は交換の便を增すにあり、一は國內に於ける箇人間に働き、他は即ち列國間に働くの相違ある而已。固より最近戰爭に於て此國際的貨幣の或部分の使用されたることは當然のことなるべし。戰時に於ては其運動方向平和の時とは大に異なるものあるべく、即ち主として戰地に向て動き、戰地及び其附近の地方に於

ける支拂に充てらるゝならん。夫れ然り、國際的貨幣の多くの部分が、斯の如くして使用されたりとするも、是れ年々英國の物品若くば夫れを以て買はれたる或物に由りて購買されたるものならざるべからず。畢竟するに英國をして、其戰爭を維持せしめたるものは、年々其國の土地と勞力とより生産したる物品に外ならざるを覺るべきなり。……

遠隔の國に於て軍隊の支拂を了し、其兵糧を買ひ入れ、又た是が費用に充つべき國際的貨幣を購買せんがために、外國に輸送するに最も適當せるものは、少量にして高價を有する精巧なる製造品なりとす。故に年々斯る製造品の過剰を有し、是を外國に輸出する國に於ては、金銀を輸出することなく、否な輸出すべき金銀を有することすらなくして、長く外國戰爭に從事することを得るなり。尤も此場合に於ては斯る製造品の年々の過剰は、何等の對價なくして外國に持ち行かれざるを得ず。政府は商人より外國に對する爲替を買ひ、是を以て軍隊の支拂に充て、又た其必要品を購求するなり。……

長期に渡りて、巨額の失費を要する外戰は農產物の輸出に由りて維持さるゝ能はず。軍隊の支拂と、食糧に充分なる丈けの農產物を海外に輸送せんは容積の過大なるがために到底爲し能はず。加之、多くの國に於ては其農產物は自國民の必要に應ずるに足るのみにて、其他に過剩を有せず。故に其大部分を海外に輸送することは即ち國民の必要品を取り去ることゝなるなり。然れども製造品の輸出に至ては是と異なり。是が製造に從事せる職工勞働者の維持費は國內に留保せられ、只其製品の過剩の部分而已海外に輸送さるゝなり。古への英國王は中絕することなしに、長年月に渡る外戰に從事すること能はざりしとはヒューム氏の屢〻言明する所なり。此時代に於ける英國は在外軍隊の支給に充つべき何物をも有せざりき。農產物は僅かに其國民の需要を充たすに足るのみなりき。而して僅かに存せる製造品は頗る粗笨のものにして、其容積の徒らに大にして、而かも其價格の小なること農產物と撰ぶ所なかりき。……金銀を其國に輸入することは決して外國貿易より生ずる主要の利益にあら

ず。焉んぞ、是を專一の利益なりと云はんや。外國貿易に於ては、是に從事する雙方の國民何れも二箇の異なる利益を受くるものとす。是に由つて其生產物の過剩にして、國內に需要を見出さゞる部分を國外に運び出し、其代價として國民の需要する物品を持ち還るなり。……又た是に由りて、內國市場の狹隘のため技術、製造業の上に適當の分業の行はるゝを妨け、惹いて充分の進步發達をなすを妨ぐるが如きことなからしむるなり。其生產物の內國の消費を滿たして尙餘れる部分のために、廣汎なる市場を開拓することに由り、其生產力を增加し、年々の生產をして極點に達せしめ、隨て國家社會の收入と富とを增加することゝなるなり。

一國の富は貨幣即ち金銀に由りて成立すとの俗見を充分に打破せんことは頗る冗長に流れ、讀者の倦怠を招くの恐なきにあらざれども、吾人は是を以て頗る重要のことゝ信じたり。前既に記述せるが如く、通俗に於て貨幣なる語は富を意味せり。斯の如き言語の不明瞭よりして、貨幣と富とを同一視するの愚

なるを充分に了解する者すらも、其主義を忘れ、論辯中何時の間にか知らず知らず是を以て確定の眞理なるかの如く言ひ做すことあり。商業に關する有名なる著者にして、一國の富は曾に金銀而已ならず、土地、家屋、其他種々の動產に由て成立すとて、其議論を始めながら、其議論の進行するに隨ひ、何時の間にか、土地と家屋と動產とは其記臆中より逸失し去りて、一國の富は金銀より成立し、商工業の大目的は是を增加するにあるが如くに論ずるものあり。

一國の富は金銀に由りて成立す。而して自ら鑛山を有せざる國に於ては、商業の利得、即ち輸入せらるゝより多くを輸出する事によりてのみ此目的を達し得べし。との二箇の原則の樹立さるゝや、其結果として經濟學の目的は出來得る限り內國消費のための外品輸入を減少し、出來得る限り多くの內國品を輸出するにありとせざるべからず。故に國家を富ましむる二大機關は輸入を制壓して輸出を奬勵することゝなるなり。……

第二章　自國に生産し得る物品の輸入を制限する事

高率の關稅に由り、或は絶體的に是を禁止することに由りて、自國に生産し能ふ物品の輸入を制限することは、以て或程度迄是等の物品の生産に關する産業をして內國市場を獨占することを得しむるなり。……

內國市場を獨占することに由りて、其産業の上に大なる奬勵を得、斯る特種の事情なき時に比すれば遙かに多くの勞力と資本とを其産業に向はしむることとあるは疑ふべからざるの事實なりとす。然れども是がために社會の一般産業を增加すべきか、又た是をして最も適當の方面に向はしむべきかは容易に決定すべからざる問題なりとす。

社會の一般産業は是に使用され能ふ資本の額に超過すること能はず。人の使用し能ふ勞働者の數は其資本額に比例せざるべからざるが如く、社會の凡ての人に由りて使役され能ふ勞働者の數は其社會に於ける全資本の額に比例せざるべからず。商業に關して如何なる法律規則を制定するとも、其資本が支持し得る程度を超えて其産業の分量を增加すること能はず。只だ自然に放任すれば他の方面に向ふべき資本の部分を特種の方面に向はしむるを得るのみ。而して其自然の方向を轉じて人爲的に他に向はしむることが社會のために利益なるや否やは容易に斷言し得る所にあらざるなり。

何人も其資本を最も有利の方面に使用せんと常に勉めつゝあり。固より彼の念とする所は一身の利益にして、社會の利益にあらず。然れども其自利を圖ることが自然に或は一層適切に云はゞ、必然的に彼をして社會に最も有利なる産業を撰ばしむるに至るなり。

第一、各人皆な出來得る限り、其身邊に近き所に其資本を使用せんことを望むべく、隨て彼若し普通若くば普通より甚だしく劣らざる利益を有することを得ば、其資本を內地の産業に投ずべきなり。

斯くて凡ての卸賣商人は同等若くば同等に近き利益を得ば、自然に外國貿易よりも、國内の商業を撰ぶべく、運送業よりは外國貿易を撰ぶならん。……然れども内國商業に使用さるゝ資本は、外國貿易に使用さるゝ同額の資本に比すれば、一層多量の産業を運轉せしめ、又た多數の國民に收入と職業とを與ふべく、外國貿易を運送業に比すれば又た同一の關係にあるべきことは前既に是を說けり。故に同一若くば同一に近き利益の下にありては、何人も自然に内國産業を興隆せしめ、其國民の大多數に收入と職業とを得しむる方途に其資本を使用するの傾向を有するなり。

第二、内國産業のために其資本を使用するものは、何人も必ず其生産の最も大なる價格を有し得る樣に其産業を指導せんことを勉むるに相違なし。産業より生ずる生産とは、産業によりて其主體即ち材料の上に附加せられたるものを云ふなり。而して事業主の利益は此生産の價値の大小に比例するなり。人が産業のために資本を使用するは利益を得んことを望めばなり。故に彼は常に最大の價格、即ち金錢若くば他の物品の最大量と交換し得る價格を生産する事業のために其資本を使用せんことを勉むべきなり。

然れども各社會の歲入は常に其産業の全生産の交換價格と全く相同じ、否なこの二者は全く同一物なりと云ふことを得べし。而して各人何れも内國産業のために其資本を用ゐんことを勉め、其産業の最も大なる價格を生産せんことを計るが故に、必然の結果として、各人皆な社會の歲入をして出來得る限り大ならしむることゝなるなり。勿論各箇人は概して公益を圖るの意なく、又た如何にして公益を增すべきかを知ることなし。彼れが外國貿易よりも内國の商業を撰ぶは、己が安全を庶幾ふがためのみ。彼れが其産業をして最も多くの價格を生産せしめんとするは、只だ己が利益を思ふがため而已。されども多くの他の場合に於けると同じく、一の見えざる手に導かれて、自ら知らざる或目的を完成せんと勉めつゝあるなり。彼れが自ら是を知らざるは必ずしも社會のために不利なりと云ふことを得ず。人各已が利益を追ひ求むることにより、反

て其社會の公益を圖らんとして勉むる時よりも、公益を增進すること屢、是れあり。吾人は公益のために商業を營まんとする人に由りて多くの善事の爲されたることあるを聞かず。商人が斯の如きことを標榜するは寧ろ矯飾の嫌あり。吾人は彼等が其私利を追求するに於て敢て其不可なるを見ざるなり。

如何なる種類の內國產業に其資本を使用すべきか、如何なる產業が最も多くの價格を生產し得べきかは、政治家、立法者等よりも、其地方の情況に精通する事業家の方、是を判斷するに於て、遙かに便利の地位にあり。若し政治家にして如何なる方面に其資本を使用すべきかに就て人民を指導せんと欲せば、管に彼等に取りて不必要なる種々の思慮を要するのみならず。個人には勿論、如何なる政治機關にも委すべからざる權限を以て彼等に許さざるべからざることゝなるなり。而して自ら斯の如きことを爲し得るとの忘想を有する者の手中に是を托するより大なる危險はあらざるなり。

如何なる技術若くば製造業にせよ、內國の產業に內國市場を獨占せしむることは、如何なる方面に其資本を使用すべきかに就て個人を指揮命令するの結果となり、如何なる場合に於ても無益有害の政策なりとす。若し內國の生產に して、外國生產品と同樣の價格にて市場に持ち來すことを得ば法律は全く無用の長物なり。若し然する能はざる場合に於ては、概して有害たるを免かれず。自家に於て製造するよりも、廉價に購買し得るものを、自家に於て製造する勿れとは思慮ある家長たるもの、守るべき金言なり。裁縫師は自ら靴を作らず、靴師に就て是を買ひ求め、靴師は自ら其衣服を裁縫せずして是を裁縫師に依賴す。農夫は又た自ら衣服をも靴をも製作せず、夫々の職司に就て是を買ふなり。彼等は各其熟練せる業務に全力を注ぎ、其生產の一部分、即ち其一部分の代價を以て其必要品を購買するを以て利益とするなり。

一家の經濟に於て賢明の所置とせらるゝことは、國家の經濟に於て獨り然らざるの理なし。若し外國に於て吾人自ら是を製造するより廉價に是を供給し得る物品あらば、吾人が有利の事情の下に產出したる生產物の一部分を以て

是を購買するを可とす。一國の總產業は常に其資本の額によりて左右さるゝが故に、敢て是がために減少するの恐れなきこと、前記靴師、裁縫師、農夫の場合に於けると敢て異なることなし。只だ最も有利の事情の下に使用さるべく方向を見出さんがために殘さるゝ而已なり。自ら製造するよりも廉價に購買し得ふ物品の製作に向はしめられたる時には、其資本の最も有利の事情の下に使用されざること勿論なり。されば斯くの如く自然に最も有利なるべき方面より人爲的に他に轉せしめらるゝに當りては、多少其年々の產額を減ずべきこと又た勿論のことなりとす。故に其國內に年々產出する生產物の交換價格も亦た、立法者等の企圖するが如く增加せざるのみならず、却て減少するものなりとす。

斯の如き人爲の法律により、時としては或種の製造業は自然に放任するよりも速かに其國內に樹立され、或時期の後には外國と同價若くば其以下にて生產するを得るに至ることあるは慥かなり。然れども一國の產業及び收入の全

額は是がために更に增加することなきなり。一國の產業は只だ其資本の增加するに由りてのみ增加するを得べく、而して資本は只だ其收入を貯蓄することに由りて而已增加することを得べし。然れども斯の如き法律の直接の結果は其收入を減少することゝなるなり。故に自然に放任して、其資本と產業とを自由に最も有利の用途を發見せしむるに比し、速かに其資本を增加し得べしとは想像すべからざるなり。

斯の如き法律なきため其國內に或特種の製造業の興起する機會なしとするも、是がために更に損失する所あることなし。其期間の何れの時期に於ても、其全資本及產業は他の事業の上に、最も有利なる事情の下に使用されつゝあり。而して何れの時期に於ても、其收入は其資本に由りて得能ふ最大のものなるべく、隨て一國の資本と收入は最も大なる速力を以て增加すべきなり。

或特種の物品の生產に關して、一國が他の國に勝りて有する便利は、時としては全世界擧つて是と競爭するの無益なることを承認する程に大なることあ

り。

玻璃と温室と墻壁との助に由りて、蘇格蘭に於て上等の葡萄及び葡萄酒生産さるれども、其葡萄酒は外國より輸入さるゝ同等の物品に比して約三十倍の生産費を要するなり。單に蘇國に於ける「クラレット」及び「バーガンデー」共に葡萄酒の名の醸造を奬勵せんがために、一切の葡萄酒の輸入を禁ずるが如き法律を誰れか正當と認むるものあらんや。而かも若し外國より購買するに比すれば三拾倍の費用を要する事業に強て其國の資本を投せしむることの不道理なるを知らば、縦令其差は三拾分の一なりとも或は三百分の一なりとも、其不道理なることは同一の理にあらずや。二國の便利の他國に比して優越なることが自然的なるにせよ、或は人爲的なるにせよ、其結果は同一なりとす。一國が他國に比して便利なる事情を有する間は其便利を有する國に就て購買するを以て利益となすなり。一の職工が其隣人に比して、或物品を製作する上に於て便利の事情を有すと云ふが如きは、全く人爲的のことなれども、而かも互に其長所を有する者に就て購買するを以て便利となすに至ては異なることなきなり。……

然れども內國の産業を保護せんがために、外國品に對して課稅するを可とすべき場合二箇あり。

第一、或特種の産業の國防のために必要なる場合なり。例へば英國の國防は主として水夫と船艦の數に依頼す。故に航海條例に於て、英國の水夫と船舶とをして、其國の貿易を獨占せしめんが爲に、外國の船舶に對して重稅を課し、或は全く是を禁止するが如きは、固より當然の所置なりと云はざる可らず。……航海條例の制定せられし當時、英國と和蘭陀とは敢て干戈を交へたるにあらずと雖も、兩國間に蟠まる惡感は最も危險の情態にありき。此條例の始めて制定されしは長期國會時代にして、其後間もなく民政時代及びチャールス第二世時代に於て和蘭戰爭の破裂を來せり。故に此有名なる條例の或部分が兩國の惡感より胚胎し來れりとするは決して理由なき事にあらずと雖、恰も最も

賢明なる智恵に由りて指導されたるが如く、頗る時宜に適したるものなりき。當時に於ける國民の反感は偶然にも、最も深慮ある人の計劃したると同樣の目的、即ち當時英國の安全を切かすに足る唯一の海軍國たる和蘭海軍の勢力を減少するの目的に向て働きしなり。

航海條例は固より外國貿易のために利あらず、隨て夫より生ずる國家の繁榮を防害すること云ふ迄もなし。一國民が外國に對する商業上の關係も亦た箇人間の關係と異なることなく、出來得る限り安く買ひ、出來得る限り高く賣らんとするなり。然れども最も廉價に是を買はんと欲せば、完全なる商業の自由ありて、各國民競ふて其物品を持ち來る樣にせざるべからず。又た最も高價に是を賣らんと欲せば、多くの買ひ手の其市場に來集する樣せざるべからず。航海條例は英國の商品を海外に輸出せんがために來る所の船舶に課稅せざるは勿論なれども、而かも外國人にして禁示或は重稅に由りて、貿ることを防害さるゝとせば、彼等は常に購買すること能はず。何となれば彼等は積荷なくして英國に來らざるべからず、ために損失を蒙むらざるべからざればなり。故に賣手の數を減ずれば、勢ひ買手の數をも減せざる能はず。隨て商業上の自由ある時に比すれば、外品を高價に買はざるべからざるのみならず、自國の生產物を安價に賣らざるべからざるなり。然れども一國の防禦は其富よりも重大なり、思ふに航海條例は商業に關する英國の法律中最も賢明なるものと稱して差支なからん。

第二、內國の產業を保護せんがために、外國品に課稅するを可とすべき第二の場合は、或種の物品に對し先方に於て課稅する時是なり。此場合に於ては同種の外國品に對して、同額の關稅を賦課するを以て至當とす。是がために內國の生產をして內國市場を獨占せしむることなく、又た是がために自然に放任する場合よりも多くの資本と勞力を該產業に向はしむるの恐れなし。只た課稅のために自然の方向より轉じて、一層不利の方面に資本の向はんとするを妨げ、而して課稅後も其以前と同一の立脚點に於て內外の物品をして競爭せ

宮國論

しむるなり。……

內國品保護のため外品に課稅するを利とする場合の二箇ある如く、他に二箇の大に思考を要する條件あり。一は如何なる程度迄或種の外國品の自由輸入を許すべきか他は卽ち一旦自由輸入を中止したる後、如何なる程度迄又た如何にして自由輸入を恢復すべきかと云ふこと是なり。

如何なる程度迄外品の自由輸入を許すべきかを思考せざるべからざる場合は、或外國に於て吾國の製造品の輸入を禁じ、又は是に重稅を課する場合是なり。此場合に當り、報復の手段として、其國より吾國に製造品を輸入するを禁じ、若くば重稅を課するは、誠に人情の自然なりと云はざるべからず。各國民共に斯の如き手段を取ることを躊躇せざるに似たり。……

若し是に由りて對手國をして、其禁止を解き、若くば其重稅を輕減せしむることを得ば、斯の如き報復的手段も亦良政策なりと云ふことを得べし。以て外國の大市場を恢復することは、一時或種の物品に對して高價を拂ふも、其利益は

損失を償ひ得て餘りあるべし。然れども斯の如き報復的手段が能く其目的を達し得るや否やを判斷するは恐らく立法者等の智能に屬せざるならん。彼等の思慮は彼の俗に政略家、若くば政治家と呼ばるゝ譎詐狡猾にして、其評議は常に一時的變動のために左右さるゝ動物の伎能と同一の原則に由りて支配さるゝなり。……

外品の自由輸入の暫時中止されし後、再び是を回復せんとするに當り、如何にして、如何なる程度迄是をなすべきかを熟考するの必要は、或特種の製造品が、是を競爭の地位に立つべき凡ての外品の輸入を禁じ、又は重稅を課する事に由り、多數の職工を傭使するに發達したる時にあり。斯の如き場合に於ては周到の用意を以て徐々に其自由を回復するを以て最も適當の所置となすべし。是に反して若し一朝俄かに一切の制限を撤去するが如きことあらば、低廉なる外國品は滔々決河の勢を以て氾濫し來り、忽ちにして無數の職工をして路頭に迷はしむるの結果を生ずべきなり。斯の如きは固より悲慘なる事に

遑なしと雖も、左に記述するが如き二箇の理由に依り、普通世界に想像せらるゝが如き慘害を遑ふすることは蓋し稀なり。

第一、何等の保護なくして、他の歐州諸國に輸出され能ふが如き製造品は、外品の自由輸入のために敢て影響を蒙むることなし。斯の如き製造品は外國に於て他の競爭品に決して劣らざる低價を以て販賣されざるべからず。されば內地に於ては更に低廉に賣却されざるべからず。故に外國品の競爭に關らず、能く內國の市場を占有することを得るなり。

第二、斯く商業の自由を回復することにより、多數の從業者の一時其の職を失ふことあるべしと雖も、是がために何時迄も其の職業を得すして、生計に困難するが如きことあるべからず。最近戰爭の終結と共に陸海軍人の減員せられしもの實に拾萬人に上れり。是れ英國に於ける最大工業に從事する勞働者の數と相同じ。彼等は一時其の職を離れて多少の困難を嘗めしに相違なしと雖も、ために全く生計の途を失ひて、路頭に彷徨するものあるを聞かず。海軍人の多數は機會を得るに隨て商船員たりしなるべく。其餘は陸軍人と共に種々の方面に於て其業務を見出したるものと想像せらるゝなり。……加之前にも述べしが如く、多くの製造業に於ては是と相似たる他の製造業ありて、職工は容易に是に轉ずることを得るの便宜あり。又た是等の勞働者は農圃に使用さるゝこともあるべし。前に特種の製造業に彼等を使用したる資本は尙依然として國內に存在することなれば、他の方面に於て同一數の勞働者を使用することを得べきなり。其國內に存在する資本額にして同一ならば、勞働者に對する需要も亦た同一若くば同一に近かるべく、假令場所と業務とを異にするも其數量に於ては同一なるべき筈なり。水兵、兵卒等が一度び軍隊より解除されたる上は如何なる場所に行き、如何なる業務に從事するも全く彼等の自由なり。吾人は同一の自由の一般臣民に回復されんことを望む。即ち同業組合の特權を打破し、徒弟法と、居住法を廢し、以て勞働者等が或職業或は場所に於て其業を失ひたる時に、何等の防害もなく、自由に其職業を求むることを得しむ

べきなり。製造業者の國家に貢獻する所あること固より言を俟たざれども、其身命を以て國家を防禦せし者の功績に比すべくもあらず、獨り其特權を保護せんがために種々の法律を存するの可なるを知らざるなり。

然れども商業の自由が英國に於て、完全に回復されんことを期待するは恐らく「ユートピア」の實現を期待すると一般愚の至りなりと云はざるべからず。社會一般の偏見の容易に解くべからざるは勿論、一層困難なるは是れ多くの人々の利益に關係することなるが故に、常に頑强の抵抗を免かれざることなりとす。……

大製造家が一朝俄かに外國品の競爭を受くることゝなり、遂に廢業するの止むを得ざるに至らば、其損害固より輕少ならざるべし。彼れの資本中常に材料の購求と、其勞働者の支拂とに充てたる部分は容易に是を他の方面に轉用することを得べしと雖も、其製造所及び機械のために投じたる部分は非常の損害なしには他に轉用し得べからず。故に是等に對する公平の處置は、長き以前より豫告を與へつゝ、徐々に變化を與ふるにあり。

若し立法者にして利害關係者の運動に動かされず、社會の公益を以て念とせば、新たに斯の如き獨占權を與へざらんことに深く注意し、既に存在せる者に對しては決して是を擴張することなからんことを心懸くべきなり。此種の新規定を設けんとせば、必ず社會の組織に多少變動を來し、後に至りて是を改廢せんと欲せば復び動亂を惹起するを免かれざるなり。……

第八章　重商主義の結論

……凡て生產の唯一にして最後の目的は消費にあり。されば生產者の利害は只だ消費者の利益を進め能ふ範圍内に於て而已思料せらるべき筈なり。是れ實に自明の道理にして、實に說明を加ふるの要なし。然れども重商主義の經濟組織に於ては、消費者の利益は斷へず生產者の利益のために犧牲に供せられつゝあり。彼等は凡ての產業と商業との最後の目的を以て消費にあらずし

て生産にありとなすに似たり。……

此重商主義の經濟組織が何人に依りて建設されしかを判定するは決して難事にあらず。其消費者の階級に屬する者にあらざることは明なり。何となれば彼等の利害は全く等閑に附せられたればなり。思ふに充分に其利益を增進すべく企劃せられたる生産者の階級ならざるべからず。而して此後者の階級の中に就て、吾が商業家と製造家は實に其主要の地位を占むるものなりと云はざるべからず。……

第九章　重農主義即ち土地の生産物を以て國富の主一の原因なりと主張する經濟學派を論ず

土地の生産を以て國富の唯一の原因なりとする經濟主義は余の知る限りに於ては、何れの國民も未だ是を實地に適用したるものなし。只だ現今佛蘭西に於ける二三碩學間に一箇の理論として主張せらるゝに止まるに似たり。……

路易第十四世の賢宰相コルベー氏は忠誠、謹勉にして該博の智識を有し、殊に財政に關して大なる經驗と技倆とを備へ。徹頭徹尾國家の歲出入を整理するに適したる人物なりしが、不幸にして重商主義のあらゆる偏見を懷抱しつゝありき。元來重商主義は其性質上制限的拘束的の主義なるを以て、官省の各部分に畛域を設け、各其職司を守りて相犯すことなきに慣れたる敏達なる實務家に最も適したる主義なりとす。彼は一大國の產業と商業とを整理するに、官省の各部分を整理すると同一の標準に隨はんとし、各人をして公平、自由、正義の基礎の上に隨意に其利益を追求せしむることをせずして、或種の產業の上に種々の特權を與へ、他の產業の上には種々の制限を加ふることをなせり。他の歐洲の政治家と同じく、彼は當に田舍の產業に比して、都會の產業を庇護したるに止まらず。都會の產業を盛ならしめんがために、田舍の產業を壓抑することをすら意とせざりき。例へば都市の住民に食料を廉價に得せしめ、是に依

りて工業と外國貿易を盛ならしめんがために、穀物の輸出を禁じ、以て農家をして其生産物中の最も重要なる部分を海外に賣ることを得ざらしめたり。之に加ふるに佛蘭西に於ては古來の州法に由りて、穀物を一州より他州に運搬するを禁せらるゝあり。又た其農夫の上に課せられたる租稅の頗る不公平なるあり。ために豐饒の土地と好適の氣候を有しながら、其農業は充分の發達を遂ぐること能はざりき。斯の如き壓抑と妨害とは國中何れの部分に於ても、多少感せられたるが故に、遂に是が原因を調査することゝなり、其結果として農業を抑へて、都市の產業を奬勵せんとするコルベー氏の政策が其原因の一なることを斷定するに至れり。

若し杖が餘り多く一方に曲げられたる時は、是を直ふせんがためには、夫れ丈け他方に曲げざるべからずと云ふ諺あり。一國の收入と富との唯一の原因は農業にありとの經濟主義を主唱したる佛蘭西の學者等は、恰かも此諺に隨へるものゝ如し。コルベー氏の政策に於ては、農業に比して、都市の產業を過重視したれども、重農派の人々は即ち是を過小視するの誤謬に陷れるに似たり。彼等は其國の生產に關與する人々を三種の階級に區分す。曰く第一は土地の所有者なり。第二は農夫及び其他農業上の勞働者にして、彼等は是を生產的階級と稱す。第三は即ち手藝家、製造者、商人等にして、彼等は是を不生產的階級と貶稱するなり。

地主の階級は土地の改良、建築、排水、墻壁其他凡て耕作者をして同一の資本を以て、以前より多くの生產を得しめ、隨てより多くの地代を拂ふことを得しむべき凡ての改良工事の費用を支辨することに依りて、年々の生產に寄與す。斯くて增加せられたる地代は即ち地主が其土地の改良のために支辨したる費用の利息即ち利益として當然地主の有に歸すべきものと思考せらる。斯の如き費用を此學派に於ては是を土地の費用とは云ふなり。

耕作者即ち農夫等は土地の耕作のために費やす所の費用を以て生產に寄與す。此費用を彼等は元費及び年費と稱するなり。元費は即ち農夫の器具、家畜、種

子及び其土地より收入を得るに至る迄農夫の家族及び其婢僕を扶持する費用等より成立し、年費は種子、器具の破損及び年々婢僕、家畜を扶養するの費用より成立す。若し其家族にして勞働に從事せば均しく婢僕と同樣に見做さるるものとす。土地の生産中より地代を支拂ひたる殘額は第一に相當の期間、少くとも彼れが其土地を使用する期間に、其元費の金額と、資本に對する普通の利益とを支辨し、第二に其年費の金額と其資本に對する普通の利益とを充分に支辨し得るものならざるべからず。是等の二種の費用は即ち農夫が耕作のために使用する二種の資本なり。農夫は多少の利益を以て是を回收し得るにあらざれば、其業務を繼續する能はず。其利益より打算して寧ろ一日も早く是を棄てゝ他の業務に轉ずるに如かざるなり。斯の如く土地の生産中農夫をして其業務を繼續せしむるに必要なる部分は耕作のために取除けられたる神聖の部分なりと云はざるべからず。若し地主にして是を農夫に與へざらんか、自ら其土地の收入を減じ、多年ならずして、彼れが正當に得べき普通の地代をも得る能はざるに至るべきなり。正當に地主に屬すべき地代なるものは、其生産を得んがために、豫め支出されたる一切の經費を支辨し了りたる殘額より以上に上るべからざるなり。土地の耕作者が該學派の人々より特に生產的階級なりと尊稱せらるゝ所以は全く、一切の費用を支辨して後に尙ほ此純殘額を有するが故なりとす。而して其費用の元費及び年費と稱せらるゝ所以も同じく生產的費用にして、其費用を回收したる上、年々此純收入を得せしむるを以てなりとす。

所謂土地の費用、即ち地主が土地の改良のために投ずる費用も亦た該學派の人々に由りて生產的費用の尊稱を附せらる。是等の費用の一切普通の利益と共に、其增加したる地代に由りて支辨し了られざる間は、此增加したる地代は神聖犯すべからざるものにして、敎會も政府も是に課稅すること能はず。然らざれば土地の改良を阻止し、敎會も政府も將來に於ける課稅の增加を期待することを能はざるなり。故に通常の場合に於ては、是等の土地の費用なるものは、

充分に是を回收したる上、尚或期間の後に於て、純剩餘を生產するなり。是其の彼等が生產的費用と呼稱する所以なりとす。

該學派の人々が生產的費用と稱するは、地主の支辨する土地の費用と農夫の貸擔に係る元費及年費の三者に止まる。其他の凡ての費用は不生產的費用にして、其人々は不生產的の階級に屬するものと見做さる。普通の見解に據れば最も生產的なるべきものも此の學派の人々よりは不生產的と見做さるゝなり。

例へば手工家製造者の如き普通の見解に隨へば、大に土地の生產物の價値を增加するものなれども、該學派の見地よりすれば全く不生產的の階級に屬するなり。其理由とする所左の如し。彼等の勞働は只だ彼等を使用する所の資本と、普通の利益とを生產するのみ。而して其資本は其生產に由りて彼等に豫め支拂はるゝ、材料、器具、幷に給料等より成立し、役務中彼等を支持するの本分を有す。而して其利益は即ち雇主等を支持するの本分を有するものとす。雇主等は其職工等に材料、器具、給料等彼等の勞役に必要の資本を豫め供給するが如く、亦た彼等自身のために必要の生活費を豫め支辨するなり。而して此生活費は彼が其製造品の代價より期待する所の利益に比例して增減するを常とす。若し其代價にして彼自身の維持費と其職工に支拂ひたる材料、器具及給料等の全部を回收し得るにあらざれば、彼の全費用を取返へし得たるものと云ふこと能はざるなり。故に製造業に於ける利益なるものは、地代の如く、其生產の爲めに支出したる全費用を回收したる後に殘れる純剩餘にあらざるなり。農夫の使用する所の資本は彼の製造場主の資本と同じく、彼自身のために利益を生產すると同時に、他人のために地代を生產す。是れ製造家等の爲し能はざる所なりとす。故に手工若くは製造業のために支出せる費用は夫れ自身の價格を繼續するに足るのみにして、決して新たなる價格を生產するにあらず。故に是を不生產的と云ふなり。是に反して農夫及農業勞働者のために支出する費用は、夫れ自身の價格を繼續維持するに止まらず、地代として新たなる價格

を生産す、是れ生産的費用と稱する所以なりとす。

商業上の資本も製造業の夫れと同じく、只だ夫れ自身の價格を維持するに止まり、更に新たなる價格を生産することなければ、等しく不生産的費用と稱せざるべからず。其利益は是に從事するものが其從業中或は其資金の回收せらるゝ迄自ら支辨せる費用の取返へしに過ぎず。而かも其業務のために支出されたる費用の一部分の回收に過ぎざるなり。

手工家、製造家等の勞働は年々土地より生ずる全生産の價格に何をも附加することなし。勿論或特種の部分に對しては大に其價格を增加することなきにあらず。然れども他の部分に於て必ず是と同價格の消費を誘起するが故に結局總計に於ては更に增減する所なきなり。例へば精巧なる「レース」を編むものは、僅かに四錢の廉より參百圓に價する物品を製作することあるべし。一見すれば彼は是に依りて、其材料の上に七千二百倍の價格を增加したるが如く見ゆれども、其實年々土地より生ずる全生産の上には何をも附加することなき

なり。彼は此種の「レース」を編まんがために恐らく二年餘の歲月を費やせしならん。彼れが其製作の完成と共に得る所の參百圓は二年間彼が生活を續けんがために自ら支辨せし費用の回收に過ぎず。彼れが二年の間日々勞働により て附加せし價格は、同期間に彼れが費消したる價格を辨償するに足るのみ故に彼は曾て土地の全生産額に對して、何をも附加することなし。彼れが斷へず消費しつゝある所のものは其生産しつゝある所のものと其價格を同ふす。……然れども農夫及農業勞働者の勞役は是と異なれり。地代は普通の場合に於て、勞働者と其使用者の維持に必要なる全費用を充分に回收したる上に生ずる所の價格なりとす。

手工家、製造家、商人等が社會の收入と富とを增加し得る方法は只だ節約而已。即ち彼等の生活に供せらるべき費用の一部分を節するの外なきなり。彼等は其生活費に充つべき部分の外年々何をも生産することなし。故に自ら節約して其費用の幾分を餘すの外は、彼等の勤勞によりて、社會の富は寸毫も增加す

ることなきなり。是に反して、農夫と農業勞働者とは、其生活費に定まれる部分をば充分に享受して、尙社會の富を增加することを得るなり。彼等の勤勞に由りて得たる部分より、其生活費を除きたる殘餘は必然的に社會の富の一部分となるなり。

商人、手工家、製造者等の不生產的階級は地主及耕作者の二階級に依りて扶養さる。其業務に要する材料も器具も生活の費用も一切彼等の供給する所に係るのみならず。凡て不生產的勞働者の給料及び其備主の利益も畢竟するに彼等に由りて支辨せらるゝものとす。此種の勞働者及其備主等は適當に云へば地主及び耕作者等の奴僕と稱すべきものにして、家內的勞働者と異なる所は、只だ內にあると、外にあるとの相違而已。彼等は共に不生產的勞働者にして、土地の全生產の價値に對して何の附加する所なきのみならず、反て是を費消するなり。

然れども不生產的と云ふは決して無用の長物なりと云ふ意にあらず。彼等は

生產的階級に屬する者に對して頗る有益なる作用をなすなり。商人、手工者、製造家等の勤勞に由りて、地主及農業家等は其必要を感ずる外國品若くは自國の製造品をば、自ら輸入若くは製造に從事するよりは、遙かに小量の勞力より得たる生產物を以て是を購買することを得るなり。不生產的階級の助けに由りて、耕作者は其業務以外の事に注意力を分つことなくして、專心土地の耕作に從事することを得るなり。其結果として得たる生產の優秀なることに由りて、不生產的階級を維持するに要する費用を支辨し得て餘りあるなり。されば商人、手工者、製造家等の業務は其性質上不生產的のものなれども斯の如くにして間接に土地の生產を增加することゝなるなり。換言すれば不生產的勞働者の助力によりて、生產的勞働者は其本職なる土地の耕作に專心從事することを得、ために其生產力を增加することゝなるなり。農夫の鋤と鍬とは是に最も緣遠き職業を有するものゝ勤勞に由りて一層快速に運行することを得るなり。

故に如何なる方法にもせよ、商人、手工者、製造家等の業務を制限し、若くは是を阻害することは決して地主及び耕作者の利益にあらず、是等の不生産的階級の享受する自由の大なれば大なる程、彼等相互の競爭劇甚となり、生産的階級は外國品及び自國の製造品を廉價に購買し得るなり。

地主と耕作者の自由を束縛するは又た決して不成産的階級の利益にあらず。不生產的階級を維持する費用は、第一に耕作者、次に地主の維持費を引き去りたる殘額なりとす。故に此殘額の大なれば大なる程不生產的階級の勞働を使用し、是を維持する費用も大なる筈なり。されば凡ての階級の繁榮を增進するの秘訣は極めて簡單なり。即ち正義と自由と公平とを完全の程度に達せしむるにあり。

和蘭、ハンブルグの如き主として不生產的階級より成立する商業國に於ける手工者、商人、製造家と雖も亦た同樣に地主及び耕作者に由りて維持支給せらるゝものとす。唯だ其相違は是等の國に於ては、他の諸國に比すれば、一方に於ける手工者、商人、製造者と、他方に於ける地主、耕作者との距離大にして、雙方共に多少の不便を感ぜざるを得ざることなり。

斯の如き商業國の存在は他の國民のために最も必要なりとす。彼等は或程度に於て、是等の國民間に於ける空虛を充たすなり。換言すれば、是等の國民間に於ける政策のために、當然有すべくして有せざる手工者、商人、製造者等の役務を是等の商業國によりて補はるゝなり。

商業國より輸入する物品に對して重稅を課し、其產業に打擊を加ふることは、決して農業國民の利益にあらず。斯の如き重稅は徒らに其物品の價格を高騰せしめ、是等の生產物即ち其土地より生ずる生產物の剩餘の價を下落せしむるに過ぎざるなり。隨て此剩餘の增加を妨げ、惹いて其土地の耕作改良を阻止するの結果を來すなり。若し此剩餘を增加し、其價格を高め、其土地の改良耕作を進歩せしめんと欲せば、凡ての商業國民に對して最も完全なる自由を與ふるに如かざるなり。

商業の完全なる自由は啻に是に止まらず、其國内に必要を感じつゝ、而かも其政策のために是を有するを得ざりし凡ての手工者、商人、製造家等を生起せしむる最も有力なる方法となるなり。

土地の生産の剩餘が斷へず增加するに隨て、遂には大なる資本となり、土地の耕作改良に使用する而已にては、通常の利益を見るを得ざるに至らん。是に於てか漸く手工者及び製造家の方面に是を使用せざるを得ざるに至る。而して是等の手工者と製造家とは、其技術に於ては未だ熟錬の域に達せずとも、其材料と生活の必要とを自國内に得るの便あるを以て、遠隔の外國より是等を持ち來る必要ある商業國の手工者、製造業者と同樣の廉價に是を製作することを得るなり。縱令技術の未熟のため當座の間は商業國に於けるが如く、廉價に是を製作すること能はずとするも、彼等は是を國内に販賣するものなるが故に海外の商業國より舶載すると同樣の代價に是を賣ることを得べく、若し其技術の進歩したる曉には、海外より來る競爭者よりも廉價に是を販賣することを得べき筈なり。故に商業國の手工者、製造家等は軈がて農業國の夫等の競爭を受け、代價の點に於て敗亡し、遂に全く其市場より放逐されざるべからず。更に一歩を進んでは、其技術の漸く錬熟するに隨ひ、農業國民の製造品は益、廉價となり、遂に海外に迄も其販路を擴張し、漸く商業國民の製造品を驅逐するに至るなり。

斯くて農業國民間に於ける農産物及び製造品の斷へず增加することにより、其資本は益、增大し、是を農業及び製造業に使用するも通常の利益を得る能はざるに至るべし。其結果自然に外國貿易に眼を注ぐに至り、國内の需要に超過する農産物及び製造品の部分を海外に輸出することゝなるなり。此場合に於て、農業國民間の商人が商業國の夫等に對して有せる優勝の點は、恰かも農業國の手工者、製造家が商業國の夫等に對して有すると相同じ。即ち商業國の商人等は其商品と生活の必要品とを遠き外國より持來るの不便を有するに關らず、彼等は凡てのものを國内に於て發見することを得るなり。是を以て其航

海術の未熟なる時に於ても、海外の市場に於て商業國の商人と同樣の廉價に賣ることを得、其航海術に熟練するに至らば彼等よりも廉價に是を販賣することを得るなり。斯くて外國貿易に於ても、彼等は商業國の商人と競爭することを得、遂には是を市場より驅逐するに至るなり。

故に此寬大自由の主義に隨へば、農業國に於て、其國內に手工者、製造家、商人等の階級を隆起せしむる最良の方法は、他國の同階級に對して絕對的の自由を與ふるにあり。是に由りて土地の剩餘的生產の價格を增加し、漸く積もるに迨びては一箇の大なる資本となり、以て其國內に必要ある凡ての手工者、製造者、商人等を隆起せしむるに至るなり。

是に反して、若し農業國に於て、重稅若くは禁止に由りて、他國の商工業に打擊を加ふるに於ては、左の二箇の點に於て、必ず自國の利益を害せざるを得ず。第一凡ての外國品と製造品の價格を騰貴せしめ、ために外國品及び製造品を購買するに用ゆべき土地の剩餘的生產の價格を下落せしむることゝなる。第二、

自國の手工者、製造家、商人に內國市場を獨占せしむるの結果、彼等の利益をして、農業の利益よりも遙かに大ならしむることゝなり、隨て是迄農業に使用せられたる資本の一部分を回收して是方面に向くるに至り、又た農業に使用せらるべき資本をして人爲的に此方面に轉せしむることゝなるなり。故に此政策は二箇の點に於て自國の農業を衰微せしむるの結果を生ず。第一は其生產物の眞價格を下落せしむることに由り、其利益を減じ。第二は他の凡ての業務の利益を增加せしむることなり。斯く農業の利益は減じ、他の業務の利益は增加するが故に各人皆な農業を去りて、商工業に就かんことを試むべきなり。斯の如き干涉政策に由り、自由に放任するよりは速かに、農業國に於て手工者、製造家、商人等を生起せしむることを得るとするも、是れ固より疑ふべきことに屬す。未だ其時期の熟せざるに當りて、人爲的に是を促成するがために、他の一層必要なる產業を壓倒するの恐れあり。殊に其使用されたる資本を回收し、是に普通の利益を得るの外何をも生產せざる產業を促成して、却て其資本と

利益の外、地代として純剰餘を生産すべき産業を壓到するの恐れあり。換言すれば不生産的産業を奬勵して、却て生産的産業を衰退せしむるの結果を生ずるなり。

土地より年々生産する生産物の總額が如何にして、前記之階級間に分配さるべきか。又た如何なれば不生産的階級の勞働は社會の富の總額を少しも增加することなくして、只だ其費消せる部分を回收するに過ぎざるか等に就て此學派の主張する所は、該學派に屬する深遠なる學者ケネーの數理的公式に由りて最も充分に代表せられたりと謂ふべし。其公式中の第一は特に重要の部分にして、彼は是を經濟解說と稱せり。彼は其解說中に於て、完全なる產業の自由の行はれ、隨て最も繁榮を極め、年々の生產は最も多くの純剩餘を得、各階級のもの何れも公平に其生產を分配さるゝ情態を描出せり。其以下の解式に於ては、此分配の種々異なる制限法律を有する諸國に行はるゝ情態を示せり。其制度の如何に由り或は地主、農夫の他の階級に勝りて有利の地位にあること

あり、或は不生產的階級の地主、農夫よりも有利の地位に立つことあり。何れの場合に於ても、一方のものが他方の分け前に屬するものを蠶食するの結果を來さゞるを得ず。而して該學派の說に隨へば、斯くの如く當然自己の分け前に屬せざる部分を蠶食し、自然の分配法に違反することは必然に年々の生產額と其價格とを減少するの結果を生じ、一國の富と收入とを退減することゝなるなり。而して此減退の速力は其蠶食の度即ち自然の分配法に違背するの程度に隨ひて遲速の相違あるなり。

此學派の根本的誤謬は手工者、製造家、商人等を不生產的階級となすにあり。吾人は以下に於て其何故に誤謬なるかを明かにせんと欲す。

第一、此等の階級は年々自ら費消する所の價格を生產し、少くとも其階級を維持支給するに必要なる資本を永續するものと認識せらるゝ只是而已なりとするも是等の階級を不生產的なりと云ふは甚だ不當なりと云はざるべからず。茲に一の夫婦あり、一男一女を出產し、只だ其種族を永續せしむるを得るの

外、更に人口を增殖することなしとするも、是を不生產的なりと云ふは至當なりと云ふべからず。農夫と農業的勞働者とは彼等自身を維持支給するの外、別に地代なる純剩餘を生產す。恰かも三人の子女を產むものは二人を產むのに比して一層生產的なりと云ふを得るが如く、農夫及び農事勞働者は商工製造家に比して、更に生產的なりと云ふことを得べしと雖も、是がために他を指して不生產的なりと云ふの理由あるべからず。

第二、彼等を僕婢と同樣に見做すことは甚だ不當なりと云はざるべからず。僕婢の勞働なるものは彼等を使役維持する費用を永續することなし。彼等は全く其主人の費用に由りて支給され、而して彼等の勞働は其費用を回收することなし。彼等の勞役は概して其刹那に消失し去り、其給料と生活費を回收するに足るべき物貨を生產することも、是に價格を附與することもなし。是に反して、手工者、商人、製造家等は年々何等かの物品を生產し若くは是に何物をか附加することをなすなり。……

第三、手工者、商人、製造家の勞働は社會の實收入を增加する事なしと云へる斷案は穩當ならざるに似たり。假令此學派の人の想像するが如く、此階級の日日月々若くは年々生產する所は、其同期間に費消する所と全く相同じと假定するも、是がために彼等の勞働は社會の實收入と、其土地と勞力より生ずる生產物の眞價とを少しも增加することなしとの論斷を下すべきにあらず。例へば茲に一の手工者ありて、收穫後の始めの六ヶ月間に於て、百圓に相當する仕事をなしたりと想像せよ。縱令彼は同時期間に於て、百圓に價する穀物其他の必要品を消費したるとするも、實際に於て、彼は土地と勞力より生ずる生產の上に百圓の價值を增加したるものなりと云はざるべからず。彼は穀物其他の必要品をば百圓即ち半年分の收入丈け消費すると同時に、彼れ自身若くは他人のために半年分の必要品を購買し得る價格を生產したるものなり。故に此六ヶ月間に消費され、且つ生產せられたる價格は百圓にあらずして、貳百圓なりと云はざるべからず。勿論或一時期に存在する價格は百圓に過ぎざるなら

ん。然れども若し百圓に價する穀物と他の必要品とが、手工者に由て消費され
す、軍人若くは婢僕に依りて消費されたりとせば、六ヶ月の終りに於て存在す
る生産品の價格は慥かに百圓丈け少かるべき筈なりとす。故に縱令手工者の
生産せる價格が、或時期に於て、其消費する所に同じきが如く見ゆるとも、實際
市場に存在する物品の價格は彼れの生産に由り此前よりも增加し居るもの
なりと云はざるべからず。

該學派の人々が手工者、製造家、商人等の消費する所の價格は、其生産する所に
同じと云ふは、恐らく彼等の收入即ち消費に向けらるべき部分が其生産する
所と相同じと云ふの意ならん。されば若し彼等にして其主張を一層明確にし
て此階級の收入は其生産する所に相同じと云はゞ、讀者は容易に此收入を節
約したる部分丈けは必然的に社會の富を增加すべき筈なるを發見するを得
ん。故に彼等は其議論の體裁を保たんがために、勢ひ彼れが如き言辭を用ゐざ
るを得ざりしなり。隨て假設彼等の主張するが如き事實ありとするも、此議論

は到底不得要領の感あるを免かれざるなり。

第四、農夫及び農業勞働者も節儉貯蓄することなしに、其實收入、即ち社會に
於ける土地及び勞働よりの年々の生産を增加し能はざることは手工者製造
家、商人等と異なることなし。何れの社會にせよ、年々其土地及び勞働より生す
る生産物を增加するの途二つあり。第一は其社會の中に實際維持さるゝ有益
なる勞働の生産力を增加することにして、第二は即ち使用さるゝ勞力の分量
を增加することこれなり。

勞働の生産力は第一、勞働者の技倆の進歩、第二彼等の使用する器械の改良に
隨て增加す。而して手工者、製造家等の勞働は農夫及農業勞働者に比すれば、一
層細分するの便あり、隨て各勞働者の爲す所は最も單簡なることを得るが故
に、技倆の進歩、器械の改良共に農業に於けるよりは高度に達するの期望あり。
此點に於ては手工者製造家の業は農業家よりも大なる便利を有するものと
す。

有益なる勞力の分量の增加は全く是を使用する資本の增加に俟たざるべからず。而して資本の增加は是を管理使用する人々若くは是を彼等に貸與する人々が其收入中より節約貯蓄する部分と同一ならざるべからざるなり。……第五、該學派の人々の想像に據れば、各國民の收入は其產業に由りて得る所の生活費の分量と全く同一なりとす。縱令此想像に隨ふも、若し他に特別の事情なくば、商工業國の收入は是を有せざる國々に比すれば常に一層大なるを發見すべし。是等の諸國に於ては、其商工業に由り、其國の耕作に由りて得る所よりも一層多くの生活必要品を海外より輸入するを得るなり。都市に住するものは、往々尺寸の土地をも有せざることあれども、其產業に由りて、附近の地方より、其材料と生活に必要なる物品を充分に吸收することを得。都市が其附近の田舍に於ける關係は、以て國と國との關係に及ぼすことを得べし。和蘭はスミス及びジユートランドより、穀物は殆んどあらゆる歐洲の國々より輸入するなり、而して少量の製造品を以て多量の農產物を購買することを得るが故に、商工業國は其製造の小部分を以て、他國の農產物の大部分を購買することを得るに反して、農業國は其生產品の大部分を以て他國の製造品の小部分を購買せざるを得ざる次第なりとす。即ち一は小數の生活を維持するに足るべき物品を輸出して、多數を養ふに足るべき物品を輸入し、他は多數の生活に必要なるものを輸出して、小數を支ふる丈けの物品を輸入するなり。一方の國民は自國の土地より生產し得るより多くの生活必要品を享受し、他の國民は自國に生產する必要品中の小量而已を享受し得ることゝなるなり。

然りと雖も該學派は幾多の缺點を有するに關らず、是迄經濟學に關して發表せられたる多くの學說中最も眞理に近きものたるを失はず。經濟學の理論を研究せんと欲するもの、最も大なる注意を拂ふべき所なりとす。土地の上に加へらるゝ勞働而已を生產的勞働となし、其他一切の勞働を不生產的なりと稱するは、固より狹隘に失するを免かれざれども、一國の富は消費し得ざる金

錢によりて成立せずして、年々其國内の土地と勞力より生産さるゝ消費し得べき物品に由りて成立すと云ひ而して此消費し得べき物品を最も豐富に生産せしむべき最良の方法は完全の自由を與ふるにありと云ふ所、如何に此學派の自由寛大にして、其說の正當なるかを見るべし。此學派を奉ずるものゝ數は頗る多し。人は異說を好み、又た尋常人の思想に超越したることを理解するが如く見ゆることを喜ぶの風あり。思ふに製造業を不生産的勞働なりと稱する異說のために此學派の隨喜者を增したること少々にあらざらん。彼等は暫らく以前迄經濟學者の名を以て佛蘭西の學界に知られたる有力なる一黨派なりき。彼等の事業が佛蘭西の國家に貢獻する所ありしは云ふ迄もなし。是迄何人も未だ充分に研究せざりし幾多の問題を提げ來りて、一般社會の討議に附せるは勿論、又た政府の方針をして農業の上に大に注意を拂はしむるに至れり。佛蘭西の農業が其以前蒙むりし幾多の干渉壓制より脫却することを得たりしは全く該學派の賜物なりとす。……

非常の奬勵に由りて、多くの資本を或特種の產業に向はしめ、或は非常の制限に由りて、資本の或特種の產業に使用さるゝを阻止するが如き凡ての主義政策は啻に其目的を達せざる而已ならず、却て反對の結果を生ずるものとす。換言すれば、斯の如き政策は國家の富を增さずして却て是を減退せしむる所以なりとす。

故に一切保護干涉の政策を撤去せよ。さすれば自然に自由政策は樹立さるべし。何人も正義の法律に違背せざる限りは自ら信ずる所に隨て其利益を圖るを得べく、其資本と勞力とを以て他人と競爭することを得べし。斯くて世の主權者は、幾多の妄想に驅らるゝの恐れあり、又た人智にては到底圓滿に遂行し能はざるが如き困難なる役務、即ち私人の產業を監督し、是をして社會に最も多くの利益を與へ得る方面に向はしむるが如き職務より脫することを得るなり。自然の自由主義に隨へば、世の主權者の遂行せざるべからざる重大なる職務は左の三者に過ぎず。第一は他の獨立せる社會の侵略攻擊より其社會を

保護することなり。第二は社會の各箇人を他の箇人の不義壓制より保護すること、即ち正義の支配を樹立するの義務なり。第三は即ち箇人又は箇人の少數團體の事業としては收支相償はざるが如き公共事業を經營維持するの義務なり。斯の如き事業は箇人としては收支相償はざれども大なる社會の事業としては其入る所は其出る所を償ふて餘りあることなきにしもあらず。……

第五編

主權者或は國家の歲入

第一章　主權者或は國家の費用

第三部——公共事業及び教育の費用

第二節——教育費

……分業の進歩に隨ひ、勞働に由りて生活するもの、即ち大多數國民の從事する職業は、極めて單純なる一二の勞作に限定せられざるを得ず。而して通常人の理解力は其日常の職業に由りて形成さるゝが常なり。生涯の間常に一二の單純なる作業に從事し、日々同一の結果を收め、何等の困難にも遭遇せざる彼等には理解力を鍛錬するの機會なく、又た其困難を排除せんがために、新方法を發見せんとするの動機なし。其結果彼等は自然に其天賦の能力をも麻痺

せしめて人類中の最も愚昧魯鈍なるものと成り果てざるを得ず。斯くて彼等は理義を談ずるの能力なく、高尚優美なる感情を懐くことなく、隨て日常の些事に關してすら適當の判斷力を失ふに至るなり。況んや國家の利害休戚に關するが如き大問題に至りては彼等は全くの盲目にして、他に適當なる指導者なくば戰時に際して、其國家を防禦することすらも能くせざるなり。其生活の單調なるがために自然に其勇氣を沮喪し、兵士の如き不規則冒險的の生活を畏怖するに至る。豈只だ其精神而已ならんや、其身體の活動をさへも遲鈍ならしめ、己が職業以外の事に忍耐努力すること能はざるに至らしむ。されば彼等が其特種の職業に堪能なるは、其智力と社會的能力と軍事上に要する性格とを悖性はして僅かに得たるものなりと云はざるべからず。而して政府が特に此點に注意を拂ふにあらざれば、是れ凡ての文明社會に於て、勞働者即ち其國民の大多數が必然遭遇せざるべからざる運命なりとす。

……縱令其國民の下層社會を敎育することによりて、國家は何等の得る所なしとするも、全く是を無敎育の情態に放任し置くの不可なるは識者を俟つて後始めて知るべきにあらず。況んや是れがために國家の受くる利益の極めて大なるものあるをや。彼等が敎育を受くるに隨て、狂熱迷信に左右さるゝこと少く、屢〻愚民の間に見るが如き恐るべき騷亂を惹き起すこと稀なり。凡て敎育を受けたるものは無敎育の者に比すれば、思慮ありて秩序的なり。且つ彼等は其地位を自覺し、又た有司より相當の待遇を受くるを以て、自然に彼等を尊敬するの心を有す。又た彼等は各階級各黨派の利害に關して充分に研究するの便宜を有するを以て、徒らに政府に反對を試むるが如き傾向少し。國民の輿論に隨て政權の受授を決するが如き民政の國家に取りては、國民が一時の感情に支配され、深思熟考することなくして、躁急に事物の判斷をなすことなからんこと、眞に必要のことなりとす。

第二章　國家歲入の源泉

第二部——租稅論

箇人の收入は畢竟するに地代利益給料の三者より成立するものなることは、本書の第一卷に於て既に是を說明せるが如し。租稅は即ち是等三種の收入中の何れかより拂はれざるべからず。……

租稅の研究を始むるに當り、先づ左の四箇の綱領を記憶するを要す。

第一、國民たるものは各其力量に隨ひて、其政府を維持するに必要なる費用を納めざるべからず。卽ち彼等が各國家の保護に由りて得る所の收入に比例して其費用を負擔するなり。國民が其政府の費用を負擔するは共同の借地人が其管理費を負擔すると相同じ。彼等は其關係の多少に比例して其費用を分擔するなり。租稅の公平を得ると否とは全く此主義に忠實なると否やとに由りて決す。……

第二、租稅は確實ならざるべからず。任意專斷的なるべからず。支拂ひの時機、其方法、其額等は其支拂者は勿論凡ての者に明瞭に知られざるべからず。……

各人の拂ふべき租稅の確實ならざることは最も重大の要件にして、是に比すれば多少の不公平は尙は是を忍ぶことを得べし。是れ各國民の歷史の明示する所なりとす。……

第三、租稅を徵收するは是を納むる者のために最も便利なる時期と方法とを撰ばざるべからず。土地及家屋の貸賃に對する租稅は其地代若くは借家料の支拂はるゝと同時に是を徵收すれば、納稅者に取りては頗る便利なるべし。奢侈品に課せらるゝ稅は畢竟するに遂に消費者の負擔に歸するものなるが故に、頗る便利なる徵稅法なり。彼等は是を購買する每に少許づゝ知らず〳〵の間に納稅するなり。且つ是を購買するとせざるとは全く彼れ自身の自由なるが故に、斯の如き課稅のために不都合を感ずることあらば、其過や彼自身にあり。……

第四、租稅を徵收するには、實際國庫に收納する金額の外、納稅者に負擔をかけざる樣注意すること最も大切なりとす。……

第一款　賃貸料に對する租稅

地代に課する租稅

地租を課する方法に二種あり。一は一定の標準に隨て課するなり。即ち各地方の土地を評價して、一定の地代を作り、是を永久不變のものとなして、課稅の基礎とするなり。他は即ち實際の地代に課するなり。即ち土地の改良耕作の事情に由りて、地代の高低ある毎に課稅の多寡を異にするなり。

英國の課稅法は即ち一定の標準に隨て各地方に於て評價されたる基礎を有するなり。此方法たるや、最初の間は公平を保つことを得れども、漸く歲月を經るに隨ひ、土地の改良と耕作の程度の異なるに由りて、甲地と乙地の間に非常の不公平を生ずるに至るを免かれず。英國に於てウキリヤム及びマリア朝の第四號法律に由りて、定められたる評價なるものは當初より頗る不公平なるものなりき。故に此課稅は前記四綱領中後の三者には完全に適合すれども、其第一に背戻するものなりと云はざるべからず。確實の點に於ては完全なり。租

稅の納期は地代の收入期と同一なるが故に納稅者に取りて頗る便利なりと云はざるべからず。實際の納稅者は地主なれども通常借地人に於て是を納附し、地主は後に至り借地料を受取る場合に租稅額丈けを減少するの習慣となり居れり。……此課稅法に依れば、地主は如何にしても脫稅するの途なけれども、其他には納稅者に取りて一の不便なる事情もなきなり。

然れども課稅の目的のために評價されたる地代の確定不變なるため地主の受くる便益は、主として租稅の性質に全く關係なき或他の事情に起因するものなりとす。

其の事情の一は即ち國家の繁榮の結果として、英國中何れの部分に於ても、評價當時に比すれば、地代の暴騰を來し、下落したる地方とては恐らく是れ無からん。故に地主は今日非常に高率なる地代を生ずる土地を所有しつゝあり。其の差額は全く彼等の利得に歸するなり。

彼の自ら經濟學者と稱する佛蘭西に於ける一派の學者等は、地代の高低に隨て其租稅を高下するの課稅法を以て、凡ての租稅中最も公平なるものなりとせり、其言ふ所を聞けば、凡ての租稅は遂には地代の上に落ち來らざるべからず。故に最後に是を支拂ふべき資金の上に課せられざるべからずと。凡ての租稅は最後に是を支拂ふ所の資金の上に落ち來ることは確實の事實なり。然れども是を證明せんがために、彼等が用ゐる困難なる抽象的の議論を此處に繰り返へす迄もなく、以下の所論に於て、如何なる種類の租稅が地代の上に落ち來り、如何なる租稅が他の資金の上に落ち來るかを明かにすることを得べしと信ずるなり。

一定の地代に隨て課稅するよりも、地代の高低に隨て其租稅を異にする徵稅法は一層多くの徵稅費を要す。國中の諸地方に土地臺帳を保管せんがために公署を設け、又た時々土地の評價をなさんがために手數を要する等固より少からざる費用を要す。然れども是を地租よりも小なる他の租稅を徵收するに要する費用に比すれば頗る小額なりと云はざるべからず。

地代の騰落に隨て地租を高下する課稅法に對する最も重大なる故障は土地の改良を阻止すると云ふことに是なり。土地の改良に關して些しの費用をも負擔せざる主權者に對して、其改良の結果を分たざるべからざる場合には、地主たるものは是が改良を躊躇することあるべし。而かも此困難は彼れが其改良の事業を始めんとするに、先だち、稅吏と其附近の地主農夫立合の上、土地の實際の價格を評定せしめ、彼れが其費用を回收し得るに足る丈けの年間は其評價に隨て課稅することを許可するに由りて免かるゝことを得べきなり。……斯の如き方法に由りて、啻に土地の改良を阻止せざる而已ならず、却て是を奬勵するの結果を得ば、此課稅法に於ても、脫稅の便宜を與へざるの外、地主に對して何等の不都合をも與へざるに似たり。

此種の租稅は、社會の事物の變遷に應じ、農業の進歩と退歩に隨ひ、銀價の騰落、通貨の變動に由り、政府の干渉なくとも、常に自然に其事情に適合して、如何な

る變化に際しても能く其衡平を保つことを得るなり。故に吾人は常に一定の價格に隨て、課稅するよりも、此方法の遙かに勝れるを信じ。其永久の法律として國家に採用されんことを希望するものなり。……

土地の生產に課する租稅

土地の生產に對して課稅するは其實地代に課稅すると異なることなし。其納稅の時に際りては農夫の手に於て支拂はるゝと雖も、畢竟するに地主の負擔たるを免かれず。農夫は其生產物の一部分を租稅として徵收さるゝことなれば、其年額何程に相當するかを計算し、地主と借地料を協定するに當り、夫れ丈け を減額せしむること明なりとす。彼の教會稅は即ち此種の租稅なり。農夫が其借地料を協定するに先だち、教會稅の年額何程なるべきかを思考せざるものはなきなり。……

教會稅は地代に對して甚だしく不公平なること屢、是れあるがために、常に地主が其土地を改良し、農夫が是を耕作するの妨害をなすなり。土地の改良耕作

のために地主と農夫が費やす所は頗る巨額に達することあり而して是がために得る所の大部分をば、一錢の費用をも投せざる教會のために取上げらることなれば、彼等の投資を妨害すること固より當然のことなりとす。……

家屋の貸賃に課する租稅

借屋料は自ら二箇の部分に區分されざるべからず。一は建築に對する借料にして、他は即ち宅地料なり。

建築の借料は家屋を建築せんがために費やせし資本の利息即ち利益なり。建築家の業務をして他の業務と同等の地位にあらしめんがためには、第一此貸賃は彼れが確實なる抵當を取りて他に其資本を貸したる時に得べき利息と同一ならざるべからず。第二に此貸賃は斷へず其家屋を修繕して是を維持するに充分ならざるべからず。或は一定の年限內に、是が建築に要せし資本を回收するに充分ならざるべからず。故に建築の貸賃即ち其普通利益は何處に於ても必ず普通の金利に由りて支配されざるべからず。市場の金利の四分なる

所に於ては、宅地料を排ひたる上、六分若くは六分五厘の利廻りとならば、建築者に取りては充分の利益なるべく、金利の五分なる場合に於ては、七分乃至七分五厘を要するならん。若し建築業にして是れ以上の収益を得べくんば、是迄他の事業に使用されたる資本は滔々として此處に流入し來り、以て其収益を平均の程度に引下ぐべく、若し其収益にして他の業務に比して遙かに劣ることあらんか、是迄建築業に用ゐられたる資本の多くは轉じて他の業務に用ゐらるべく、斯がて其利益を平均點に引き上げずんば止まざるなり。

此普通の利益に超過したる部分は自然の順序として、宅地料となる。而して、家主と地主と別人なる場合には、地主の充分に支拂はるゝを常とす。此普通利益に超過せる借料なるものは、借家人が其家屋の地位の便宜に對して支拂ふ所の代價なりとす。尤も其便宜なるものは實際の場合もあり、或は想像に過ぎざる事もあるべし。都會より遠く離れたる地方にして、撰擇すべき土地の充分なる所に於ては宅地料なるものは殆んど云ふに足らず、即ち農業に使用せらるる場合に得べき利益を超ゆることなし。大都會附近の別莊地に於ては、宅地料の頗る高價なることあり。而して特種の便利若くは眺望有らば益〻高價なるべきは固より當然のことなり。宅地料の最も高價なるは首府にあり、殊に商業、娯樂、社交、虛榮等其理由の何たるを論せず、家屋に對する需要の非常に大なる部分に於て最も然りとなす。

借家料に對する租稅にして、借家人に由りて支拂はれ、且つ其借家料の全部に比例して課せらるゝものは、到底永く建築に對する借料に影響を及ぼすことなかるべし。若し建築者にして相當の利益を收むること能はずんば、彼は其業務を廢するの外なかるべく、其結果建築に對する需要を高め、纏がて他の業務と同等の利益を收め得るに至るべし。さりとて其租稅の全部悉く地主の負擔に歸するにあらず。思ふに其一部は借家人の負擔に歸し、一分は地主の負擔となるべきものとす。

茲に一人ありて、一年五百圓の家賃を支拂ひ、是に拾圓に對して壹圓即ち五分

の一の課稅を彼自ら支拂せざるべからずと假定せよ。此場合に於て、六百圓の家賃を支拂ふものは七百二十圓の負擔となる。卽ち彼れが自から負擔し得べしと想像する額よりは百貳拾圓の增加とならざるべからず、是に於てか彼は劣ひ劣等の家屋を以て滿足することとなり、卽ち一年五百圓の家賃にして、租稅として支拂ふべき百圓を合せて一年六百圓となる家屋にて滿足するに至るなり。斯くて彼は租稅を支拂はんがために、一年百圓に價する丈けの便宜の一部分を犧牲に供するなり。余は敢て其便宜の一部分と云ふなり。何となれば租稅のために彼は一年五百圓を以て租稅なき時に比すればより良き家屋を借り受くることを得るが故に、其便宜の全部を犧牲に供せざるべからざることと少なければなり。何となれば租稅の結果として、六百圓の家屋に對する競爭を減少すべく、隨て五百圓の家屋も、其以下の家屋も同樣に競爭者を減ずることゝなるが故なり。只だ最低の家屋に至ては反て其競爭者を增加することあるべし。其競爭者を減じたる家屋の賃貸料は勢ひ多少の下落を來さゞるを得ず。而かも此下落のために建築に對する借料を長く低減せしめ居ることは到底不能なるが故に、必然の結果として、遂に下落の全影響は宅地料の上に落下せざるを得ず。故に此租稅の負擔は一部は借家人に歸し、一部は地主に歸すと云ふなり。但だ借家人は是を負擔せんがために其便益の一部分を犧牲に供し、地主は乃ち其收入の一部分を減少するの相違あるなり。而して如何なる割合に於て以上の兩者が其負擔を分つべきかは容易に斷言することを得ず。要するに種々の事情に由りて、兩者の負擔をば或は增加し、或は減少することあるべきなり。……

宅地料も普通の地代も共に、多くの場合に於て、其所有主等の注意勞力なくして享受し得る收入の種類に屬すれば縱令此收入の一部を國家の費用のために徵收するとするも、決して產業上に何等の惡影響をも與ふることなかるべし。年々其國の土地と勞力より生ずる生產、國民の富と收入とは是種の租稅の有無に依りて何の變化をも蒙むることなきなり。故に宅地料と普通の地代

とは最も能く特種の課稅に適ゆる收入なりと云ふべきなり。

宅地料は此點に於て、普通の地代よりも一層課稅に適するものなりと云ふことを得べし。普通の地代は多くの場合に於て、地主の注意と努力の結果に負ふことあるが故に、重稅を課する時は、其改良進歩を妨害すること無からず。是に反して宅地料の普通の地代に超過する部分は、政府が善政に依りて、人民と其産業を保護するの結果、其家居の建築せられたる部分の土地に、格外の價値を生せしめたるものなりとす。既に國家の保護に依りて特殊の利益恩惠を得たる以上、國家の必要に應ぜんために、他に比して幾分か多額の負擔に任せんことは固に當然のことなりと云はざるべからず。

第二款　利益即ち資本より生ずる收入に課する租稅

資本より生ずる收入即ち利益は自から二箇の部分に別たる。一は利息を拂ふべき部分にして、資本の所有者に屬するもの。他は即ち利息を拂ふたる上の剩餘の部分なりとす。

此第二の部分は直接に課稅の目的と爲すべからざること明なりとす。是れ實に資本を使用するに伴へる危險と困難に對する報償なり。而かも最も營業の報償たるに過ぎず。是丈けの報償を得るにあらざれば、彼は得失相償はざるが故に其資本の使用を持續すること能はざるなり。是故に彼若し其全利益に比例して直接に課稅せられんには、彼は其利益の率を高むるか、然らざれば是を利息の上に課するの外はあらず即ち以前より小額の利息を拂ふの外なきなり、彼若し租稅に比例して、其利益を高めんか、縱し租稅の全額を彼自ら豫納するにせよ、終には其資本の使用法の如何に依り、二種の異なる階級の何れかの負擔に歸せざるを得ず。彼若し是を農業資本として、土地の耕作に投せんか、其利益を多くするの法は只だ其生產物を以前より多く己れに保留するの外に術なし。而して是は只だ地代を減少する事に依りて而已爲し得べき事なれば其負擔は終に地主に歸せざるべからず、是に反して彼れ若し其資本を商業若くは製造業に使用せんか。其利益を增加するの方法は其物品の代價を引上ぐ

るにあり。此場合に於ては租税の最後の負擔は物品の消費者に歸せざるべからず。以上は彼れが其利益の率を引上ぐる場合を想像したるものなれども、彼若し其利益を引上ぐることを欲せざれば、租税の全額を利息の上に轉嫁するの外はあらず。即ち其借受くる金錢に對して以前より少額の利子を支拂ふより他の途なきなり。一方に於て到底租税を支拂ふの外に途なければ、他方に於て是を遁るゝの途を發見するの止を得ざるに至るなり。

皮相の見を以てすれば、金利も地代と同じく直接に課税の目的たることを得べきに似たり。地代と同じく資本の使用に伴へる危險と困難とを充分に辨償したる後に殘れる純粹の收入なり。農夫の資本を回收し、且つ相當の利益を收めたる後に殘る所の純收入は租税を課せられたる後と雖も、其以前より大なること能はざるが故に、地代に課する租税は地代を高むること能はざるが如く、同一の理由に依り、金利の上に課せられたる租税は利率を高むること能はず。

一國に於ける資金即ち貨幣の分量は土地の分量と同じく租税を課せられた

る後も其以前と更に異なることなきなり。利益の普通の率は事業の分量と是に使用さるべき資金の分量との比例に依りて定まるべきことは第一卷に於て是を說明せるが如し。然れども事業即ち資本に依りて爲さるべき業務の分量は金利に課せられたる租税のために增減することなし。是故に若し使用さるべき資本の分量にして增減することなくんば、普通の利益も亦た必す同一なるべき筈なりとす。然れども資本使用主の危險と困難を賠償するに必要なる利益の部分も亦た其危險と困難の變化せざる間は同一なるべし。是故に資本の所有主に屬して利息を拂ふべき部分も亦た必す同一ならざるべからず。故に皮相の見を以てすれば金利も亦た地代と同じく直接に課税の目的物たるに最も適當せるものなりと思はれざるにあらず。

然りと雖も金利と地代との間には二箇の異なる事情あり。是を明かにせば自から金利の地代の如く直接課税の好目的物にあらざることを了解するを得べし。

第一、人の所有する土地の分量と價格とは、是を秘密に附すること能はず。最も正確に是を評定することを得るに反し、資本の多寡は常に秘密に屬し、正確に是を計量すること能はざるのみならず、斷へず變動して一定不變なること能はず。……商人の私經濟に屬することを穿鑿し、課稅の目的のために、常に其增減を監視するが如きことは何人も到底堪へ得る所にあらず。

第二、土地は是を移動すること能はざれども、資本を移動することは極めて容易なり。土地の所有者は其土地の屬する國の市民なれども、資本の所有者は適當に云へば世界の住民にして、或一國に限定せられず。彼若し或國に於て重稅を課せられ、又た其目的のために彼れが財產を調査さるゝが如き非常の面倒あるに於ては、彼は斯の如き面倒と損失なくして、自由に其商業を營み、其富を享受し得る他の國に其資本を移動することを得べし。斯の如く其資本を移動することに由りて、彼れが其國に於て維持せし一切の產業を中止することを得るなり。……

特種の營業の利益に課する租稅

或國々に於ては或特種の商業に使用されたる資本の利益に對して特別に課稅することあり、又た時としては農業に使用さるゝ資本の利益に對して課稅することあり。……

然れども或特種の商業に使用せられたる資本の利益に對する租稅は決して其商人の負擔に歸することなし。——彼は普通の場合に於ては、相當の利益を得ざるべからず、而して自由競爭の行はるゝ所に於ては、其相當の程度を超ゆることと稀なり。——是を負擔するものは即ち消費者なり、彼は商人の豫め支拂へる租稅をば其購買する物品の代價に於て是を支辨す。而かも常に其稅額以上を支辨せしめらるゝなり。

此種の租稅は其商業の多寡に比例して課せらるゝ場合には、消費者の負擔に歸し、更に商人を煩はすことなし。是に反して其商業高に比例せず、凡ての商人に區別なく一般に課せらるゝ時は、其租稅の消費者の負擔に歸することは同

一なれども而かも巨商に利益して小賈を壓迫するの傾向あるを免かれず。……佛蘭西にて箇人税と稱するもの、是れ恐らくは歐洲に於て農業に使用せられたる資本の利益に課せる租税中の最も重要なるものなりとす。……特種の商業の資本に課税せらるゝ場合に於ては、商人等は何れも其税額を回收し得べき代價を以て賣却し能ふより多くの物品を市場に持ち來さざる樣に注意すべく、彼等の或者は其資本を他の業務に轉ずるもあるべく、斯くて市場に於ける物品の供給は以前よりも少かるべし。隨て物價騰貴し、租税の最後の負擔は消費者の上に歸すべし。是に反して租税の農業の利益に課せらるゝ場合に於ては、其資本の一部分を其使用より引退くるは決して農夫の利益にあらず。農夫は各一定量の土地を有し、是がために地代を拂ひつゝあり。此土地を適當に耕作せんがためには一定額の資本を要す。若し此必要の資本の一部分を引き去らば、農夫は其地代と租税を負擔すること愈〻困難なるに至らん。租税を支拂はんがために其生産の分量を減じ、以前よりも少量の物品を市場に

供給することは農夫に取りては何の利益もなきことなりとす。是故に租税のために農夫は其生産物の代價を引き上ぐること能はず。即ち消費者に其負擔を轉嫁せしむることに依りて、自ら辨償を受くること能はざるなり。然れども農夫も亦た他の營業者と同じく、相當の利益を收めざるべからず、然らざれば彼は其業務を拋擲するの外なきなり。而して斯の如き租税を課せられながら、以前に等しき利益を得んと欲せば、地主に拂ふべき地代を減少するの外に途なし。彼れが租税として徵收せらるゝ丈けは、必ず地主に對して其地代の支拂を減少せざるべからざるなり。斯の如き租税が土地貸借契約の期限間に課せらるゝ時は、其累を受くるものは固より農夫たるを免かれず。而かも其契約を新たにする場合には必ず地主の負擔となるは明かなりとす。……

第三款　勞働賃金に課する租税

下級勞働者の賃金は、何處に於ても、需要供給の關係と、食料品の通常代價即ち平均價格の二種の異なる事情に依りて左右さるゝ趣は、第一卷に於て是を詳

述せり。勞働に對する需要の增加しつゝあるか、靜止的なるか、抑も亦た減少しつゝあるかの事情に隨ひて、勞働者の生活情態が豐富なるか、相當なるか、或は又た窮乏なるかが決せられ、食料品の通常價格は勞働者をして其生活の必要品を買ふことを得せしめんがために、彼に支拂はるべき金錢の額を決するなり。是故に勞働の需要と食料の代價とが變動せざる間は、勞銀に對する直接の租稅は勢ひ勞働賃金をして、多少其租稅より高からしむるの外なきなり。假令へば、或所に於て勞働の需要と、食物の代價との關係に依り、普通の勞銀として一週間五圓を支拂はれ、而して租稅として、四分の一即ち拾圓に就て貳圓を徵收せらるゝと想像せよ。假設勞働の需要と食物の代價は變動せざるも、彼は其租稅を支拂ひて後尙一週間五圓に相當する丈けの給料を得ざるべからず。然れども租稅を支拂ひて後尙彼をして斯の如き給料を有せしめんには、其勞働賃金は曾に五分の一の騰貴に止まらず、夫以上即ち四分の一も騰貴せざるべからず。其租稅の比例の如何に關らず、勞働賃金は只だ夫れと同比例の騰貴に

止まらず、必ず其比例以上に騰貴せざるべからず。若し其租稅にして十分の一ならば勞働賃金の騰貴は應さに八分の一、是故に勞銀に對する直接稅は縱令勞働者の手に由りて支拂はるゝも、適當に云へば彼によりて豫納さるゝものと云ふことを得ず。少くとも勞働の需要と食料品の平均價格の課稅前後に於て同一なる場合に於ては然りとす。凡て斯の如き場合に於ては、曾に租稅のみに止まらず、是に類する凡ての負擔は直接に彼を雇傭するものに由りて豫め支拂はるゝなり。而して其の最後の負擔者は事情の異なるに隨て異なれり。工業に從事する者の勞働賃金の斯る租稅のために高められたる場合には、其工場主に依りて立換へらるべし。彼は其物品の代價に於て、相當の利益と共に是を回收するの權利あり。故に此給料の騰貴と工場主の餘分の利益とは終に消費者の頭上に落下せざるを得ざるなり。斯の如き租稅が農業勞働者の給料を騰貴せしめたる場合には農夫に由りて立換へらるべし。彼は租稅なき以前と同數の勞働者を維持せんがために、一層多

くの資本を使用せざるべからざることゝなるなり。此資本と是に對する相當の利益を回收せんがために、彼は其生産物の分量の一層多くを自己のものとなさゞるべからず、隨て地主に對して拂ふべき地代を減少せざるべからざるなり。是故に此場合に於ける給料の騰貴は、是を立換へたる農夫の利益と共に終に地主の負擔に歸せざるべからざるなり。凡ての場合に於て勞銀に對する直稅は、時日の經過に隨て終に地代を減少せしめ、製造品の代價を騰貴せしむることゝならざるを得ず。而して其地代の減少と物價の騰貴とは適當に其租稅の地代と物價の上に及ぼす影響よりも更に大なる割合となるなり。

若し勞銀に直稅の課せられたるに關らず、是に比例して勞銀の騰貴するとなくば、是れ勞働に對する需要の減退せるが故なり。斯の如き租稅の與ふる結果は常に產業の衰微、下等勞働者に對する需要の減退、其國の土地と勞働より生ずる生產の減少等なりとす。以上の結果として勞働の代價は必ず其實際の需要の情態に比して騰貴すべき筈なり。此騰貴と是を立換へたるものゝ利益とは必ず終に地主と消費者の負擔に歸するの外なきなり。……

第四款　各種の收入に一樣に賦課せんことを目的とする租稅

消費品に課する租稅

各自の收入に比例して人頭的に課稅することの到底不可能なるがために、遂に消費品に課稅するの法を案出するに至れり。國家は直接に其人民の收入に比例して課稅するの不可能なるがために、間接に其費用の上に課稅を試むることゝなれるなり。蓋し各人の費やす所は概して其收入に比例すべしとの想像に基せるなり。而して其費用に課稅するの目的は、日常の消費品に課稅することに依りて是を達するを得るなり。

消費品は是を分つて必要品と奢侈品の二種となすことを得べし。

必要品なる語は此處には生活に缺くべからざる物品のみを意味せず。凡て一國の習慣風俗上假令下等の勞働者と雖も、是れなしには其體面を維持すべからざるが如く思考せらるゝものを含有するなり。例へば「ホワイト、シャーツ」の

如きは嚴密の意味に於ては生活の必要品と云ふべからず。思ふに希臘羅馬の人民は斯の如きものを有せずして、而かも最も愉快に生活せしならん。然れども現今に於ては歐羅巴の大部分を通じて、假令勞働者と雖も「ホワイト、シャーツ」を着けずして、公けの場所に出づることは殆んどあり得べからざることゝ思惟せられ居れり。斯の如きものすら購ふこと能はざるは非常の過失なしには陷るべからざる極端の貧困なりとして大なる恥辱とせらるゝなり。是と同じく革靴も今は習慣に依りて英國に於ては生活上の必要品となるに至れり。如何に貧困なりとて男女に關らず、革靴を着けずして公衆の場所に出づることは體面上爲し能はざることゝ成り居れり。蘇格蘭に於ては男子には必要缺くべからざるものと見做さるゝに拘らず、女子に對しては同一程度に於て必要視せられず。女子の跣足にて街路を歩行するものあるも甚だ怪まるゝことなし、佛蘭西に於ては男女共革靴を着けんことは必ずしも體面上缺くべからざることゝせられざるに似たり。勞働者中には木履を着け、若くは跣足にて街路を歩行するものあるも世人は敢て怪むことなし。是故に吾人は必要品なる語を以て只だ自然の命令に依るもの而已に限らず、一般社會の作法上の規則として、最下の社會にも必要とせられたる事物を包含するものと見做さゞるを得ず。此定義以外のものを余は奢侈品と稱す。然れども奢侈品なる語によりて、是を適當に使用するものを非難するの意毫も是なきことを明かにせざるべからず。……

勞働賃金は何處に於ても、一部は其需要に依り、一部は生活の必要品の平均價格によりて決定せらるゝが故に、平均物價の騰貴は必ず勞働賃金を騰貴せしめざるべからず。是れ勞働者をして以前と等しく、其必要品を購買することを得せしめんがためなりとす。是等の物品に對する課稅は其租稅の額に超えて其物品の代價を騰貴せしめざるべからず。何となれば租稅を立換へたる商賈は相當の利益を以て是を回收せざるを得ざればなり。是故に此種の租稅は其代價の騰貴に比例して、勞働賃金を騰貴せしむることゝなるなり。

斯の如く生活の必要品に對する課稅の影響する所は勞銀に對する直稅の影響と毫も異なる所なし。勞働者は一時彼れの手中より是を支辨すれども、長期に涉りては、是を立換ゆると云ふすらも適當ならず。即ち必ず後には騰貴せる勞銀として彼れが直接の雇傭者より支拂はるべきものなりとす。其傭主にして若し製造家ならんには勞銀の騰貴をば其利益と共に、物品の代價に於て回收せんことを勉むべく、乃ち租稅の最後の負擔者は消費者たらざるべからず。若し其傭主にして一の農夫ならんには、最後の負擔は地主の頭上に落下せざるを得ざるなり。

然れども吾人の所謂奢侈品に對する課稅に至ては、縱令貧民の使用する場合と雖も全く事情を異にす。即ち課稅せられたる物品の代價は必ずしも勞銀の騰貴を惹き起さず。……現世紀中英國に於て種々の租稅を酒類の上に課したれども、是がために勞働賃金を騰貴せしめたりと思考すること能はず。……必要品の平均代價の騰貴は、勞働賃金の同樣の騰貴に由りて償はるゝにあらざれば、必ず下等勞働者が多くの家族を扶養するの能力を減せざる能はず。隨て勞働に對する需要の增加すると、靜止的なると、將た減少するとに拘らず、必要なる勞働の需要に應するの能力を減少せざるを得ざるなり。

奢侈品に課せられたる租稅は、其課せられたる物品の代價を騰貴せしむるの傾向なし。必要品に課せられたる租稅は、勞働賃金を騰貴せしむるの結果として、自然に一般製造品の代價を騰貴せしめ、隨て其販賣高と消費額とを減少せざるを得ず。奢侈品に課せられたる租稅は最後に其物品の消費者に依りて負擔せられ、他の何れよりも報償せらるゝことなし。而して一樣に勞銀利益、地代等凡ての收入の上に落下するなり。必要品に課せられたる租稅は、其下等勞働者に影響を與ふる限り、終に一部分は其地代を減ずることに由りて、地主の負擔に歸し、一部分は製造品の代價の騰貴に由りて、富める消費者の負擔に歸するなり。而して其物價の騰貴は租稅の額のみに止まらず、遙かに其以上に達するを常とす。……